

徳島県立博物館年報

第 32 号 (令和 4 年度)

Annual Report of the Tokushima Prefectural Museum

No. 32 (for the fiscal year of 2022)

目次

徳島県立博物館の使命	2	V 情報の発信と公開	
I 展示		1. 博物館の広報活動	38
1. 常設展	3	2. テレビ・ラジオへの出演等	38
2. 企画展	6	3. インターネットによる情報提供	39
3. 特別陳列	9	4. 外部ネットワークとの連携	40
4. 館外での展示	11	5. 情報システムの概要	41
5. 常設展の活性化に向けての取り組み	12	6. 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策	41
6. 展示関係出版物	13		
II 普及教育		VI 県民協働・参画	
1. 普及行事	14	1. 博物館友の会	42
2. 学校教育支援事業	18	2. 公募ボランティア	43
3. 普及教育関係出版物	20	3. 各種事業での県民協働・参画活動の推進	44
III 調査研究		VII シンクタンクとしての社会貢献	
1. 課題調査	22	1. レファレンス業務	46
2. 日本最古級恐竜化石含有層 調査・発信プロジェクト	22	2. 各種委員会委員等の受諾	46
3. 分野別（個別）調査研究	24	3. 講師の派遣	48
4. 分野別（個別）調査研究等の館内 公表会（セミナー）	26	4. 大学教育への寄与	49
5. 科学研究費補助金等による研究	26	5. 学会・研究会等の運営への寄与	50
6. 他機関との共同研究	26	6. 博物館ネットワーク	51
7. 研究成果の公表	27	VIII 管理運営・マネジメント	
IV 資料の収集・保存と活用		1. 組織・職員	53
1. 採集資料	31	2. 予算	53
2. 購入資料	31	3. 文化の森の連携事業	54
3. 寄贈資料	31	4. 防災及び危機管理	54
4. 寄託資料	33	5. 博物館協議会	54
5. 資料の貸し出し	33	6. 各種研修会への参加	55
6. 写真・映像の提供	33	7. 視察等博物館関係来訪者	55
7. 資料の複製許可	35	IX 中期活動目標と自己評価	
8. 資料の提供	35	1. 中期活動目標	56
9. 資料の交換	35	2. 令和4年度実績と自己評価	64
10. 館蔵資料数	35	X 観覧者等統計	79
11. 資料収集委員会	35	XI 施設の概要	
12. 文献資料の収集	35	1. 沿革	86
13. 資料の保存	36	2. 施設の概要	87
		3. 博物館各室面積	89
		XII 例規	91

徳島県立博物館の使命

徳島の自然・歴史・文化の宝箱

—だれもがつどえ、楽しく学べる博物館—

徳島県立博物館は、徳島の自然や歴史、文化についての資料・情報にもとづく体験と学びの場として、県民のみなさんとともに活動していきます。

知

知と出会う博物館

博物館は徳島の自然、歴史、文化についての多様な資料やタイムリーな情報で、県民のみなさんとともに楽しく学べる場を創ります。

探

地域の魅力を探る博物館

博物館は、徳島の自然、歴史、文化について、県民のみなさんとともに調べ、新たな地域の魅力を見つけ発信します。

伝

未来にまもり伝える博物館

博物館は、徳島の自然、歴史、文化についての資料を、県民のみなさんとともに集め、「みんなの宝」としてまもり、未来に伝えます。

連

つながりを大切にし、だれもがつどえる博物館

博物館は、県民のみなさんと連携し、だれもがつどえる地域の拠点を目指します。

博物館では、効率的でバランスのよい運営を心がけながら、以上の使命を実現するために努力していきます。



徳島の自然・歴史・文化の宝箱
—だれもがつどえ、楽しく学べる博物館—

「徳島県立博物館の使命」における要素間の関係

使命と事業の関係

- 1 知 知と出会う博物館
 - (1) 展示
 - (2) 普及教育
- 2 探 地域の魅力を探る博物館
 - (1) 調査研究
- 3 伝 未来にまもり伝える博物館
 - (1) 資料の収集・保存と活用
- 4 連 つながりを大切にし、だれもがつどえる博物館
 - (1) 情報の発信と公開
 - (2) 県民協働・参画
 - (3) シンクタンクとしての社会貢献
- 5 使命の実現に向けての効率的な運営
 - (1) 管理運営・マネジメント

本文における事業の配列は、この構成にもとづいたものである。

I 展 示

博物館の展示は、主に常設展と企画展から成る。

常設展については、令和3年度に全面リニューアルを行い、3年8月9日より公開している。リニューアル後の常設展は、「徳島まるづかみ―“いのち”と“とき”のモノ語り―」をコンセプトとし、徳島の自然と歴史・文化を概観できるようにしている。また、生命の歴史や生物の多様性のテーマ・資料を深く理解できるようにしている。基本的な展示構成を定めて運用しているが、部分的な展示替えや資料の入れ替えを随時行っている。

常設展の特徴は次の4点である。

- ①実物資料との出会い：最新の調査研究や資料収集の成果を踏まえ、徳島の自然と歴史・文化を見て、触れて感じることができる展示
- ②先端技術を活用した体験：AR、VRや高精細映像を活用した体験型展示
- ③誰もが楽しめる場所：多言語解説や、音声・手話解説等に対応するアプリ、さらに多機能解説設備を用いて、誰もが快適に利用できる展示
- ④地域の交流拠点：レファレンス機能の充実や、県民の調査研究成果の発信を通して、県民とのつながりを大切にする展示

次に企画展については、専用の企画展示室を使って開催している。学芸員の研究成果に基づく地域自然史や歴史・文化の紹介、全国的あるいは世界的な広がりのある資料の展示など、様々なテーマを織り交ぜ、3年先までのスケジュールをたてて計画的に取り組むとともに、外部資金の獲得、民間との連携等予算獲得の工夫をしている。

その他、3年度に続いて、展示室内での新型コロナウイルス感染症の拡大防止に取り組んだ。

1. 常設展

(1) 常設展の構成

常設展は、徳島セクション、コレクションセクション、地球セクションの3セクションを中心に構成している。また、エントランスに位置するロビーゾーン、コミュニケーションゾーンや、各セクションをつなぐミュージアムストリートでも展示を行っている。

●ロビーゾーン

常設展の導入展示として、徳島を象徴する資料を紹介している。

- ・徳島まるづかみコレクション
- ・こどもゆさん

●コミュニケーションゾーン

博物館と利用者、利用者同士の対話、交流のための多目的スペース。学芸員の活動紹介展示、展示案内映像等を設置している。

●ミュージアムストリート

観覧者が自由に動線を選択できるよう、各コーナーをつなぐ展示を兼ねた回廊型のスペース。

●徳島セクション

常設展のコンセプトである「徳島まるづかみ」の中核を成すセクションで、徳島の自然と歴史・文化を概観できるよう、次の8つの大テーマに沿って展示を展開している。

1. 徳島恐竜コレクション
2. 地質時代の徳島
3. 先史・古代の徳島
4. 中世の徳島
5. 近世の徳島
6. 近現代の徳島
7. 徳島のまつりと芸能
8. 徳島の自然とくらし

●コレクションセクション

自然史コレクションと歴史・文化コレクションでは、テーマと期間を決めて資料を公開している。また、県民コレクションでは、県民等の自主的な学びや地域活動を支えるため、県民との協働による各種事業成果に基づき展示している。

9. 自然史コレクション
10. 歴史・文化コレクション
11. 県民コレクション

●地球セクション

化石と岩石から見た地球と生命の歴史、現在の地球で見られる多様な生物を展示している。

12. 地球と生命の歴史
13. 生物の多様性

4 展示

(2) コレクションセクションの展示替え

テーマと期間を決め、各分野の収蔵資料等により、計画的に展示替えを行っている。

①自然史コレクション

●アンモナイトの世界

令和3年度(3月1日(火))～7月24日(日)

展示資料数 65点(館蔵資料47点)

展示解説シート等 あり

国内外の古生代および中生代のアンモナイト類の化石を展示し、アンモナイト類の進化について紹介した。

●かがやく生き物プレビュー

7月26日(火)～5年度(4月2日(日))

展示資料数 20点(館蔵資料20点)

展示解説シート等 なし

5年度開催予定の企画展の内容にあわせて、身の回りの生き物がブラックライトで光る様子を紹介した。

②歴史・文化コレクション

●太布一樹皮から布をつくる手仕事一

3年度(3月15日(火))～7月18日(月・祝)

展示資料数 47点(館蔵資料18点)

展示解説シート等 あり

かつて製作された太布や太布製品、太布の製造用具、

製造技術を中心に、阿波太布製造技法保存伝承会と協働で展示した。

●藍染め温故知新

7月20日(水)～9月11日(日)

展示資料数 23点(館蔵資料23点)

展示解説シート等 あり

徳島県の特産物である染料「藍」を知ってもらうため、江戸時代から明治後期の日本各地の藍染織品を当館コレクションから紹介した。

●土器・焼物大集合

9月13日(火)～12月18日(日)

展示資料数 53点(館蔵資料41点)

展示解説シート等 あり

器としての土器・焼物に焦点をあて、年代による造形の特徴、焼成技術の違いによる特徴等を示すとともに、「やきもの」鑑賞の要点を紹介した。

●半田 敷地屋本家大久保家の漆器

12月20日(火)～5年度(4月23日(日))

展示資料数 117点(館蔵資料116点)

展示解説シート等 あり

江戸時代から大正にかけて、半田塗生産の拠点となった敷地屋本家旧蔵の漆器等を展示し、半田塗について紹介した。



「アンモナイトの世界」の展示



「藍染め温故知新」の展示



「かがやく生き物プレビュー」の展示



「半田 敷地屋本家大久保家の漆器」の展示

③県民コレクション

●みんなで調べた徳島のタンポポ

3年度(3月29日(月))～7月10日(日)

展示資料数 12点(館蔵資料12点)

展示解説シート等 なし

県民と協力して、10年間にわたり実施してきた「タンポポ調査」の成果からわかったことや、タンポポから見た徳島の自然環境を紹介した。

●発掘ボランティアと見つけた恐竜化石たち

7月12日(火)～5年度(4月16日(日))

展示資料数 67点(館蔵資料67点)

展示解説シート等 なし

県内の化石愛好家からなる発掘ボランティアと協力して取り組んでいる、徳島県勝浦町の恐竜化石含有層発掘調査を紹介した。



「発掘ボランティアと見つけた恐竜化石たち」の展示

(3) コミュニケーションゾーンでの小展示

4年度は、学芸員による活動紹介やトピック紹介を目的として、学芸員活動紹介コーナーにおいて、下表の通り展示を行った。

コミュニケーションゾーンでの小展示

展示期間	タイトル	展示資料点数等		
		資料	パネル	映像
4月5日(火) ～10月2日(日)	干潟と潮汐作用・潮汐作用でできた地層		2	
	植物を調べる・浜辺に流れつくものの調査	1	2	
	阿波魚研と調べる!園瀬川の魚たち		3	1
	谷田蒔絵の意外な事実		2	
	桶 V.S. 樽		2	
10月4日(火) ～5年度(4月2日(日))	幻の三角縁神獣鏡!?	1	2	
	南ドイツの始祖鳥の産地	1	2	
	誰でもとっても簡単藍染め	1	2	
	四国の風流踊		2	
	阿波名所図会～名所の今昔を訪ねてみよう～		2	
	徳島で見つかるワニの化石		2	
	四国遍路は、なぜ「遍路」というのか?		2	
100年前の青年活動家の日記		2		

(4) 徳島セクション・地球セクション等での展示替え

基本的な展示構成を定めて運用している「徳島セクション」、「地球セクション」等でも、随時展示替え、資料の入れ替えを行っている。4年度は次の展示替え等を行った。

●徳島恐竜コレクション

7月12日(火)～

展示資料: イグアノドン類の尾椎1点、イグアノドン類の歯1点(館蔵資料2点)

勝浦町の発掘調査で新たに発見された恐竜の化石を展示した。

●中世の徳島

随時

絵巻物等の場面替え

●徳島の自然と暮らし

1月20日(金)～5年度(7月2日(日))

「徳島ニューフェイスの魚たち」と題して、ホワイトボード壁にて、近年に県内から新たに確認された魚類を紹介し、あわせて5点の標本資料(ホシイッセンヨウジ、地下水性ミミズハゼ属の1種、オチョコナガミミズハゼ、ナンセンハゼ、ナンヨウボウズハゼ)を展示した。

(5) 博物館ロビー等での小展示

4年度は、2階エントランス、中央ロビー(鳥居龍蔵記念博物館常設展示室前)において小規模な展示を行った。定期的な展示ではないが、タイムリーなテーマがあれば実施することとしている。

●鳥居龍蔵の見た120年前の木頭

11月15日(火)～1月9日(月・祝)

展示資料数 47点(館蔵資料なし)

人類学者の鳥居龍蔵が、1901年8月に仁宇谷地方(現

6 展示

那賀町)で行った人類学的・民俗学的な調査に関する写真やスケッチ等を展示した。徳島県立鳥居龍蔵記念博物館との共催。

2. 企画展

令和4年度は、次の2回の企画展を行った。

(1) 第1回企画展「阿波の画壇をたのしむ —近世の画人と作品—」

近世の阿波では多くの画人が活躍した。彼らは狩野派、文人画系、円山・四条派、住吉派等の流派につき、あるいは独学で絵を学んで多彩な作品を生み出した。また、絵を鑑賞する人たちの層も厚くなった。

この企画展では、阿波にゆかりのある画人の作品を流派別に概観した。展示資料には画人の代表作や、初めて一般公開される作品、30年以上未公開だった作品も含まれる。誰によってどのような作品が描かれたのか、あらためて見直す機会とした。

●主催 徳島県立博物館

●期間 令和4年4月22日(金)～5月29日(日)
(開催日数33日)



「阿波の画壇をたのしむ」の展示



「阿波の画壇をたのしむ」展示解説

●会場 博物館企画展示室

●観覧料 一般200円(65歳以上100円)

高校・大学生100円 小・中学生50円

●観覧者数 1,977人

●展示構成

I. 蜂須賀家旧蔵の絵画

II. 谷田忠兵衛

III. 狩野派

IV. 文人画、円山・四条派

V. 住吉派

●展示資料数 98点(館蔵資料94点)

●マスコミによる報道件数 3件

●関連行事

①展示解説

第1回:4月24日(日) 13:30～14:30

参加者:35人

第2回:5月5日(木・祝) 13:30～14:30

参加者:23人

第3回:5月15日(日) 13:30～14:30

参加者:19人

②ワクワク体験!「軸物・巻物のとりあつかいと楽しみ方」

5月22日(日) 13:30～15:00

参加者:4人

(2) 第2回企画展「ネコ展」

ネコは、現代ではペットとして世界中で飼育されており、日本でも、ネコは伴侶動物と呼ばれ、特に近年ではその人気が高まっている。その一方で、ネコの由来や、これまでのネコと人との関係については必ずしも広く知られているとは言えない。さらには、近年のネコブームによって、様々な社会問題も引き起こされている。

この企画展では、ネコの進化の歴史や、これまでのネコと人との関係、ネコに関連する社会問題等を取り上げ、カワイイだけではない、ネコの姿や現状を紹介した。

●主催 徳島県立博物館

●期間 令和4年7月16日(土)～8月28日(日)

(開催日数39日)

●会場 博物館企画展示室

●観覧料 一般200円(65歳以上100円)

高校・大学生100円 小・中学生50円

●観覧者数 9,287人

●展示構成

I. ネコとは

II. 日本のヤマネコ

III. 様々なネコ科動物

徳島県立博物館 令和4年度企画展

阿波の画壇を たのしむ

—近世の画人と作品—

令和4年
4・22金～5・29日

文化の島総合公園 徳島県立博物館

7770-6070 徳島県徳島市八万町向南山
TEL 089-668-3036 / FAX 089-668-7197
https://museum.burimi.tokushima.jp

「阿波の画壇をたのしむ」チラシ表面

初公開作品・30年ぶりの公開作品をお楽しみください

阿波の画壇をたのしむ

近世の画人と作品

阿波の画壇では、多くの画人が活躍しました。彼らは、宮野派、文人画、円山・四條派、住吉派などの流派に属し、あるいは独学で絵を学んで、多彩な作品を生み出しました。そして、絵をなまめて楽しむ習慣のある人たちが大層に増えました。

この企画展では、阿波にゆかりのある画人の作品を、阿波の画壇を中心に展示します。展示品には、画人の代表作や、初めて一般公開される作品、30年以上公開されていない作品も多く含まれます。自らも活躍するこれらの画家を、今一度見直してみたい、思いがけない新しさに気づかされるかも知れません。

関連行事

展示期間
日曜/①4月24日(日) ②5月5日(水・祝) ③5月15日(日)
休日は12:30～14:30
会場/徳島県立博物館 1階企画展示室
定員/20名
対象/小学生から一般
事前申し込み不要。企画展観覧料が必要です。
チケットの取扱い「観覧・観物より多少のうえと差し込み券」
日時/5月22日(日) 13:30～15:00
会場/徳島県立博物館 3階 講座室
定員/20名
対象/小学生から一般(小学生は保護者同伴)
※開催は可能、または下記メールアドレスに、行楽名、参加希望者の氏名と住所(住所の省略は可)も、参加希望者はFAX番号をお書きのうえ、5月15日(日)までにお申し込みください。
(メールアドレス) mus_event@burimi.tokushima.jp

徳島県立博物館

〒770-8070 徳島県徳島市八万町向南山
TEL 089-668-3036 / FAX 089-668-7197
https://museum.burimi.tokushima.jp

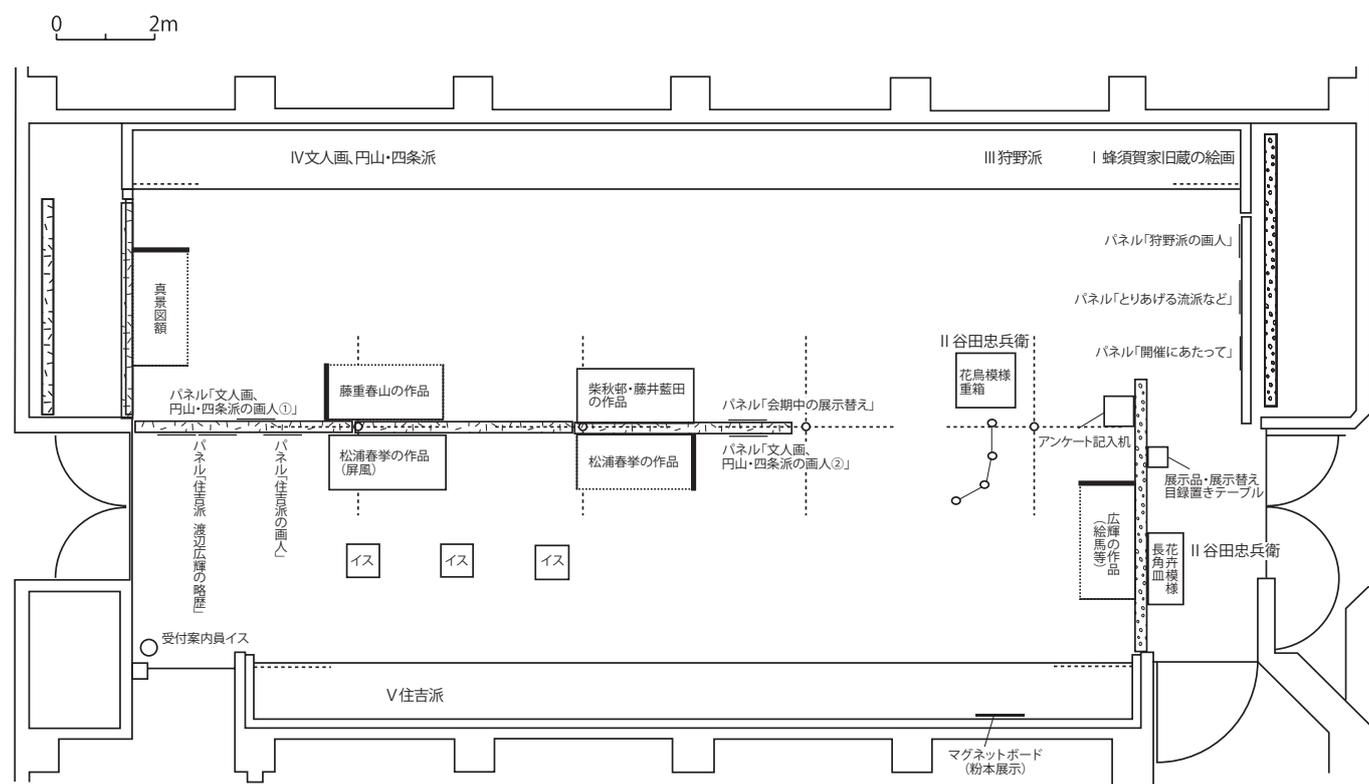
みんなおいでよ！ 友の会

博物館友の会では、博物館を積極的に利用し、自然や歴史・文化に親しみ、参加・体験することで子どもから大人まで楽しく学んでいます。多くの方のご入会をお待ちしています。

〇年会費 個人会員 2,000円 家族会員 3,000円 (10月～3月の半年会員は半額)
〇会員の特典 博物館の常設展・企画展の観覧料が無料になります。
雑誌物販内、博物館ニュース、会報等をお届けします。
友の会行事に参加できます(一部参加料が必要です)。
友の会の出版物やミュージアムショップの品物を割引価格で購入できます。

徳島県立博物館友の会
〒770-8070 徳島県徳島市八万町向南山
徳島県立博物館
TEL 089-668-3036 / FAX 089-668-7197

「阿波の画壇をたのしむ」チラシ裏面



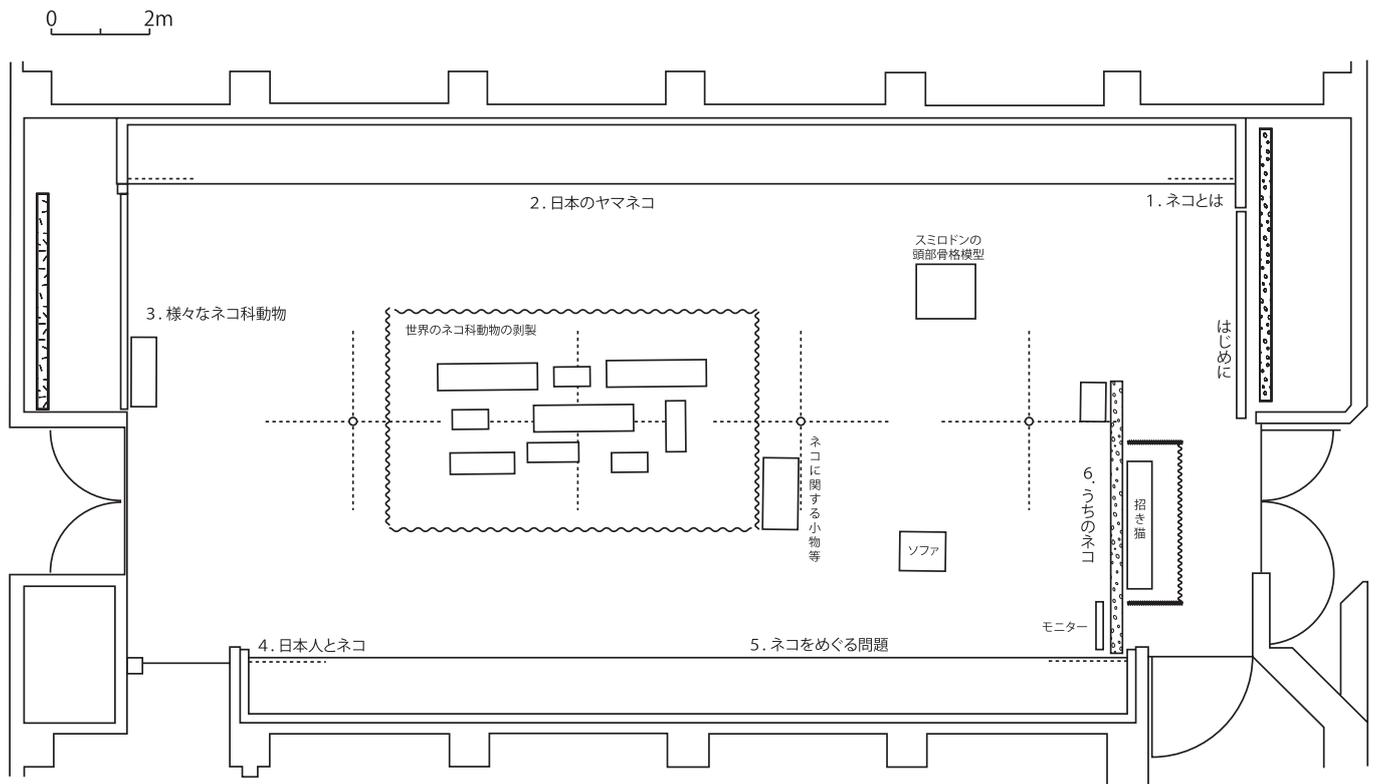
「阿波の画壇を楽しむ」の展示配置



「ネコ展」チラシ表面



「ネコ展」チラシ裏面



「ネコ展」の展示配置

- IV. 日本人とネコ
- V. ネコをめぐる問題
- VI. うちのネコ

●**展示資料数** 111点（館蔵資料100点）

●**マスコミによる報道件数** 5件

●**展示解説**

第1回：7月30日（土） 13：30～14：30

参加者：25人

第2回：8月6日（土） 13：30～14：30

参加者：43人



「ネコ展」の展示



「ネコ展」 展示解説

3. 特別陳列

(1) 阿波の旅人―旅と名所の江戸時代―

江戸時代は、「旅が大衆化した時代」といわれる。身分や階層、年齢、性別を問わず、多くの人びとが寺社参詣や湯治、物見遊山等の旅を行うようになった。阿波国（徳島県）では、四国遍路をはじめとする多様な信仰・巡礼の旅が盛んになり、さらに旅の発展とともに各地で名所が成立していった。

この展示では、阿波を行き交う旅人や阿波を出発し他地域へとおとずれた旅人に焦点をあて、「阿波の旅人」がのこした旅日記や納経帳等、関連資料を紹介した。

●**主催** 徳島県立博物館

●**期間** 令和4年10月15日（土）～11月27日（日）（開館日数38日）

●**会場** 博物館企画展示室

●**観覧料** 無料

●**観覧者数** 5,338人

●**展示構成**

I. 信仰・巡礼の旅

- (1. 四国遍路 2. 金毘羅参り 3. 西国巡礼 4. 伊勢参り)

II. 旅の諸相

- (1. 行商・生業の旅 2. 武士の旅)

III. 名所の成立

- (1. 阿波の名所 2. 各地の名所)

●**展示資料数** 270点（館蔵資料231点）

●**展示解説シート等** あり

●**マスコミによる報道件数** 8件

●**関連行事**

展示解説

第1回：10月15日（土） 13：30～14：30

参加者：31人

第2回：10月30日（日） 13：30～14：30

参加者：27人

第3回：11月12日（土） 13：30～14：30

参加者：43人

第4回：11月12日（土） 15：00～15：45

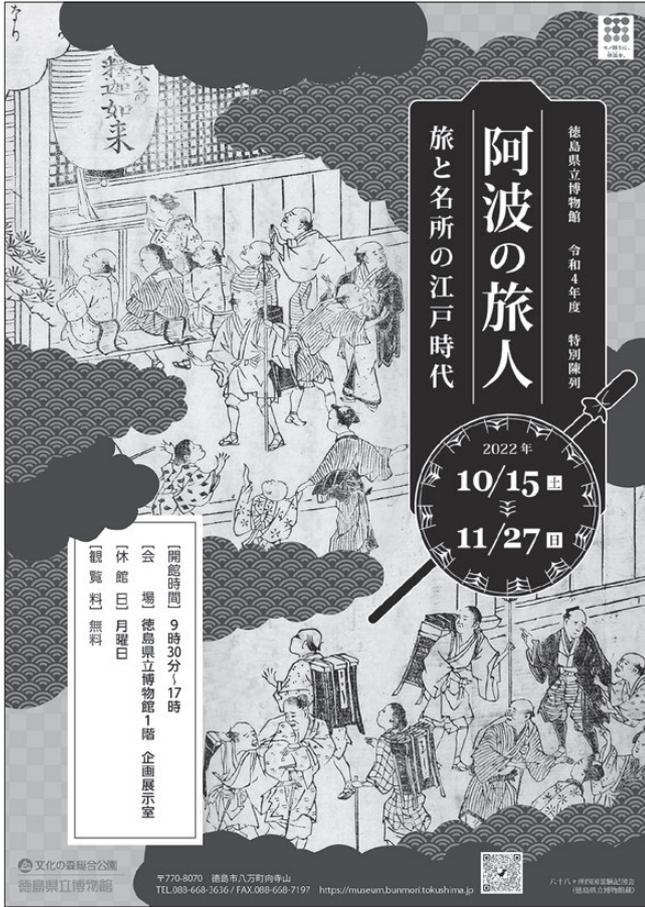
参加者：18人

第5回：11月27日（日） 13：30～14：30

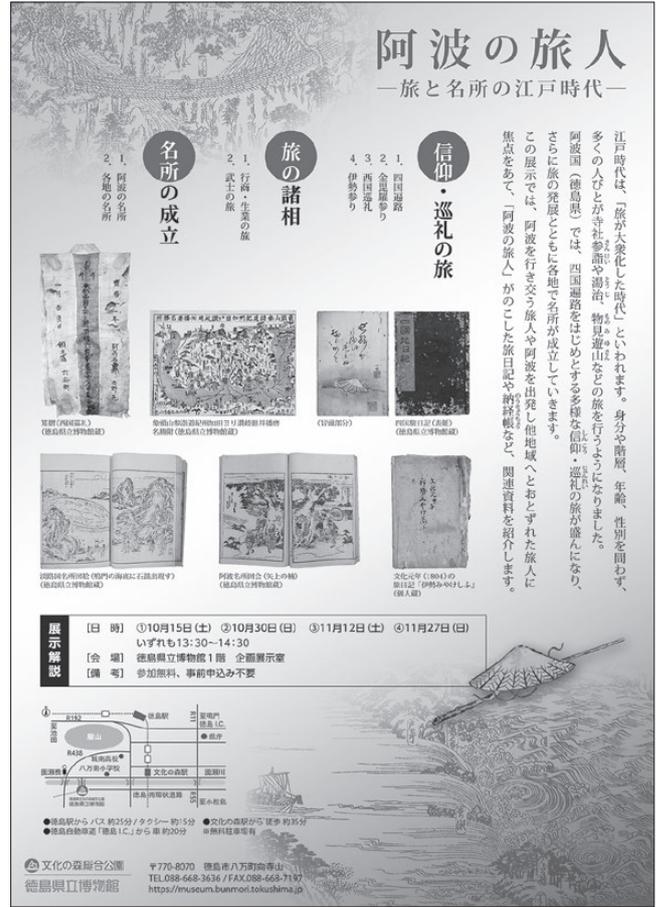
参加者：44人



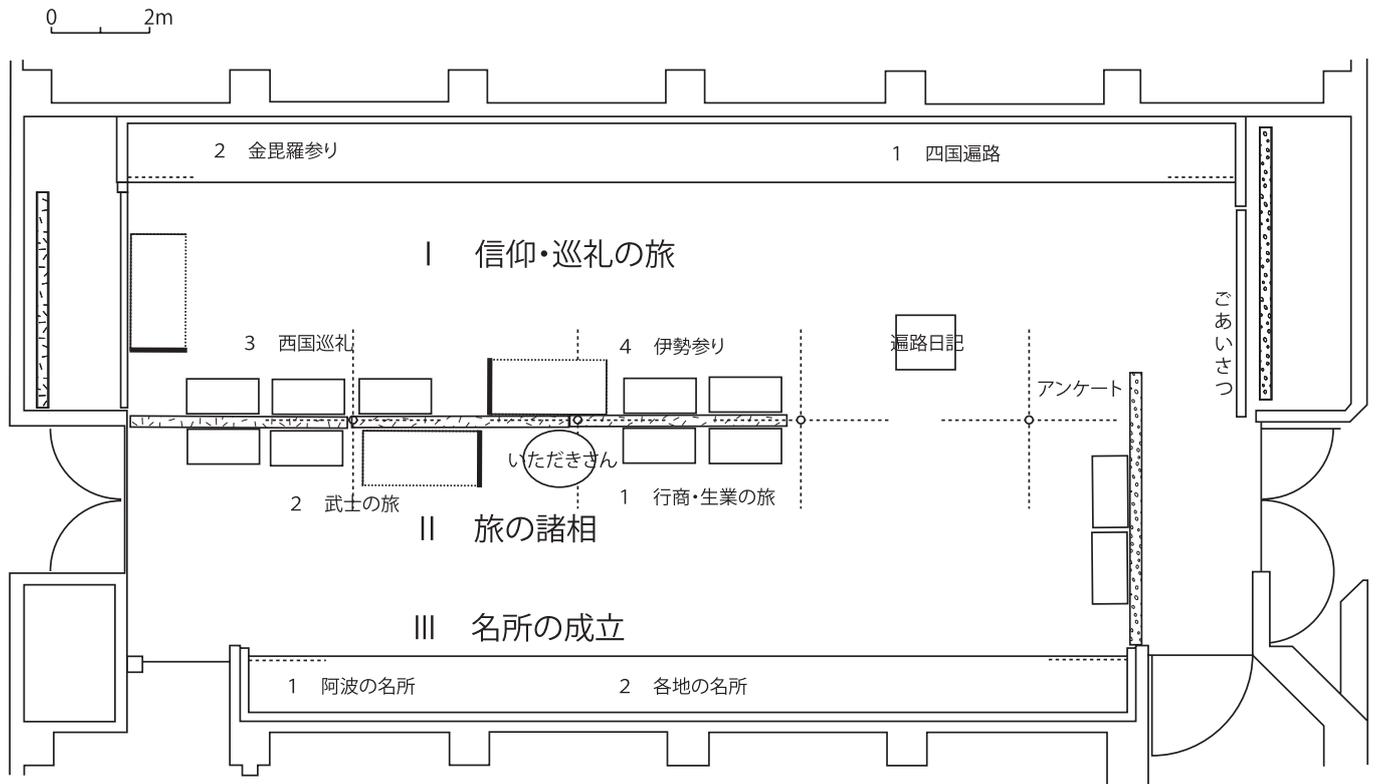
「阿波の旅人」 展示解説



「阿波の旅人」チラシ表面



「阿波の旅人」チラシ裏面



「阿波の旅人」の展示配置

(2) 鳥居龍蔵をめぐる人々—世界に広がる学知のネットワーク—

鳥居龍蔵（1870～1953）は、十代の後半から人類学に興味を持ち、1890（明治23）年、20歳のときに故郷徳島を離れて東京に移り、研究者としての第一歩を踏み出した。そして、研究を進める中で、学界や在野の研究者、研究や生活を支援する政財界の人々等との関係を広げ、「学知のネットワーク」を形成していった。それは、彼の研究活動の拡大に伴い海外にまで及んだ。

この展示では、鳥居の学問を支えた「学知のネットワーク」に位置づけられる人々を取り上げ、鳥居との交流について紹介した。

- 主 催 徳島県立鳥居龍蔵記念博物館、徳島県立博物館
- 期 間 令和5年2月4日（土）～3月12日（日）
（開館日数32日）
- 会 場 博物館企画展示室
- 観覧料 一般200円（65歳以上100円）
高校・大学生100円 小・中学生50円
- 観覧者数 1,247人
- 展示構成
 - 第1章 学界の人々
 - 第2章 在野の研究者たち
 - 第3章 故郷の人々
 - 第4章 政財界の人々
 - 第5章 海外の研究者たち
- 展示資料数 108点（館蔵資料2点）

(3) 2022年度文化の森人権啓発展

文化の森6館と徳島県教育委員会人権教育課との共催で、人権啓発展（識字学級生の作品を中心とする展示）を行った。

- 主 催 文化の森6館、徳島県教育委員会人権教育課
- 期 間 令和4年12月7日（水）～12月13日（火）
- 会 場 近代美術館ギャラリー（展示）
ミニシアター（ビデオ上映）
- 観覧者数 262人

4. 館外での展示

(1) 展示パッケージの貸し出し

県内の博物館等の支援及び収蔵資料の展示機会の増加を図るため、必要に応じて展示パッケージ（テーマに応じた展示資料、ラベル等のセット）の貸し出しを行っている。令和4年度は貸し出しがなかった。

(2) 移動展

収蔵資料の活用を促進するため、当館が主体となって展示を企画・構成する移動展にも取り組んでいる。4年度は移動展が4件あった。

- サテライト展示「勝浦町周辺の恐竜時代の地層と化石」
 - 主 催 徳島県立博物館
 - 期 間 4月1日（金）～5年度
 - 会 場 かんきつテラス徳島
 - 展示資料数 7点（館蔵資料7点）
- 漂着物展
 - 主 催 徳島県立博物館、美馬市立図書館
 - 協 力 うずしおクリーンアップ、とくしま海の観察会
 - 期 間 7月22日（金）～8月31日（水）
 - 会 場 美馬市立図書館
 - 観覧者数 9,505人
 - 展示資料数 150点（館蔵資料100点）



「漂着物展」展示作業の様子

●鳥居龍蔵の見た120年前の木頭

- 主 催 那賀町木頭図書館、徳島県立鳥居龍蔵記念博物館、徳島県立博物館
- 後 援 那賀町教育委員会、徳島新聞社
- 期 間 8月6日（土）～9月10日（土）
- 会 場 木頭文化会館ロビー
- 観覧者数 87人
- 展示資料数 47点（館蔵資料なし）
- 特別講演
 - 「鳥居龍蔵の木頭調査について」
講師 石井伸夫氏（徳島県立鳥居龍蔵記念博物館）
 - 「木頭の太布について」
講師 磯本宏紀（当館）
 - トークセッション「木頭の太布」

12 展示

日時 8月14日(日) 13:00～15:00

会場 木頭文化会館

参加者数 44人

●ビーチコーミング DE 松茂の Sea を See ろう

主催 松茂町歴史民俗資料館・人形浄瑠璃芝居資料館

協力 徳島県立博物館、とくしま海の観察会

期間 10月12日(火)～12月3日(土)

会場 松茂町歴史民俗資料館・人形浄瑠璃芝居資料館

観覧者数 1,893人

展示資料数 300点(館蔵資料50点)



「ビーチコーミング DE 松茂の Sea を See ろう」の展示

5. 常設展の活性化に向けての取り組み

(1) リニューアル後の検討

令和3年8月の常設展の公開・運用開始から8か月後の4月に、来館者の意見や反応を踏まえたうえで、常設展の課題や改善策について検討を行った。

日時：4月26日(火) 10:00～15:30

場所：博物館講座室及び展示室



化もの絵巻 AR

内容：常設展の課題と改善策の検討

参加者：博物館職員、乃村工藝社社員

アドバイザー：染川香澄氏(ハンズ・オンプランニング)

塩瀬隆之氏(京都大学総合博物館)

山田小百合氏(NPO 法人 Collable)

(2) 常設展の改修・改善

4年度は「博物館誘客強化事業」の一環として、デジタルコンテンツの拡充やインバウンド向けガイドマニュアルの作成等を行った。なお、本事業には文化庁・文化芸術振興費補助金(文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業)を活用した。

①「化もの絵巻 AR」の制作および運用

常設展でパネル展示を行っている館蔵の「化もの絵巻」について、中世～近世の絵巻物や信仰・文化への理解を深めることを目的に、オリジナルの AR コンテンツを制作した(2月3日運用開始)。

②インバウンド向けガイドマニュアル(シナリオ)等の作成・印刷

海外からの来館者(団体ツアー)に対して、さらなる利便性の向上を目的に、常設展に関するガイドマニュアルとパンフレットを作成・印刷した。

③低反射フィルムの貼付

常設展「徳島の自然と暮らし」のジオラマ(「ブナ林」と「県南の海底」)について、来館者がより臨場感を持って資料を観察する環境を整えることを目的に、ガラス面(外側と内側のガラス全面)に低反射フィルムを貼付した。

④顔出しパネルの制作

常設展「徳島の自然と暮らし」で展示している資料(「いただきさん」の模型)について、来館者が資料に親しみを抱いてもらうとともに、集客の向上や利用者間の交流促進を目的に、顔出しパネルを制作した。

(3) 常設展の運用における各種の取り組み

4年度は、3年度に引き続き、常設展示室内での「遊山ナビ」(多言語・音声解説等の機能をもつアプリ)の運用やタブレットの貸し出しを行った。なお、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、対面による活動等への制約が大きく、展示室内での大規模なイベント等は制限を設けて実施した。主な取り組みは以下の通りである。

①コレクションセクションにおける多様な展示の開催

自然史コレクション、歴史・文化コレクション、県民コレクションでは、各分野のテーマを織り交ぜて8回の展示(自然史2回、歴史・文化4回、県民2回)、

5回の展示替えを行った（p.4～5参照）。

②コミュニケーションゾーンにおける展示、イベントの展開

学芸員活動紹介コーナーでは、各学芸員が担当してパネル展示等を行った。4年度は2回の展示を行った（p.5参照）。

また、文化の森秋祭り（11月3日）と文化の森ウインターフェスティバル（2月11日）のイベントにおいて活用した（p.17参照）。

③ロビーゾーン「こどもゆさん」の利用休止

低年齢の子どもが利用しやすいよう旧常設展の「キッズ・チャレンジコーナー」を引き継ぎ、新常設展ロビーゾーンに「こどもゆさん」を設置した。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、常設展オープン当初より利用を見合わせている。

④徳島セクションでの参加型展示・対話型展示

- ・「先史・古代の徳島」では、県内の遺跡情報、展覧会情報等を、随時更新・発信するコーナーを設置し、運用している。
- ・「徳島のまつりと芸能」では、身近な祭り等の情報を記入してもらうコーナーを設置し、運用している。
- ・「徳島の自然と暮らし」では、観覧者にコメント記入や投票により参加してもらうことのできるコーナーを設置し、運用している。

⑤展示解説等の促進

歴史・文化コレクション「太布」、「藍染め温故知新」、「土器・焼物大集合」、「半田 敷地屋本家大久保家の漆器」で展示解説を行った。

⑥日本生命財団「展示案内」の検討

3年度に採択された、公益財団法人日本生命財団の出版助成による「展示案内」について、全体の構成について検討を行うとともに、資料の写真撮影や原稿の執筆を行った。

⑦展示解説シート等の配布

自然史コレクション「アンモナイトの世界」、歴史・文化コレクション「太布」、「藍染め温故知新」、「土器・焼物大集合」、「半田 敷地屋本家大久保家の漆器」で展示解説シートを設置し、配布した。

⑧手話解説アプリの一般配布

常設展で運用している手話解説アプリを、「徳島県立博物館手話ツアー」としてiOS用にリリースした。

(4) その他

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、3年度に引き続き、展示室における対策を行った。受付カウンターへのアクリル製パーティションの設置、展示室入口への非接触型検温器、手指消毒用アルコール、

次亜塩素酸空間除菌機等の設置、職員等のマスク着用、手指消毒の徹底等の対策を行った。来館者に対しては、マスクの着用、手指消毒、検温、入場制限、連絡先の提供、ソーシャルディスタンスの徹底等、展示室内での各種対策への協力をお願いした。

6. 展示関係出版物

●企画展図録「阿波の画壇をたのしむ—近世の画人と作品—」

編集・発行 徳島県立博物館

令和4年4月22日発行

A4判 86ページ、500部

友の会増刷 200部

●常設展案内英文リーフレット Quick overview

令和5年3月31日発行

A4判三つ折り、10,000部

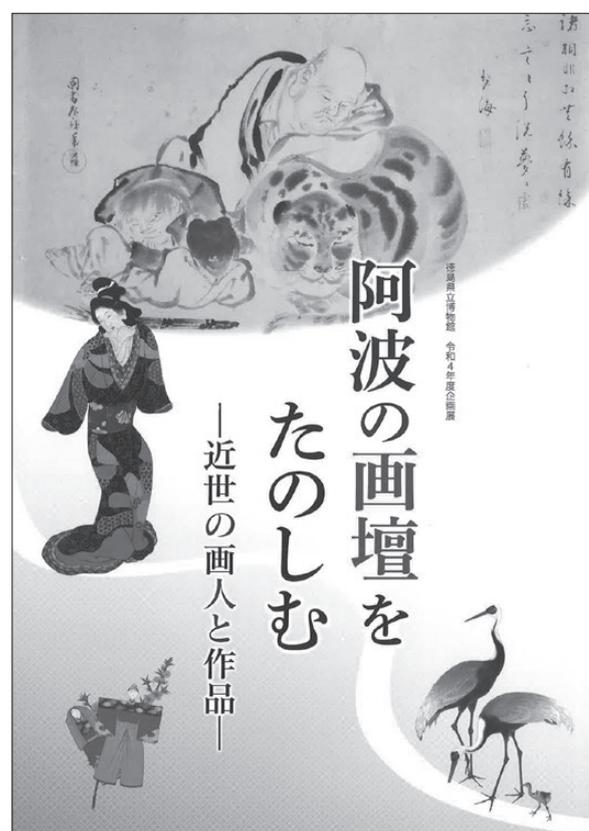
簡単な常設展案内及び利用案内を掲載。

●外国人ツアーガイド用常設展英文マニュアル Manual for Tour Guide

令和5年3月31日発行

A4判 26ページ、2,000部

外国人の視点による常設展の見どころ及び案内を掲載。



「阿波の画壇をたのしむ」図録の表紙

Ⅱ 普及教育

普及教育事業、とくに普及行事は「開かれた博物館」をめざし、館員が県民と直接交流できるよい機会であることから、力点をおいて取り組んでいる。

令和4年度は、年間88回計画し、4回追加して92回実施した。追加の内訳は、歴史・文化コレクション「半田 敷地屋本家大久保家の漆器」の展示解説が2回、移動展「鳥居龍蔵の見た120年前の木頭」の特別講演が2回である。

新型コロナウイルス感染症の流行が影響し、普及行事の実施に際して制限はあったが、感染拡大防止に努めながら開催した。これまでの積み重ねにより、普及行事は県民のあいだにかなり定着してきている。参加者は徳島市内と近郊の在住者が多いが、県西・県南のほか、県外の香川からの参加も見られる。さらに、「歴史散歩」、「野外生きものかんさつ」、「海部自然・文化セミナー」等において遠隔地域で開催するなど、できるだけ多くの方に参加してもらえよう努めている。

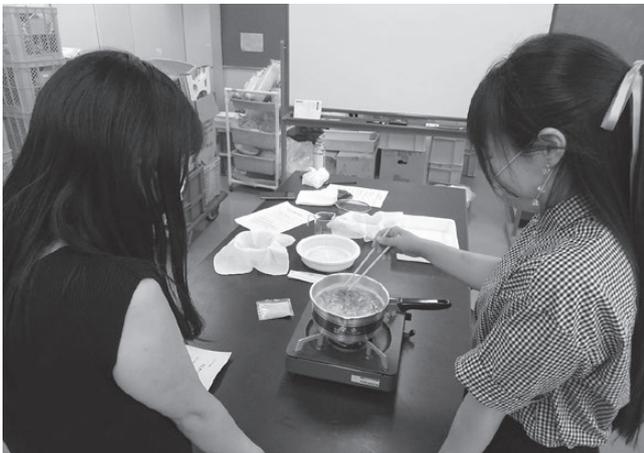
1. 普及行事

(1) 行事の開催実績

■ワクワクむかし体験

昔の人びとの生活に関係のある体験を通じて、ものの性質や当時の人びとの生活の知恵を学ぶシリーズ。

5月29日(日) ところてんをつくろう①(採集編) 18人



ワクワクむかし体験「ところてんをつくろう②」

6月12日(日) ところてんをつくろう②(調理編) 15人
 12月18日(日) 焼き物をつくろう①(成形) 24人
 1月15日(日) 焼き物をつくろう②(焼成) 18人

■歴史散歩

県内外の遺跡、町並み、建造物等を見学して回るシリーズ。

7月3日(日) 徳島大空襲の史跡を歩こう 19人
 10月16日(日) たんけん!若杉山辰砂採掘遺跡 7人
 11月13日(日) 小松島民俗探訪 15人

■野外生きものかんさつ

野外に出かけて、季節に応じた動植物の観察を行うシリーズ。

4月23日(土) 中級クラス植物観察会4月 16人
 4月24日(日) 初めての植物かんさつ(春編) 27人
 5月8日(日) 川魚かんさつ初夏編 12人
 5月8日(日) 花巡り!植物かんさつハイキング 5月~風薫る季節を体感~ 14人
 6月5日(日) 初めての植物かんさつ(梅雨期編) 41人
 6月19日(日) 中級クラス植物観察会6月 11人
 7月2日(土) 花巡り!植物かんさつハイキング 7月~山開き自然の中へ~ 18人
 7月24日(日) 川魚かんさつ夏編 15人



歴史散歩「徳島大空襲の史跡を歩こう」

7月31日(日)	漂着物を探そう!	62人
9月25日(日)	花巡り!植物かんさつハイキング 9月~秋の七草探してみませんか?~	16人
10月16日(日)	川魚かんさつ秋編	17人
10月22日(土)	中級クラス植物観察会 10月	16人
11月20日(日)	花巡り!植物かんさつハイキング 11月~植物の冬支度を見に行こう!~	20人
12月4日(日)	初めての植物かんさつ(冬編)	30人
1月29日(日)	初めての植物かんさつ(新春編)	39人
2月12日(日)	中級クラス植物観察会 2月	16人
3月26日(日)	初めての植物かんさつ(早春編)	34人

■みどりを楽しもう・味わおう

さまざまな材料を使い、遊びの要素を取り入れた実習を通して自然を学ぶシリーズ。

5月15日(日)	とっても簡単!草木染めにチャレンジ	14人
7月31日(日)	インジゴで遊ぼう	9人
8月28日(日)	光る花や貝をさがそう	21人
10月23日(日)	ドングリでピザをつくろう	21人
12月11日(日)	リースをつくろう	22人

■たのしい地学体験教室

地層や化石、岩石・鉱物等の野外観察や室内での実習を通して自然を学ぶシリーズ。

5月15日(日)	徳島市中心部の地質見学	16人
5月22日(日)	恐竜化石を探そう! 5月	17人
7月16日(土)	恐竜化石を探そう! 7月	18人
8月6日(土)	化石のレプリカをつくろう	19人
10月9日(日)	鉱物を探そう!「愛媛県」	28人
2月26日(日)	貝化石標本をつくろう	5人
3月19日(日)	恐竜化石を探そう! 3月	20人

■生きものしらべ隊

昆虫や植物、化石等の調べ方を学び、自然の専門家をめざすシリーズ。

6月19日(日)	スンプでかんたん顕微鏡かんさつ	13人
8月7日(日)	魚類の頭骨標本をつくろう	14人

■ミュージアムトーク

学芸員が各自の研究テーマや身近な話題について話すシリーズ。

4月24日(日)	ゼロから始める植物学~植物用語編~	21人
6月5日(日)	ゼロから始める植物学~名前の調べ方編~	14人
7月17日(日)	ゼロから始める植物学~標本の作り方編~&初めての植物かんさつ(夏編)	23人
7月17日(日)	恐竜と生きたワニたち	25人
8月11日(木・祝)	福井県立恐竜博物館連携講座 日本の古い哺乳類化石と発掘	29人
12月4日(日)	ゼロから始める植物学~植物の名前編~	16人
1月29日(日)	ゼロから始める植物学~標本整理編~	16人
1月29日(日)	天保飢饉と徳島藩	22人
3月26日(日)	ゼロから始める植物学~植物分類学入門~	15人

■古文書で学ぶ歴史入門

古文書を読み、歴史について学ぶシリーズ。

5月21日(土)	ゼロからの古文書①	14人
6月18日(土)	ゼロからの古文書②	11人
7月16日(土)	ゼロからの古文書③	8人
9月17日(土)	古文書に親しむ①	20人
10月22日(土)	古文書に親しむ②	20人
11月19日(土)	古文書に親しむ③	18人
12月17日(土)	古文書に親しむ④	18人
1月21日(土)	古文書に親しむ⑤	20人
2月18日(土)	古文書に親しむ⑥	17人



野外生きものかんさつ「花巡り!植物かんさつ7月」

■徳島の考古学スタートアップ講座

遺跡や遺物から、先史時代の徳島を学ぶシリーズ。

8月7日(日)	徳島の考古学講座①	10人
9月18日(日)	講義・実習①	7人
10月16日(日)	若杉山辰砂採掘遺跡見学	7人
12月11日(日)	講義・実習②	9人
1月22日(日)	石井町の遺跡見学	8人
2月26日(日)	徳島の考古学講座②	8人

■海部自然・文化セミナー

学芸員が講師を務め、海陽町立博物館との共催で行う講座。全4回のうち1回は海陽町立博物館職員が講師を担当した。

6月26日(日)	徳島県の恐竜化石発掘調査	1人
7月24日(日)	昔の絵の見方入門	2人
8月21日(日)	徳島における江戸時代以降の刀鍛冶紹介	4人
9月25日(日)	若杉山辰砂採掘遺跡と海陽町の遺跡	23人

■企画展・特別陳列等関連行事

企画展や特別陳列等の開催中に、展示解説等を行った。

●企画展「阿波の画壇をたのしむ—近世の画人と作品—」関連行事

4月24日(日)	企画展「阿波の画壇をたのしむ—近世の画人と作品—」展示解説	35人
5月5日(木・祝)	企画展「阿波の画壇をたのしむ—近世の画人と作品—」展示解説	23人
5月15日(日)	企画展「阿波の画壇をたのしむ—近世の画人と作品—」展示解説	19人
5月22日(日)	ワクワク体験!「軸物・巻物のとりあつかいと楽しみ方」	4人

●企画展「ネコ展」関連行事

7月30日(土)	企画展「ネコ展」展示解説	25人
8月6日(土)	企画展「ネコ展」展示解説	43人

●特別陳列「阿波の旅人」関連行事

10月15日(土)	特別陳列「阿波の旅人」展示解説	31人
10月30日(日)	特別陳列「阿波の旅人」展示解説	27人
11月12日(土)	特別陳列「阿波の旅人」展示解説	43人
11月12日(土)	特別陳列「阿波の旅人」展示解説	18人

11月27日(日)	特別陳列「阿波の旅人」展示解説	44人
-----------	-----------------	-----

●コレクションセクション関連行事

4月29日(金・祝)	歴史・文化コレクション「太布—樹皮から布をつくる手仕事—」展示解説	22人
7月10日(日)	歴史・文化コレクション「太布—樹皮から布をつくる手仕事—」展示解説	20人
9月18日(日)	歴史・文化コレクション「土器・焼物大集合」展示解説	12人
11月20日(日)	歴史・文化コレクション「土器・焼物大集合」展示解説	12人
12月25日(日)	歴史・文化コレクション「半田敷地屋本家大久保家の漆器」展示解説	16人
2月11日(土・祝)	歴史・文化コレクション「半田敷地屋本家大久保家の漆器」展示解説	22人
3月26日(日)	歴史・文化コレクション「半田敷地屋本家大久保家の漆器」展示解説	22人

■その他の普及行事等(博物館スペシャルなど)

●大谷座から人形のつかい方を学ぼう

4月30日(土)

大谷旭源之丞座員4名を講師に招き、コミュニケーションゾーンにおいて、お鶴・お弓の人形の使い方を体験した。

参加者：35人

●文化の森こどもの日フェスティバル

5月5日(木・祝)

文化の森6館による春季の共同イベントで、各館を回るウォークラリーを実施した。博物館では、バックヤード見学(地学分野)、体験コーナー「飛ぶタネ・浮



歴史・文化コレクション「土器・焼物大集合」展示解説

かぶタネ」、常設展「近世の徳島」の展示解説を行った。

参加者：1,045人

●とくしま藍の日スペシャル 藍のはっぱで遊ぼう

7月24日(日)(とくしま藍の日)

タデアイを使い、藍染めについて体験的な活動を行った。

参加者：41人

●移動展「鳥居龍蔵の見た120年前の木頭」特別講演

8月14日(日)

那賀町木頭図書館、鳥居龍蔵記念博物館と共催し、木頭文化会館で「鳥居龍蔵の木頭調査について」、「木頭の太布について」の順に講演を行った。

参加者：33人

●標本の名前を調べる会

8月20日(土)

毎年8月に行う恒例の行事で、学芸員のほか4名の外部講師の応援を得て実施した。単に名前を教えるだけでなく、一緒に調べる姿勢で取り組むよう留意している。

参加者：30人

●文化の森サマーフェスティバル

8月21日(日)

文化の森6館による夏季の共同イベントで、各館を回るウォークラリーを実施した。博物館では、実演「勝浦町の化石クリーニング」、自然史コレクション「かがやく生き物プレビュー」の展示解説、歴史・文化コレクション「藍染め温故知新」の体験付き展示解説を行った。

参加者：449人

●文化の森秋祭り

11月3日(木・祝)

文化の森6館による秋季の共同イベントで、各館を回るウォークラリーを実施した。博物館では、ボランティアスタッフとの協働による体験コーナーとして「タネは空を飛ぶ」、「はにわパズルをくみたてよう!」、「化石を触ってみよう」を行った。

参加者：1,776人

●「鳥居龍蔵の見た120年前の木頭」文化の森展特別講演

11月27日(日)

鳥居龍蔵記念博物館と共催し、外部講師2名とともに「木頭の太布」、「木頭民俗調査に参加して」、「鳥居龍蔵の木頭調査」の順に講演を行った。

参加者：28人

●文化の森ウィンターフェスティバル

2月11日(土・祝)

文化の森6館による冬季の共同イベントで、各館を回るウォークラリーを実施した。博物館では、歴史・文化コレクション「半田 敷地屋本家大久保家の漆器」の展示解説と、ボランティアスタッフとの協働による「博物館Vキング」のイベント「100年後の「あなた」

に伝えたい!わたしの大切な「モノ」、「博物館で絵本読み聞かせ」、「恐竜化石含有層から発見された化石を観察してみよう!」を行った。(詳細はp.43~44参照)

参加者：2,266人



文化の森ウィンターフェスティバル

●鳥居龍蔵記念 徳島歴史文化フォーラム

2月18日(土)

鳥居龍蔵記念博物館との共催。少年時代に徳島の歴史や文化についてフィールドワークを行い、後に世界的な研究活動を展開した鳥居龍蔵を記念し、中学生・高校生による自主的な歴史文化研究の支援と人材育成のため、平成28年度から実施している。今回で7回目となり、研究レポート(鳥居龍蔵研究、地域研究)を公募し、フォーラム(発表会)での口頭発表をもらった上で、優れた成果を表彰した。中学生4組、高校生3組の計7組が研究発表を行い、すべてを表彰対象とした。

参加者：46人

●クイズラリー

毎月第2土曜日を基本に、高校生以下が対象のクイズラリーを実施している(常設展リニューアル等のために2年9月から休止していたのを再開したもの)。この行事は、子どもたちがクイズ等を通して博物館に親しみ、自然や歴史・文化に対する好奇心を高め、自ら学ぼうとする意欲を育むことを目的としている。参加者全員に記念品を贈呈している。

9月10日 71人(未就学41、小28、中1、高1)

10月8日 34人(未就学24、小9、中1、高0)

11月12日 44人(未就学28、小16、中0、高0)

12月10日 36人(未就学21、小14、中1、高0)

1月14日 82人(未就学58、小22、中1、高1)

2月25日 43人(未就学25、小14、中3、高1)

3月11日 35人(未就学19、小11、中5、高0)

参加者合計 345人

(未就学216・小114・中12・高3)

(2) 行事の申し込み方法の改善

普及行事の申し込みの際、電子メールでの申し込み受付を開始した。また、ホームページでの受付が可能となるようにメールフォームを用いた普及行事受付システムの開発を行い、5年度より運用できるよう動作テストを行った。

2. 学校教育支援事業

博物館は本来、実物資料に基づく体験的な学習ができる場であり、学校教育にとっては遠足での見学以外にも様々な活用ができる施設である。また、学習指導要領にも、博物館等の社会教育機関の活用が明記され、博物館に対しても積極的な学校教育への支援が要請されている。

当館でも、学校の授業での博物館利用への支援（館内授業）、学校の授業への講師派遣（出前授業）、博物館資料の学校への貸し出し、職場体験の受け入れ等を積極的に行っている。

学校へ定期的に案内パンフレット等を配布することにより、博物館の学校教育支援事業が周知されつつある。令和4年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の防止対策が徐々に緩和され、館内授業や出前授業の機会は、回復傾向にあった。

(1) 学校の授業での博物館利用への支援（館内授業）

講座室や実習室、常設展示室コミュニケーションゾーンにおいて、社会や理科の授業と関連し、学年単位で博物館が利用されている。受け入れに際しては、展示資料だけでなく、必要に応じて収蔵資料を見たり触れたりしてもらうなどの体験的な活動も取り入れている。

- ①城ノ内中等教育学校（徳島市） 8月19日（金）
1～3年生 20人
課外授業（講師：森・小布施・井藤・小林・丸山）
- ②北島南小学校（北島町） 10月13日（木）
3年生 83人
かわる道具とくらし（講師：磯本）
- ③北井上小学校（徳島市） 10月21日（金）
1年生 17人
たのしい秋いっぱい（講師：茨木）
- ④川内中学校（徳島市） 1月17日（火）
1～3年生 15人
総合的な学習の時間（講師：小布施・井藤）
- ⑤八万南小学校（徳島市） 2月15日（水）

3年生 116人

社会・総合 わたしたちの市の歩み（講師：磯本）

(2) 学校の授業への講師派遣（出前授業）

学校からの依頼に応じ、学芸員を講師として派遣した。授業では教員と協働し、持参した博物館資料を活用するなどして、児童・生徒の理解を助けるよう工夫した。

- ①市立川島中学校（吉野川市） 4月27日（水）
1年生 41人
トライングトゥゲザー
（川島廃寺跡）（講師：植地）
- ②徳島文理小学校（徳島市） 5月10日（火）
6年生 40人
国づくりへのあゆみ（講師：植地）
- ③川内北小学校（徳島市） 6月24日（金）
5年生 103人
メダカのたんじょう（講師：井藤）
- ④上八万小学校（徳島市） 9月16日（金）
4年生 50人
水の大切さ、豊かさを知ろう 園瀬川について
（講師：井藤）
- ⑤北井上小学校（徳島市） 10月21日（金）
1年生 17人
植物について（講師：茨木）
- ⑥北井上小学校（徳島市） 10月27日（木）
6年生 17人
戦争の歴史に学ぶ（講師：松永）
- ⑦上八万小学校（徳島市） 11月22日（火）
6年生 46人
大地のつくりと変化（講師：辻野）
- ⑧生比奈小学校（勝浦町） 12月19日（月）
6年生 21人
戦争と人々のくらし（講師：松永）
- ⑨助任小学校（徳島市） 12月20日（火）
6年生 140人
戦争と人々の暮らし（講師：松永）
- ⑩内町小学校（徳島市） 1月17日（火）
3年生 46人
かわる道具とくらし（講師：庄武）
- ⑪川内南小学校（徳島市） 1月18日（水）
3年生 29人
昔の道具を知る（講師：庄武）
- ⑫板東小学校（鳴門市） 1月19日（木）
3年生 36人
かわる道具とくらし（講師：磯本）
- ⑬生比奈小学校（勝浦町） 1月24日（火）

- 3年生 19人
かわる道具とくらし（講師：磯本）
- ⑭山口小学校（阿南市） 1月24日（火）
3年生 9人
昔のくらし（講師：庄武）
- ⑮津田小学校（徳島市） 1月27日（金）
3年生 89人
かわる道具とくらし（講師：庄武）
- ⑯加茂名小学校（徳島市） 1月30日（月）
3年生 71人
昔の道具（講師：庄武）
- ⑰鴨島小学校（吉野川市） 2月1日（水）
3年生 61人
かわる道具とくらし（講師：磯本）
- ⑱洪野小学校（徳島市） 2月3日（金）
3年生 41人
かわる道具とくらし（講師：庄武）
- ⑲知恵島小学校（吉野川市） 2月7日（火）
3年生 22人
かわる道具とくらし（講師：磯本）
- ⑳昭和小学校（徳島市） 2月8日（水）
3年生 75人
かわる道具とくらし（講師：磯本）
- ㉑羽ノ浦小学校（阿南市） 2月8日（水）
3年生 94人
かわる道具とくらし（講師：庄武）
- ㉒吉井小学校（阿南市） 2月10日（金）
3年生 9人
かわる道具とくらし（講師：磯本）
- ㉓川島小学校（吉野川市） 2月16日（木）
3年生 26人
わたしたちの市のあゆみ（講師：磯本）
- ㉔森山小学校（吉野川市） 2月28日（火）
3年生 16人
昔の道具とくらし（講師：磯本）
- ㉕西麻植小学校（吉野川市） 2月28日（火）
3年生 19人
昔の道具（講師：庄武）

遠足等での地域別入館件数

（単位：校・園）

年度	徳島市	板野郡	鳴門市	小松島市		阿南市	名西郡 名東郡	阿波市	吉野川市	那賀郡 海部郡	美馬市 美馬郡	三好市 三好郡	県外	計
				勝浦郡	勝浦郡									
H30	49	18	4	9	17	4	5	6	5	2	2	2	2	123
R1	53	34	3	7	19	2	4	8	3	3	2	1	1	139
R2	18	3	0	5	4	1	1	0	0	2	0	0	0	34
R3	39	23	4	12	14	3	1	2	3	3	12	3	3	119
R4	53	12	8	6	18	6	3	1	5	10	7	3	3	132

(3) 遠足

保育園・幼稚園、各種学校、教育関係機関等の入館がある。学芸員や企画担当職員による常設展の解説や体験的な活動、ワークシートを使った案内などを行っている。

過去5年間の校種別入館件数、地域別入館件数は、下表の通りである。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、入館件数の減少が見られた時期があった。入館した学校は、徳島市と板野郡が半数近くを占める。当館より遠くなるにつれて少なくなるが、県下各地からの入館がある。修学旅行での入館は、県外1校であった。

また、新常設展のオープンに当たり、常設展示室コミュニケーションゾーンにおいて、遠足と館内授業を組み合わせた新しい取り組みを実施している。

(4) 博物館資料の学校への貸し出し

小・中学校及び高等学校の授業等で活用してもらうため、平成10年度から博物館資料の学校への貸し出しを行っている。貸出用資料の一層の利用促進を図るため、平成15年度末に「学校貸出用資料解説シート」を印刷し、小・中学校及び高等学校に配布した。また、来館した教職員に、必要に応じて解説シートを配布し、利用を勧めている。

①市立川島中学校（吉野川市）4月27日～5月5日
貸出資料：忌部山2号墳副葬品

使用目的：吉野川市にある西宮古墳の解説資料とするため。

②上八万中学校（徳島市） 6月14日～6月17日

遠足等での校種別入館件数

（単位：校・園）

年度	幼稚・ 保育園	小学校	中学校	高校	その他※	計
H30	37	60	3	1	22	123
R1	22	63	0	4	50	139
R2	6	19	1	0	8	34
R3	15	64	5	3	32	119
R4	32	69	9	2	20	132

※放課後児童クラブ、発達支援施設など

20 普及教育

- 貸出資料：徳島大空襲遺物 2、焼夷弾（部分）1、焼夷弾尾翼 1、写真パネル 14 計 18 点
使用目的：徳島大空襲についての理解を深めるため。
- ③海南小学校（海陽町） 11月 6日～11月 22日
貸出資料：ネパール産アンモナイト 5、マダガスカル産アンモナイト 7、ナウマンゾウ上顎臼歯レプリカ 1、クラドフレビス（シダ化石）1、三葉虫 5 計 19 点
使用目的：理科の授業・展示等
- ④助任小学校（徳島市） 12月 7日～12月 20日
貸出資料：写真パネル 10、徳島大空襲遺物 2、焼夷弾（複製）1 計 13 点
使用目的：徳島大空襲に関する学びを通して、戦争と平和について考えるため。
- ⑤宮井小学校（徳島市） 12月 12日～12月 19日
貸出資料：アンモナイトのシリコン型 12、マダガスカル産アンモナイト 3 計 15 点
使用目的：アンモナイトのレプリカ作製
- ⑥牛島小学校（吉野川市） 2月 12日～ 2月 18日
貸出資料：アンモナイトのシリコン型 8、三葉虫のシリコン型 2、マダガスカル産アンモナイト 10 計 20 点
使用目的：アンモナイトのレプリカ作製

(5) 職場体験・インターンシップ等の受け入れ

中学生・高校生及び大学生の職場体験事業等の受け入れを行い、生徒・学生に博物館業務を体験してもらうことによって、博物館に対する認識を高めることができた。

- ①城南高等学校（徳島市） 8月 2日～ 8月 3日
3年生 1人
- ②徳島文理大学（IDAY 徳島県職員チャレンジ）
8月 23日
短期大学部 1年生 1人
- ③筑波大学（IDAY 徳島県職員チャレンジ）
8月 23日
人文・文化学群 4年生 1人
- ④阿南光高等学校（阿南市） 11月 17日～11月 18日
2年生 1人

(6) 教員のための研修

徳島県教育委員会等からの依頼により、館内外における教員対象の研修会において、職員が指導に当たっている。

- ①令和 4 年度第 1 回高等学校及び特別支援学校人権教育主事研修会（オンライン） 4月 20日
参加者 41 人

- 講演「部落史から考える私たちの課題」（講師：長谷川）
- ②令和 4 年度第 1 回小・中学校人権教育主事研修会（オンライン） 5月 11日
参加者 113 人
講演「部落史の見方・考え方」（講師：長谷川）
- ③フレッシュ研修Ⅱ 10月 25日～10月 26日
参加者 3 人
25日 「博物館と学校連携」（講師：森）
「考古資料と X 線調査」（講師：植地）
26日 「美術工芸資料の整理」（講師：大橋）
「植物標本の整理」（講師：茨木）
- ④阿南第一中学校区人権教育研究大会 11月 10日
参加者 80 人
講演「部落史の見方・考え方—水平社創立 100 周年によせて—」（講師：長谷川）
- ⑤徳島県高等学校教育研究会理科学会研修
12月 2日
参加者 10 人
勝浦町の恐竜発掘の現状についての講演及び博物館常設展の展示解説（講師：小布施）
- ⑥吉野川市小学校教育研究会理科部会研修
12月 9日
参加者 7 人
勝浦町の恐竜発掘の現状についての講演、実物化石を用いた実習（講師：小布施）

(7) その他

館内授業、出前授業、資料貸し出しに限らず、学校の授業や放課後児童クラブ活動等において、自然観察、生活体験、歴史学習等を実施する際、児童・生徒の学習意欲向上のための工夫や資料の活用方法等を、学芸員が博物館での経験を踏まえ、教員の相談に応じることにしている。

3. 普及教育関係出版物

(1) 博物館ニュース

博物館の広報紙で、内容は、学芸員の研究の一端を紹介する“Culture Club”、館藏品紹介、野外博物館、企画展案内、情報ボックス、レファレンス Q&A、普及行事の案内と記録等から構成されている。A4 判 8 ページ（全ページカラー）で各号 8,000 部を印刷している。

令和 4 年度は、次の 4 号を発行した。また、当館ホームページでも公開している。

● No.127（2022 年 6 月 25 日発行）

表紙 猫科動物の頭骨

Culture Club 幻の三角縁神獣鏡!?

企画展 ネコ展

野外博物館 これが海底火山“福徳岡ノ場”の軽石だ!

館蔵品紹介 足踏脱穀器の改造から生まれた道具・
茶さばき機

Q&A 日本地質学会が、徳島県の岩石として「青色片岩」という石を選定したそうですが、これって「阿波の青石」と同じものですか?

●No.128 (2022年9月15日発行)

表紙 描かれた「阿波の旅人」

Culture Club 恐竜だけじゃない、徳島県勝浦町の化石たち

特別陳列 令和4年度特別陳列「阿波の旅人一旅と名所の江戸時代一」

速報 大久保家から寄贈された漆器類—半田漆器に関する資料—

情報ボックス かがやく生き物

Q&A 家の裏に「おふなとさん」と言う神様の祠があります。何の神様ですか?

●No.129 (2022年12月1日発行)

表紙 幻の半田漆器

Culture Club なぜ那賀町木頭地区だけ太布の製造技術が残ったのか

歴史・文化コレクション 半田 敷地屋本家大久保家の漆器

情報ボックス 銅鐸と鳥居龍蔵—二つの博物館をつなぐ—

野外博物館 勝浦町の恐竜化石発掘現場

Q&A シロマダラというヘビについて教えてください

●No.130 (2023年3月25日発行)

表紙 企画展 朱を求めて—若杉山辰砂採掘遺跡からみる徳島の弥生時代—

Culture Club 死滅漂着植物を探す—浜辺で芽生えをみつける楽しみ—

企画展 朱を求めて—若杉山辰砂採掘遺跡からみる徳島の弥生時代—

情報ボックス おふだからかつてのパワースポットを探索?!

館蔵品紹介 イズモユキノアシタ

Q&A なぜ日本から恐竜化石は見つかりにくいのですか?

スとともに発送するほか、展示室入り口に置いて来館者に自由に取ってもらったり、普及行事の参加者に配布したりしている。

●月間催し物案内

各月の普及行事の実施要領や申し込み方法等の案内を印刷した、A3判またはA4判のビラ。報道関係機関等に配布するほか、来館者にも提供している。

●博物館の学校支援事業案内

博物館が行っている学校への支援事業を内容別に紹介した印刷物。

(2) その他

●年間催し物案内

1年間の普及行事予定を掲載したA3判二つ折りパンフレットを65,000部印刷し、県内の小・中・高校生及び教職員全員に配布した。さらに、博物館ニュー

Ⅲ 調査研究

調査研究は、博物館における諸活動の根幹をなすものである。質の高い調査研究に裏付けられてこそ、最新の情報を盛り込んだ展示や質の高いコレクションの収集、内容豊かな普及活動が可能となるからである。

当館の調査研究事業には、必要に応じて館外の研究者も含め、特定のテーマを定めて年度単位で集中的に取り組む課題調査、各学芸員がそれぞれの分野や専門とするテーマに基づいて日常的に取り組んでいる個別調査研究、翌々年以降に予定されている企画展のための事前資料調査等がある。

令和4年度は、14人の学芸スタッフがこの業務に携わった。

1. 課題調査

令和4年度は、次の1件の課題調査を行った。

(1) 生物の紫外線発光に関する調査

生物はさまざまな場面で紫外線によって発光する。昆虫は紫外線を見ることができるので、紫外線の反射パターンで雌雄を判別し、花の蜜のありかを見つけることができる。また、熟したバナナは紫外線を照射した際にシュガースポットのまわりに蛍光を発し、よりめだたせることにより鳥等に実を食べさせ、種子を運ばせている。

当館では、本課題調査の成果に基づき、5年度に開催する予定の企画展「輝くいきものたち(仮)」で、生物の発するさまざまな紫外線反射や紫外線によって



課題調査で展示作業の成果を確認するボランティア

励起される蛍光を、写真やビデオを使って展示する予定である。さらに、生物試料に通常光と紫外線を照射し、光り方を見比べる展示も行う予定である。そのためいろいろな生物試料に紫外線を照射し、写真やビデオに撮影して紫外線による発光を記録し、紫外線発光を展示する手法を開発することを目的とした。

●調査メンバー

博物館学芸員：小川 誠（植物）

●調査概要及び結果

ボランティアを募り、海岸や身の回りのブラックライトで光る生き物を集めた。その成果を自然史コレクションで開催中の「かがやく生き物プレビュー」で展示し、5年度の企画展の展示手法を試行した。

さらに、通常光、紫外線励起蛍光、紫外線反射の写真撮影する方法を開発し、花についてそれぞれの写真を撮影して、どの部分が光っているのか比較した。その結果、通常光では見えないものの、紫外線反射の写真では模様が見えるアブラナやヒマワリなどの花が、紫外線励起蛍光でも同様のパターンを示している事例が見られた。これらの成果は5年度の企画展で展示する予定である。

2. 日本最古級恐竜化石含有層調査・発信プロジェクト

徳島県勝浦町には、白亜紀前期(約1億3000万年前)の地層である立川層が分布する。平成6年に立川層から四国初となる鳥脚類イグアノドン類の歯化石が発見された。その後、28年に徳島県で2つ目の恐竜の化石(竜脚類ティタノサウルス形類の歯)が発見された。この発見を受け、当館は、福井県立恐竜博物館や徳島県内の化石愛好家の協力を得て、同年冬から30年春まで、断続的に恐竜化石発見地点周辺の地質調査を行ってきた。その結果、30年4月に恐竜化石等の脊椎動物化石を多く含む層(ボーン・ベッド)を発見し、多数の恐竜化石を採集した。そして、30年冬から発掘調査を開始し、令和4年度も10月1日から12月28日までの約3か月間、発掘調査を実施した。

4年度の発掘調査は、3年度の調査の続きで、ポー

ン・ベッドが分布する斜面上部から重機による掘削を行った。化石が含まれる可能性が高い岩石は、後方支援施設（徳島県立農林水産総合技術支援センター農業大学校勝浦かんきつテラス徳島）に運搬し、県内の化石愛好家や阿波勝浦井戸端塾等の協力を得て、岩石の小割作業と化石の探索を行った。発掘調査では、多数の脊椎動物の化石を発見した。

●調査メンバー

博物館学芸員：辻野泰之（地学）
 中尾賢一（地学）
 小布施彰太（地学）

館外調査者：服部創紀
 （福井県立大学・福井県立恐竜博物館）
 藺田哲平（福井県立恐竜博物館）
 中山健太郎（福井県立恐竜博物館）
 小笠原憲四郎（筑波大学名誉教授）
 黒島健介（広島大学総合博物館）
 新山颯太（金沢大学）
 萩野慎諧（勝浦町）
 橋本寿夫（元・板野中学校）

調査協力者：41名（徳島県化石同好会・徳島化石研究会・阿波勝浦井戸端塾・阿南市科学センター・勝浦町職員・福井県立大学大学院生等）

業務委託業者：6名

延べ調査参加者数：290人（業務委託業者を除く）

●調査日程

10月1日（土）～12月28日（水）：化石発掘現場での調査（準備・片付けを含む）

10月21日（金）～12月21日（水）：後方支援施設での作業

●調査概要および結果

化石発掘現場の調査及び後方支援施設での小割作業において、243点の脊椎動物化石を発見した。

内訳は以下の通りである。

- ・恐竜化石 3点
- ・カメの甲羅 166点
- ・ワニの歯 7点
- ・硬鱗魚などの魚類のウロコ 4点
- ・淡水生サメ類の歯 11点
- ・その他 骨片 52点
 （恐竜の可能性のある化石を含む）

採集された脊椎動物化石は、現在も徳島県立博物館で、整理作業を行い、岩石から取り出すためのクリーニングを実施中である。

●勝浦町恐竜化石発掘活性化協議会

徳島県をはじめ、勝浦町、関係団体等による密接な連携のもと、恐竜化石産地周辺の環境に配慮した発掘調査を促進し、さらに県民参加型の発掘の仕組みの検討や、恐竜を核とした魅力の発信等を行い、徳島県及び勝浦町の地方創生、地域活性化を図ることを目的に協議会を設置している。4年度は2回開催した。

- 第9回 日時 9月9日（金）13：30～15：00
 会場 勝浦町役場（2階）大会議室
- 第10回 日時 3月14日（火）13：30～15：00
 会場 徳島県立博物館 講座室

●勝浦町恐竜発掘活性化協議会委員等名簿

（令和5年3月31日現在）

氏名	役職等
小笠原 憲四郎 （委員長）	筑波大学名誉教授、元国立科学博物館客員研究員
石田 啓祐	徳島大学理工学部名誉教授
岩城 秀行	徳島県化石同好会代表（代理）
稲井 稔	特定非営利活動法人阿波勝浦井戸端塾理事長
中田 明男	地元自治区長
加藤 幸一	徳島県未来創生文化部副部長
岡島 敏子	徳島県文化の森振興センター副所長
長町 哲治 （副委員長）	徳島県立博物館長
市川 公雄 （副委員長）	勝浦町教育委員会教育長
石木 正昭	勝浦町教育委員会事務局長
河原 英治	徳島県政策創造部地方創生局とくしまぐらし応援課長
利徳 拓也	徳島県商工労働観光部観光政策課長
寺尾 由美	勝浦町企画交流課長
東 洋一 （オブザーバー）	福井県立恐竜博物館名誉顧問、福井県立大学名誉教授



恐竜化石含有層調査の様子



第 10 回勝浦町恐竜発掘活性化協議会

●恐竜化石発掘ボランティア研修会

勝浦町での恐竜化石発掘調査は、発掘ボランティアの協力が不可欠である。しかしながら、恐竜化石含有層の岩石から恐竜等の骨化石を見つけ出すのは容易ではない。そのため、化石探索のスキルアップをめざして、発掘ボランティアの研修会を実施した。

日 時 5月27日(金)～6月3日(金)
(8日間)

会 場 かんきつテラス徳島

参加者 31名 (延べ参加者数 111人)

3. 分野別(個別)調査研究

佐藤陽一(動物・脊椎動物)

①ドローンによる県内河川・海岸の空撮

令和4年度も昨年度に引き続き県内各地で撮影を行った。海陽町の伊勢田川魚類相調査に関連して河口域から上流域まで全域において本川全流程の垂直俯瞰撮影を行い、パノラマ画像を作成した。また、美波町明丸海岸や阿南市橘湾、徳島市の鮎喰川、園瀬川等でも撮影を行った。

井藤大樹(動物・脊椎動物)

①徳島県淡水魚類相調査

伊勢田川での魚類相調査や本県初記録となるカワアナゴ属魚類の報告(乾 隆帝氏と共同)、四国で初となるホシイッセンヨウジの報告(庄野耕生氏・瀬能 宏氏と共同)を行った。

②ホトケドジョウ類の進化及び分類学的研究

日本産ホトケドジョウ類の進化や分類に関する研究を進めた。

小川 誠(植物)

①県産植物相の調査

徳島県の植物相の調査を行った(木下 覺氏等と共同)。また、本年度は阿波学会の調査を兼ねて小松島市の植物相について調査を行った。

②自然に興味を持ってもらうためのツールの開発

令和5年度開催予定の企画展「かがやく生きもの(仮)」の準備の一環として、紫外線を当てると生き物が輝く事例を調査した。

茨木 靖(植物)

①県産植物相の調査

徳島県の植物相の調査を行った(木下 覺氏等と共同)。

②イネ科植物の比較研究

国内外各地のイネ科植物について、その異同、分布等に関する調査を行った。

③県内における海流種子等の漂着状況に関する調査を行った(濱 直大氏等と共同)。

中尾賢一(地学)

①5万分の1図幅「鳴門海峡地域の地質」、陸海シームレス地質情報集作製のための調査

阿波市、鳴門市、淡路島で地質調査及び研究の打ち合わせ等を行った(産総研地質調査総合センター、徳島大学理工学部と共同)。

②勝浦町に分布する白亜紀層に関する調査

勝浦町で発見された恐竜化石含有層の発掘調査を実施した(福井県立恐竜博物館や福井県立大学恐竜学研究所、徳島県化石同好会等と共同)。

③小松島市の遺跡から出土した貝類の調査

小松島市教育委員会からの依頼で、同市の遺跡から発掘された貝類について、同定作業及び古生態学的検討を行った(徳島大学理工学部と共同)。

辻野泰之(地学)

①北海道の蝦夷層群より産出するアンモナイト化石に関する研究

特に白亜系蝦夷層群より産出する異常巻きアンモナイト：バキュリテス類の分類、進化に関する研究を行った。

②勝浦町に分布する白亜紀層に関する調査

勝浦町で発見された恐竜化石含有層の発掘調査を実施した(福井県立恐竜博物館や福井県立大学恐竜学研究所、徳島県化石同好会等と共同)。

③羽ノ浦トンネル及び立江トンネルの工事で露出した白亜紀層(物部川層群や外和泉層群)に関する調査

物部川層群や外和泉層群についての地質調査及び産出化石の調査を行った。

小布施彰太(地学)

①勝浦町に分布する白亜紀層に関する調査

勝浦町で発見された恐竜化石含有層の発掘調査を

実施した（福井県立恐竜博物館や福井県立大学恐竜学研究所、徳島県化石同好会等と共同）。

- ②福井県勝山市より産出するワニ形類化石に関する研究
手取層群（福井県勝山市）より産出するワニ形類化石について分類や古生態、古生物地理に関する研究を行った。

植地岳彦（考古・保存科学）

- ①博物館等の展示及び収蔵に関する環境・設備の調査
展示室、収蔵庫の温度・湿度の変動と有機酸・アンモニアの発生状況について調査した。
- ②水銀朱の生産に関する研究
県内の水銀朱生産遺跡に関する研究を行った。
- ③文化財保存環境の調査
県内市町の教育委員会、博物館・資料館、個人等の依頼を受け、温湿度や文化財加害虫菌といった保存環境の調査を行った。

長谷川賢二（歴史）

- ①中世の山岳寺社と修験道に関する研究
愛媛県の国史跡等妙寺旧境内とその周辺の宗教的評価を中心に、四国西南部における山岳寺院と修験道の関係について検討した。また、徳島県西部の山中の寺社の立地や熊野信仰の展開について調査した。
- ②四国遍路形成史に関する調査
四国遍路成立の前提である中世における「辺路」に関する史料の検討を行った。
- ③鳥居龍蔵による台湾・中国西南部・日本研究の関連に関する調査
著作やフィールドノート等をもとに、当該地域に関する鳥居の研究視角及び意識を検討した。
- ④井藤正一日記に関する調査
徳島水平社を主導した井藤正一が記した日記について、解読の確認作業を行うとともに、日記の内容や記事の背景等を調査した（とくしま社会運動資料センターとの共同）。

松永友和（歴史）

- ①江戸時代の旅に関する調査
特別陳列の準備の過程で、阿波国を中心とする旅について、具体的には四国遍路や西国巡礼、名所図会等について若干の検討を加えた。
- ②四国遍路に関する調査
江戸時代の四国遍路について、遍路日記の所在調査を行った。
- ③井藤正一日記に関する調査
徳島水平社を主導した井藤正一が記した日記について、解読の確認作業を行うとともに、日記の内容や記事の背景などを調査した（とくしま社会運動資

料センターとの共同）。

- ④鳥居龍蔵と周辺人物に関する調査

鳥居龍蔵が記録した台湾フィールドノートの解読を行うとともに、鳥居の周辺人物について、具体的には坪井正五郎と伊能嘉矩を中心に資料調査を行った。

小林篤正（歴史）

- ①鳥居龍蔵のフィールドワークに関する調査
鳥居龍蔵のフィールドワークについて、沖縄・八重山列島での調査や、台湾での先住民族調査についてフィールドノートの解読と関連資料の調査を行った。
- ②近現代徳島における部落問題に関する調査
徳島の水平運動・融和運動などに大きく関わった井藤正一やその活動について、当館保管の日記の内容に関し、共同調査による解読と若干の検討を行った（とくしま社会運動資料センターとの共同）。

庄武憲子（民俗）

- ①館蔵のおふだ（護符）に関する調査
当館に寄贈されたおふだ（護符）について分類、整理を行った。
- ②四国の風流踊り調査
四国民俗学会のメンバーと共同で四国四県に伝わる風流踊りの調査、記録を行った。調査の結果は5年度の研究会で報告の予定である。
- ③引札の調査
4年度に寄贈された引札の分類、整理を行った。結果は5年度の歴史・文化コレクションで展示紹介の予定である。

磯本宏紀（民俗）

- ①移住漁民による技術移動と定住に関する民俗学的研究
徳島県を出身地とする移住漁民を対象に、移住の経緯と都市部定住後の技術移動や生業、コミュニティの形成の把握を目的に調査研究を行った。
- ②19世紀以降の東アジア世界における海藻の生産・流通・消費に関する総合研究
19世紀以降の東アジア世界で生じた海藻の生産、加工・流通、消費をめぐる構造変化の実態を明らかにするために、歴史学、社会学・人類学・民俗学、水産学の研究者による学際的共同研究を行った（三重大学科研費の研究分担者）。
- ③「鳴門の渦潮」調査研究プロジェクトにおける漁業民俗に関する調査
淡路島、沼島、鳴門等の鳴門海峡周辺地域における漁業及び漁業民俗に関する調査を行った（「鳴門の渦潮」調査研究プロジェクト実行委員会との共同）。
- ④フィールドサイエンスの再統合と地域文化の創発に

関する調査研究

地域の知恵や歴史が凝縮された伝統文化を取り入れ、持続可能で多様性にみちた社会のあり方を、保存科学、人類学、民俗学、歴史学、生態学、言語学などの横断的な領域から検証し、社会／文化の創発に積極的に参与することを目的とした研究を行った（国立歴史民俗博物館共同研究の共同研究員）。

⑤朝鮮海出漁資料の研究資源化とその活用に関する調査研究

戦前期の朝鮮海出漁資料の調査、撮影を行った（国立歴史民俗博物館との共同研究）。

大橋俊雄（美術工芸）

①阿波の画人についての調査

江戸時代に阿波で活動した狩野派、住吉派、文人画系、円山・住吉派など、各諸派の画人について経歴と作品を調査した。

②阿波の工芸品についての調査

刀剣、漆器、焼き物など、阿波にゆかりの深い作品及び作者について調査した。とくに、つるぎ町半田でかつて生産されていた半田塗について資料を収集調査した。

4. 分野別（個別）調査研究等の館内公表会（セミナー）

学芸員相互の情報交換と研究資質向上を図ることを目的として、館内公表会（セミナー）を随時実施している。必要に応じて、学芸員の調査研究の協力者等、館外の研究者に発表を依頼することもある。令和4年度は次の通り実施した。

- 6月10日（金）小林篤正「これまでの研究内容の紹介と、鳥居龍蔵研究に活かそうな観点の提示 大正期・鳥居龍蔵が文学博士を取得した頃の学術行政について」
- 9月16日（金）小川 誠「生きものは何を見ているのか」
- 10月28日（金）長町哲治「徳島ヴォルティスとワールドカップ」
- 12月 2日（金）西川美保子氏（上板町教育委員会）「資料館のゲーミフィケーション—遊びを学びに変えるツールの活用—」
- 1月25日（水）三宅翔士氏（徳島県立近代美術館）「ヴァナキュラーアートとしての絵馬—岩手県下の供養絵額を中心に—」

5. 科学研究費補助金等による研究

- 若手研究（B）：新たな環境への進出と進化：ホトケドジョウ属における源流域への進出と進化プロセス（令和2～4年度）
研究代表者：井藤大樹
- 基盤研究（B）：霊場資料学の構築と霊場文化の解明による四国遍路の総合的研究（令和2～6年度）
研究代表者：胡 光氏（愛媛大学法文学部教授）
当館の分担研究者：長谷川賢二、松永友和
- 基盤研究（A）：民族誌アーカイブズとフィールド調査の接合による植民地初期台湾の先住民族社会の探究（令和4～8年度）
研究代表者：野林厚志氏（国立民族学博物館教授）
当館の研究分担者：長谷川賢二
- 基盤研究（A）：19世紀以降の東アジア世界における海藻の生産・流通・消費に関する総合研究（令和4～8年度）
研究代表者：塚本 明氏（三重大学人文学部教授）
当館の研究分担者：磯本宏紀
- 笹川科学研究助成 実践研究部門：博物館活動の活性化の実践「ボランティアと一緒に光る貝の展示を作ろう」（令和4年度）
研究代表者：小川 誠

6. 他機関との共同研究

- 蛍光エックス線分析法による赤色顔料の調査
遺跡から出土した玉類について、蛍光エックス線分析法による材質調査を行った。（公益財団法人徳島県埋蔵文化財センターと共同）。
- 勝浦町の恐竜化石含有層発掘調査
勝浦町の恐竜化石含有層の周辺地域の地質調査や化石の探索を実施した（福井県立恐竜博物館や福井県立大学恐竜学研究所、徳島県化石同好会と共同）。
- 「鳴門海峡地域の地質」図幅及び陸海シームレス地質情報集の作製のための調査
鳴門市、兵庫県南あわじ市で地質調査を行った（産総研地質調査総合センター及び徳島大学理工学部と共同）
- 井藤正一日記の翻刻及び調査研究
徳島水平社を主導した井藤正一が記した日記（当館保管）について、翻刻、内容や記事の背景などを調査研究した（とくしま社会運動資料センターとの共同）。
- 「鳴門の渦潮」調査研究プロジェクト
兵庫・徳島「鳴門の渦潮」世界遺産登録推進協議会

の活動の一環として、鳴門の渦潮と淡路島の文化遺産の調査を行った（「鳴門の渦潮」調査研究プロジェクト実行委員会との共同）。

●フィールドサイエンスの再統合と地域文化の創発に関する調査研究

地域の知恵や歴史が凝縮された伝統文化を取り入れ、持続可能で多様性にみちた社会のあり方を、保存科学、人類学、民俗学、歴史学、生態学、言語学などの横断的な領域から検証し、社会／文化の創発に積極的に参与することを目的とした研究を行った（国立歴史民俗博物館との共同）。

7. 研究成果の公表

(1) 徳島県立博物館研究報告第33号の発行

2023年3月31日発行、A4判93ページ、600部
（*印：館外研究者）

調査報告

大原賢二*・山田量崇*：アサギマダラの移動に関する徳島県の記録（2022年）p.1-12.

井藤大樹・奥村大輝*・古川 学*・庄野耕生*・日 美由紀*・上田悠哉*・池端伸悟*・奥村芽衣*・佐藤陽一：徳島県の園瀬川水系で確認された魚類。p.13-33.

和田恵次*・黒田美紀*・鎌田磨人*：徳島県吉野川河口域の塩性湿地内底生動物の生態分布。p.35-42.

三本健二*・中尾賢一：高知県の鮮新-更新統唐ノ浜層群穴内層から新たに確認された貝類(10)。p.43-50.

菅原康夫*：八貫渡銅鐸考。p.51-61.

河内一浩*：前山遺跡の馬形埴輪の徳島県における位置づけ。p.63-69.

短報

古川 学*・井藤大樹・佐藤陽一：徳島県吉野川から得られたアカメの幼魚。p.71-74.

大原賢二*：マツヘリカメムシ (*Leptoglossus occidentalis*) の徳島県からの記録。p.75.

吉松定昭*・河野 光*・和田太一*：徳島県で採集されたニッポンシャミセンヒキ *Koreamyia setouchiensis* Goto, Ishikawa & Hamamura (ウロコガイ科)。p.77-81.

茨木 靖・齋藤政美*：クサビガヤ *Sphenopholis obtusata* (Michx.) Scribn. の宮崎県への帰化。p.83-84.

小川 誠：タデアイからインジゴを抽出する2新手法。p.85-90.

(2) 公表論文・報告・記事等一覧

（*印：館外研究者）

●動物

〈学術的著述〉（☆：査読付学術雑誌）

井藤大樹・乾 隆帝*・佐藤陽一（2022.12）徳島県におけるカワアナゴ属魚類2種の記録。南紀生物, 64(2)：155-159.

☆井藤大樹・庄野耕生*・瀬能 宏*（2023.1）徳島県から得られた分布北限記録となるヨウジウオ科の稀種ホシイッセンヨウジ。魚類学雑誌, 早期公開版(オンライン).

☆井藤大樹・庄野耕生*（2023.1）高知県貝ノ川川で採集された分布北限記録のルリボウズハゼ。Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 28：26-31.

☆北尾圭梧*・井藤大樹（2023.2）徳島県吉野川水系鮎喰川から得られた国内外来種ムギツクとその分布状況。Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 29：14-19.

山川宇宙*・鎗田めぐ*・水野晃秀*・井藤大樹・清水孝昭*（2023.2）愛媛県伊方大川で採集されたオカメハゼ。南予生物フィールドノート, (2023)：23006-23006.

山川宇宙*・鎗田めぐ*・水野晃秀*・井藤大樹・清水孝昭*（2023.2）愛媛県伊方大川で採集されたテンジクカワアナゴ。南予生物フィールドノート, (2023)：23007-23007.

井藤大樹・奥村大輝*・古川 学*・庄野耕生*・日 美由紀*・上田悠哉*・池端伸悟*・奥村芽衣*・佐藤陽一（2023.3）徳島県の園瀬川水系で確認された魚類。徳島県立博物館研究報告, (33)：13-33.

古川 学*・井藤大樹・佐藤陽一（2023.3）徳島県吉野川から得られたアカメの幼魚。徳島県立博物館研究報告, (33)：71-74.

〈一般著述〉

井藤大樹（2022.6）ネコ科動物の頭骨。徳島県立博物館ニュース（表紙）, (127)：1.

井藤大樹（2022.12）シロマダラというヘビについて教えてください。徳島県立博物館ニュース(Q&A), (129)：7.

●植物

〈学術的著述〉（☆：査読付学術雑誌）

小川 誠（2023.3）タデアイからインジゴを抽出する2新手法。徳島県立博物館研究報告, (33)：85-90.

小川 誠・木下 覺*・成田愛治*・中村俊之*・茨木 靖（2023.3）小松島市の植物相。阿波学会紀要, (64)：11-22.

☆Yukawa J., Kim W., Nishino T., Minami T., Yamauchi S., Ogawa M. and Ohara K.*（2021.9）A new and a described species of *Cystiphora* (Diptera:Cecidomyiidae) from Japan, with reference to geographically diversified

intraspecific populations of *C. taraxaci* and its host range expansion from native Japanese to alien and hybrid species of *Taraxacum* (Asteraceae).

Entomological Science, 24 (3) : 284-301.

☆Ibaragi Y., Tagane S.* and Souladeth P.* (2023.2) *Eremochloa ciliatifolia* (Poaceae), A New Record for the Flora of Laos. J. Jpn. Bot., 98 (1) : 45-48.

☆Ibaragi Y., Yokota M.*, Norsaengsri M.* and Koba H.* (2022.12) Taxonomic Notes on *Isachne subglobosa* (Poaceae) J. Jpn. Bot., 97 (6) : 313-322.

☆茨木 靖・川丘 明*・河野 光* (2022.12) 日本本土における漂着アツミモダマ種子の発芽. 漂着物学会誌, (20) : 39.

茨木 靖・齋藤政美* (2023.3) クサビガヤ *Sphenopholis obtusata* (Michx.) Scribn. の宮崎県への帰化. 徳島県立博物館研究報告, (33) : 83-84.

〈一般著述〉

小川 誠 (2022.9) かがやく生き物. 徳島県立博物館ニュース (情報ボックス), (128) : 6.

茨木 靖 (2022.6) これが海底火山“福徳岡ノ場”の軽石だ!. 徳島県立博物館ニュース (野外博物館), (127) : 5.

茨木 靖 (2023.3) 死滅漂着植物を探す一浜辺で芽生えをみつける楽しみ一. 徳島県立博物館ニュース (Culture Club), (130) : 2-3.

●地学

〈学術的著述〉

三本健二*・中尾賢一 (2023.3) : 高知県の鮮新-更新統唐ノ浜層群穴内層から新たに確認された貝類 (10). 徳島県立博物館研究報告, (33) : 43-50.

西山賢一*・中尾賢一・辻野泰之・元山茂樹*・石田啓祐* (2023.3) : 小松島市の地質と地形. 阿波学会紀要, (64) : 1-10.

〈一般著述〉

小布施彰太 (2022.9) 恐竜だけじゃない、徳島県勝浦町の化石たち. 徳島県立博物館ニュース (Culture Club), (128) : 2-3.

辻野泰之 (2022.12) 勝浦町の恐竜化石発掘調査現場. 徳島県立博物館ニュース (野外博物館), (129) : 6.

中尾賢一 (2023.3) イズモユキノアシタ. 徳島県立博物館ニュース (館贈品紹介), (130) : 6.

小布施彰太 (2023.3) なぜ日本から恐竜化石は見つかりにくいのですか. 徳島県立博物館ニュース (Q&A), (130) : 7.

●考古

〈一般著述〉

植地岳彦 (2022.3) 企画展「朱を求めて一若杉山辰砂

採掘遺跡からみる徳島の弥生時代一」. 徳島県立博物館ニュース (表紙), (130) : 1.

●歴史

〈一般著述〉

大石雅章*・長谷川賢二・町田 哲* (2022.3) まとめ. 徳島県編「四国八十八箇所霊場と遍路道」調査報告書 20 金剛山一乗院藤井寺 四国八十八箇所霊場 第11番札所」, 徳島県 : 65.

長谷川賢二 (2022.3) 書評と紹介 : 川崎剛志著「修験の縁起の研究」. 山岳修験, (69) : 73-75.

長谷川賢二 (2022.7) 四国遍路の形成と聖・山伏. 愛媛大学四国遍路・世界の巡礼研究センター編「四国遍路と世界の巡礼 (上) —最新研究にふれる八十八話一」, 創風社出版 : 118-122.

長谷川賢二 (2022.9) 今季の逸品 : 第1回台湾調査フィールドノート. 鳥居龍蔵記念博物館 NEWS LETTER (表紙), (2) : 1.

長谷川賢二 (2022.11) 銅鐸と鳥居龍蔵一二つの博物館をつなぐ一. 徳島県立博物館ニュース (情報ボックス), (129) : 5.

長谷川賢二 (2022.11) 日本人の起源を探る 鳥居龍蔵 知の旅〈17〉 知られざる論文「苗族研究」. 徳島新聞 11月18日.

長谷川賢二 (2023.3) 日本人の起源を探る 鳥居龍蔵 知の旅〈21〉 学説の影響力. 徳島新聞 3月28日.

長谷川賢二 (2023.3) 資料整理の最前線 : 東京帝国大学の辞令. 鳥居龍蔵記念博物館 NEWS LETTER, (3) : 5.

長谷川賢二 (2023.3) 中世の三好地域における熊野信仰. 三好市教育委員会社会教育課編「三好市域の風景地 吉野川支流域名勝調査報告書」, 三好市教育委員会社会教育課 : 156-163.

長谷川賢二 (2023.3) 書評と紹介 : 徳永誓子著「憑霊信仰と日本中世社会」. 山岳修験, (71) : 11-113.

松永友和 (2022.7) 武士の四国遍路—「四国旅日記」の紹介—. 愛媛大学四国遍路・世界の巡礼研究センター編「四国遍路と世界の巡礼 (上) —最新研究にふれる八十八話一」, 創風社出版 : 123-127.

松永友和 (2022.8) 「日本人の起源を探る 鳥居龍蔵 知の旅〈14〉 支援者・本山彦一」 徳島新聞 8月3日.

松永友和 (2022.8) 大塩事件 大塩平八郎はなぜ立ち上がったのか. 岩城卓二ほか編「論点・日本史学」, ミネルヴァ書房 : 210-211.

松永友和 (2022.9) 描かれた「阿波の旅人」. 徳島県立博物館ニュース (表紙), (128) : 1.

松永友和 (2022.9) 資料整理の最前線 : 鳥居龍蔵の近畿調査—本山彦一書簡より—. 鳥居龍蔵記念博物館

NEWS LETTER, (2) : 5.

松永友和 (2023.3) 鳥居龍蔵あて坪井正五郎の絵葉書.
鳥居龍蔵記念博物館 NEWS LETTER (表紙), (3) :
1.

小林篤正 (2022.9) 鳥居龍蔵に学ぶ「地域学」: 段の塚
穴古墳群. 鳥居龍蔵記念博物館 NEWS LETTER,
(2) : 6.

小林篤正 (2023.1) 「日本人の起源を探る 鳥居龍蔵
知の旅〈19〉 沖縄の調査」徳島新聞 1月29日.

●民俗

〈学術的著述〉(☆: 査読付学術雑誌)

庄武憲子 (2022.3) 徳島県内の二上り音頭. 徳島地域
文化研究, (20) : 7-12.

庄武憲子 (2022.11) 徳島県の田の神まつり—「サン
バイ」を中心に—. 四国民俗, (51) : 64-75.

磯本宏紀 (2022.3) 盆の踊りの実施日をめぐる旧暦・
新暦・月遅れ. 徳島地域文化研究, (20) : 1-6.

磯本宏紀 (2022.11) 生業 新たな視座へ拡張を続け
る研究領域、「生き方」を問う. 日本民俗学, (312) :
128-148.

磯本宏紀 (2023.2) 漁具・漁労技術と漁民の移動性—
兵庫県南あわじ市沼島を中心にして—. 「鳴門の渦
潮」調査研究プロジェクト実行委員会編「「鳴門の
渦潮」と淡路島の文化遺産」. 兵庫県立歴史博物館
ひょうご歴史研究室. p.94-103.

☆磯本宏紀 (2023.3) 漁民移動研究から移動研究への
研究視角と方法—民俗学における研究史の整理と問
題提起—. 歴史民俗資料学研究, (28) : 159-174.

磯本宏紀 (2023.3) 小松島市和田島の船びき網漁とシ
ラス・チリメン加工. 阿波学会紀要, (64) : 81-84.

〈一般著述〉

庄武憲子 (2022.3) 新刊紹介 小橋 靖著「鳴門学講
座(郷土研究)」。徳島地域文化研究, (20) : 117-119.

庄武憲子 (2022.9) 家の裏に「おふなとさん」と言う
神様の祠があります。何の神様ですか?。徳島県立
博物館ニュース (Q&A), (128) : 7.

庄武憲子 (2023.3) おふだからかつてのパワースポッ
トを探索?!. 徳島県立博物館ニュース (情報ボック
ス), (130) : 5.

磯本宏紀 (2022.3) 吉野川中流域の川漁—徳島県つる
ぎ町半田地区の川漁師の事例. 徳島地域文化研究,
(20) : 113-116.

磯本宏紀 (2022.4) 書評 本村 真編著「辺境コミュ
ニティの維持—島嶼、農村、高地のコミュニティを
支える「つながり」」。村落社会研究ジャーナル, 28
(2) : 39-40.

磯本宏紀 (2022.6) 足踏み脱穀器の改造から生まれた

道具・茶さばき機. 徳島県立博物館ニュース (館蔵
品紹介), (127) : 6.

磯本宏紀 (2022.11) 「徳島まるづかみ」事業と地域連
携—徳島県立博物館の常設展リニューアルをめぐっ
て. 日本民俗学, (312) : 294-299.

磯本宏紀 (2022.12) なぜ那賀町木頭地区だけに太布
の製造技術が残ったのか. 徳島県立博物館ニュース
(Culture Club), (129) : 2-3.

●美術工芸

〈一般著述〉

大橋俊雄 (2022.9) 大久保家から寄贈された漆器類—
半田漆器に関わる資料—. 徳島県立博物館ニュース
(速報), (127) : 5.

大橋俊雄 (2022.9) 須木一胤. 鳥居龍蔵記念博物館
NEWS LETTER (龍蔵を巡る人々—碩学と社会の
インターフェイス—), (2) : 7.

大橋俊雄 (2022.12) 幻の半田漆器. 徳島県立博物館
ニュース (表紙), (129) : 1.

大橋俊雄 (2023.3) 森敬介. 鳥居龍蔵記念博物館
NEWS LETTER (龍蔵を巡る人々—碩学と社会の
インターフェイス—), (3) : 6.

(3) 学会・研究会等での発表

(* 印: 館外研究者)

●動物

井藤大樹・乾 隆帝*・佐藤陽一 (2023.2) 徳島県立博
物館所蔵標本からみた瀬戸内海における希少魚イド
ミミズハゼの分布と形態. 地域自然史と保全研究大
会 2023 (大阪).

●植物

小川 誠・木下 覺*・成田愛治*・中村俊之*・茨木
靖 (2023.3) 小松島市の植物相. 阿波学会学術調査
報告会 (小松島)

●地学

辻野泰之・小布施彰太・中尾賢一・柴田正輝*・河部
壮一郎*・東 洋一*・関谷 透*・藺田哲平*・築地
祐太*・中山健太郎*・小笠原憲四郎* (2022.7) 徳島
県勝浦町の下部白亜系立川層の恐竜化石発掘調査,
日本古生物学会 2022 年年会 (オンライン).

柴田正輝*・辻野泰之・小布施彰太・中尾賢一・関谷 透*・
築地祐太*・中山健太郎* (2022.7) 下部白亜系立川
層 (徳島県勝浦町) から発見されたイグアノドン類
の尾椎, 日本古生物学会 2022 年年会 (オンライン).

関谷 透*・小布施彰太・柴田正輝* (2022.7) 下部白
亜系北谷層 (福井県勝山市) から新たに発見された
ゴニオフォリス科の上顎骨, 日本古生物学会 2022
年年会 (オンライン).

藺田哲平*・小布施彰太・辻野泰之・中尾賢一・宮田和周*・中山健太郎* (2023.2)：徳島県勝浦町に分布する下部白亜系立川層より産出したシネミス科カメ化石, 日本古生物学会 2023 年第 172 例会 (福岡).

●歴史

長谷川賢二 (2022.8) 修験道の生成. 2022 前近代日本宗教ワークショップ「修験道の地域的展開」(オンライン).

小林篤正 (2022.11) 大正期の官僚制における「専門性」尊重の深化—大学昇格問題を事例として—. 徳島地方史研究会 11 月例会 (徳島).

●民俗

磯本宏紀 (2022.7) 盆踊りの実施日をめぐる旧暦・新暦・月遅れ. 徳島地域文化研究会 (徳島).

磯本宏紀 (2022.9) 漁具・漁労技術の展開と漁民の移動性—兵庫県南あわじ市沼島、洲本市由良の事例—. 「鳴門の渦潮」調査研究プロジェクト研究会 (洲本).

IV 資料の収集・保存と活用

資料の収集と保存は、博物館にとって最も基本的な機能である。当館では開館以来、次の4つを基本方針として資料を収集している。

- (1) 徳島の自然と人文に関する資料のすべてを収集の対象とする。
- (2) 地域に根ざしたテーマを設定し、計画的かつ集中的な収集をする。
- (3) 徳島の概要あるいは特性を把握するため、世界を対象とした比較資料の収集をめざす。
- (4) 一次資料のみならず、すべての二次資料をも収集の対象とする。

資料の収集手段としては、採集・購入・寄贈・交換等様々な方法で行っている。学芸員自らが積極的に収集しているほか、県民や官公庁からの資料の寄贈も多い。

収集した資料は、調査研究、展示、普及教育活動、他の博物館や研究者への貸し出し等を通じて有効に活用している。

令和4年度は4人（人文1、自然3）の会計年度任用職員の補助を得て、資料の整理作業を進めた。

1. 採集資料

●動物（脊椎動物）

ホトケドジョウ類	多数
徳島県産海岸性魚類	多数
徳島県産淡水魚類	多数
徳島県産両生類	1点
香川県産淡水魚類	2点

●動物（無脊椎動物）

アナンムシオイ	3点
---------	----

●地学

勝浦町恐竜化石含有層産出脊椎動物化石	302点
長崎県島原半島産更新世中期貝化石	多数

●植物

県内各地の標本	多数
---------	----

2. 購入資料

●地学

竜脚類ディプロドクスの尾椎	1点
角竜類トリケラトプスの胴椎	1点
獣脚類アロサウルスの尾椎	1点
モロッコ産獣脚類スピノサウルスの顎	1点
モロッコ産ワニ類の顎	2点

●歴史

寛政四壬子肥前島原大変次第（阿波国文庫）	1点
四国中国海岸大絵図	1点
淡路国図（蜂須賀文庫）	1点
高野山細見絵図	1点
篠崎小竹書簡	1点
板東俘虜収容所「徳島オーケストラコンサート」プログラム	1点

購入資料合計 12点

3. 寄贈資料

●動物（脊椎動物）

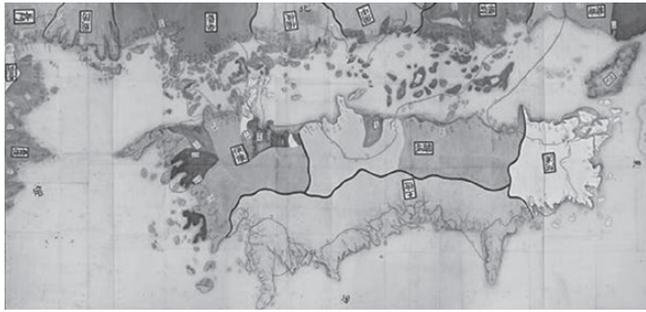
兵庫県産魚類	2点	北川哲郎氏
高知県産魚類	4点	庄野耕生氏
シノビドジョウ	4点	中島 淳氏
ハイタカ	1点	鈴江剛生氏



竜脚類ディプロドクスの尾椎



モロッコ産獣脚類スピノサウルスの顎



四国中国海岸大絵図



淡路国図 (蜂須賀文庫)

クマタカ	1点	
		徳島県鳥獣対策・ふるさと創造課
徳島県産鳥類	2点	柴折史昭氏
象牙	1点	西窪正幸氏
徳島県園瀬川産魚類	1式	
		徳島県東部県土整備局
徳島県産コイ科魚類	2点	古川 学氏
徳島県産ヨウジウオ科魚類	4点	庄野耕生氏
哺乳類・鳥類剥製等	多数	重村芳子氏
●動物 (無脊椎動物)		
チゴイワガニ	5点	山川宇宙氏
紀伊水道産貝類	6点	美馬泰弘氏
●植物		
宮城県産イネ科植物標本	21点	上野雄規氏
香川県産植物標本	71点	久米 修氏
徳島県産植物標本	101点	木下 覺氏
宮崎県産イネ科植物標本	3点	斉藤政美氏
栃木県産植物標本	167点	小亀とも子氏
イネ科植物標本	39点	木場英久氏
静岡県産イネ科植物標本	1点	内藤宇佐彦氏

大阪府産イネ科植物標本	1点	長谷川匡弘氏
熊本県産イネ科植物標本	5点	仮屋崎忠氏
イネ科植物標本	3点	下野嘉子氏

●地学

勝浦町産のアンモナイト	1点	平島 昭氏
北海道及び徳島県産アンモナイト	5点	平島 昭氏
羽ノ浦トンネル工事の残土から産出した化石	7点	平島 昭氏・小林敬治氏
北海道産魚類化石	1点	平島 昭氏
北海道及び徳島県産化石	5点	平島 昭氏
西川忠行氏採集化石コレクション	約 10,000点	西川道代氏
群馬県産安山岩	2点	阿部 肇氏
高知県唐浜産未報告貝化石	7点	三本健二氏
カケガワバイ	1点	三本健二氏
愛媛県市ノ川産輝安鉱	3点	阿部 肇氏
フンスリュック粘板岩の化石	78点	水野吉昭氏
岐阜県金生山産鉍物標本	2点	
		阿部 肇氏・工藤宗一郎氏
栃木県那須塩原市周辺産岩石・化石標本	7点	佐藤陽一氏

●歴史

徳島貯金局住友藤一関係資料	28点	住友敬治氏
四国霊蹟写真大観	1点	北条満代氏
納経帳ほか	8点	見谷 衛氏
飯尾常房短冊ほか	3点	田堀雅尚氏
軍刀ほか馬場丞関係資料	78点	馬場智恵子氏

●民俗

木綿 (ゆう)、コウゾ鞆皮の繊維	2点	三木信夫氏
魚籠	1点	森田一洋氏
インパネコートほか	26点	坂東協二氏
井戸村八幡神社河野家関係資料	28点	河野良嗣氏
田舟	1点	大松俊文氏
荒テグス、磨テグス	2点	松浦美和子氏
引札	71点	佐野 博氏
大礼服ほか	11点	鎌田治昌氏
鏡台等製作用木工用具等	136点	内村三樹夫氏
藍作すくも製造用具等	6点	岡田晶彦氏

●美術工芸

漆器類	1,308点	大久保健治氏
印鑑	1点	大久保健治氏
朱盃ほか	67点	瀧下美代子氏
白木盃ほか	630点	大久保健治氏
鶴蒔絵椀ほか	128点	大久保健治氏

刀 銘 阿州住藤原助 (以下切) ほか	2点	西木ひとみ氏
藤桃斎筆鍾馗図ほか	2点	馬場純代氏

4. 寄託資料

令和4年度末時点で寄託されている資料は74件あり、4年度に新たに寄託された資料は、次の通りである。

納経帳	3点	尾形隆平氏
ツキノワグマ剥製ほか	3点	那賀町長

5. 資料の貸し出し

実物やレプリカ、模型等資料の貸し出しは次の通りである。なお、学校への資料の貸し出しは「学校教育支援事業」に記載した(詳細は p.19 ~ 20 参照)。

●動物

魚類頭骨標本	37点	海とくらしの史料館
コベソオウムガイ標本	1点	栃木県立博物館
ハゼ科魚類標本	3点	山川宇宙氏

●地学

プロミクロセラスほか古生物資料	11点	栃木県立博物館
穴内層コンボウカニモリ類似種化石	12点	加瀬友喜氏 (神奈川大学)
竜脚類アーケオドントサウルス下顎	1点	福井県立大学恐竜学研究所
貝類化石 <i>Amussiopecten praesignis</i>	3点	土屋 健氏
勝浦町産カメの甲羅化石	2点	勝浦町教育委員会
徳川広和作 シノサウロプテリクス整体復元模型	1点	兵庫県立美術館
徳川広和作 シノサウロプテリクス整体復元模型	1点	上野の森美術館
カメの化石、魚のうろこの化石、サメの歯の化石	3点	点及び説明用パネル
	4点	7点
		一般社団法人勝浦町地域活性化協会

●考古

若杉山辰砂採掘遺跡出土品	40点	東京国立博物館
若杉山辰砂採掘遺跡出土品	1点	神戸市埋蔵文化財センター
ぬか塚古墳出土馬鐸 (複製品) ほか	44点	徳島市立考古資料館
鮎川西宮採集の姫島産黒曜石ほか	29点	公益財団法人徳島県埋蔵文化財センター
鉄地金銅装三角板鋌留短甲模造品ほか	4点	小松島市教育委員会
忌部山2号墳の副葬品 (須恵器)	7点	一般社団法人阿波忌部僮服保存会

●歴史

徳島大空襲関係遺物	2点	徳島県立文書館
徳島大空襲関係パネル	4点	徳島県経営戦略部総務課
徳島大空襲関係遺物	2点	徳島県立文書館

●民俗

人形浄瑠璃襖舞台道具	5点	徳島県立近代美術館
太布作業着 (ズボン)	1点	Mill6 Foundation

●美術工芸

守住貫魚筆 全国名勝絵巻	6点	香川県立ミュージアム
海部拵	2点	海陽町立博物館

6. 写真・映像の提供

フィルム等媒体の貸し出し及びデジタルデータの提供は、次の通りである。

●動物

「日本動物誌」図版画像	1点	細谷和海氏
-------------	----	-------

●地学

勝浦町産の恐竜化石の写真データほか	12点	道の駅 ひなの里かつうら
展示風景の写真、博物館所蔵の恐竜標本化石	2点	エスプレス・メディア出版
		「徳島恐竜コレクション」及び「地球と生命の歴史」
展示風景写真	2点	

34 資料の収集・保存と活用

株式会社 くもん出版
 鉱物資料ほか資料・露頭写真 13点
 株式会社第一学習社
 デイデイモセラス・モロズミイのホロタイプ標本の
 画像 1点
 北九州市立自然史・歴史博物館
 パラプゾシア・セッペンデンシスのレプリカ標本の
 画像 4点
 多摩六都科学館
 メガテリウム等南米産哺乳動物化石写真データ
 4点
 和田直己（山口大学共同獣医学科）
 AR 虫めがね「動く恐竜を見てみよう！（アロサウ
 ルス類）」の画像 1点
 ケーブルテレビ徳島株式会社
 勝浦町の恐竜化石産地の露頭写真データほか
 4点
 福井県立恐竜博物館

●考古

伝長者ヶ原1号銅鐸ほか画像 2点
 TRC-ADEAC 株式会社
 土成丸山古墳空撮画像 1点
 奈良県立図書情報館
 前山遺跡出土 盾形埴輪写真 1点
 株式会社 KADOKAWA
 若杉山辰砂採掘遺跡紹介映像ほか 3点
 神戸市埋蔵文化財センター
 伝長者ヶ原1号銅鐸写真 1点
 徳島県未来創生文化部文化資源活用課
 忌部山古墳出土資料写真データ 1点
 徳島市立考古資料館
 八貫渡銅鐸写真 3点
 菅原康夫

●歴史

三十二番職人歌合絵巻「勸進聖」写真 1点
 兵庫県企画部地域振興課
 大日本六十余将 阿波 三好修理大夫長慶写真
 1点
 株式会社テレビジョンフィールド
 大日本六十余将 阿波 三好修理大夫長慶写真
 1点
 戎光祥出版株式会社
 大日本六十余将 阿波 三好修理大夫長慶写真
 1点
 藍住町教育委員会
 三十二番職人歌合絵巻「かね敲」写真
 1点

兵庫県企画部地域振興課
 大日本六十余将 阿波 三好修理大夫長慶写真
 1点
 京都市生涯学習総合センター
 大日本六十余将 阿波 三好修理大夫長慶写真
 1点
 株式会社 NHK 文化センター京都支社
 大日本六十余将 阿波 三好修理大夫長慶写真
 1点
 株式会社平凡社
 大日本六十余将 阿波 三好修理大夫長慶写真
 1点
 株式会社ディラナダチ
 大日本六十余将 阿波 三好修理大夫長慶写真
 1点
 徳島県西部総合県民局
 大日本六十余将 阿波 三好修理大夫長慶写真
 1点
 CCC メディアハウス
 「廻り手形」（寄託資料）写真 1点
 さぬき市へんろ資料館
 大日本六十余将 阿波 三好修理大夫長慶写真
 1点
 株式会社アマゾンラテルナ
 大日本六十余将 阿波 三好修理大夫長慶写真
 1点
 株式会社 PHP 研究所東京本部
 駅路寺文書（安楽寺所蔵）ほか写真 2点
 三重テレビエントープライズ株式会社
 徳島大空襲写真 1点
 徳島市シニアクラブ連合会
 御国産名物見立相撲写真 1点
 四国放送株式会社
 徳島市御城下絵図写真 1点
 阿波銀リース株式会社
 御国産名物見立相撲写真 1点
 戎光祥出版株式会社
 旧山西邸板戸写真 1点
 株式会社ベクトル

●民俗

岩朝哲男氏撮影写真資料 1点
 大塚ホールディングス株式会社
 岩朝哲男氏撮影写真資料 3点
 大塚ホールディングス株式会社
 粗テグス、磨テグス写真 4点
 株式会社テレビジョンフィールド

●分野別収蔵資料数（令和5年3月31日現在）

分野	点数	内 訳			
		実物	レプリカ	模型・模写	文献
脊椎	25,772	25,685	67	14	6
無脊椎	49,335	49,269	0	58	8
昆虫	238,305	236,972	0	7	1,326
植物	199,947	199,562	95	8	282
地学	10,841	10,697	141	3	0
考古	8,553	8,402	73	19	59
歴史	13,568	12,780	26	4	758
民俗	19,147	19,137	5	5	0
美術工芸	12,016	12,005	2	4	5
合計	577,484	574,509	409	122	2,444

●美術工芸

- 阿波国勝浦郡田之浦村堀出古甲図写真 1点
岡本和彦
- 光格上皇修学院御幸儀仗図巻写真 1点
国立歴史民俗博物館
- 刀 国広自為無銘国正切之ほか写真 2点
株式会社ホビージャパン

7. 資料の複製許可

●地学

- イグアナドン類尾椎（レプリカの複製）
1点
勝浦町教育委員会

8. 資料の提供

●植物

- さく葉標本 66点 北海道大学（SAPS）
- さく葉標本 33点 東北大学（TUS）
- さく葉標本 20点 福島大学（FKSE）
- さく葉標本 57点 福井総合植物園（FUK）
- さく葉標本 33点 千葉県立中央博物館（CBM）
- さく葉標本 23点 神奈川県立生命の星地球博物館（KPM）
- さく葉標本 22点 高知県立牧野植物園（MBK）

9. 資料の交換

研究や展示、普及等様々な活動に活用するため、国内外の標本館と標本交換を行っている。標本交換とは、徳島県内等で採集した標本を、他の地域の大学・博物

館等との間で交換することである。

植物標本について、例年、東北大学、北海道大学、福島大学等国内の研究機関のほか、オレゴン州立大学及びソウル大学校と定期的な標本交換を行っている（「3. 寄贈資料」及び「8. 資料の提供」参照）。

10. 館蔵資料数

令和5年3月31日現在の分野別収蔵資料数は、上表の通りである。

収蔵資料については、整理、標本作製等が終わったものから順次コンピュータ入力し、資料データベースに登録している。

11. 資料収集委員会

本委員会は、博物館が収蔵する資料の適正な購入を図るため、購入予定資料（予定価格100万円以上）について審査する目的で設置されている。委員は、対象となる資料に応じてその都度5名以内を未来創生文化部長が委嘱する。

令和4年度は、委員会を開催していない。

12. 文献資料の収集

文献資料から得られる情報は、調査研究はもちろん、展示や普及教育等の博物館活動全般にわたるレベルアップを図る上で不可欠である。当館では、人文・自然史分野の専門書や学会誌のほか、徳島県を中心とした地方史誌類や普及教育用図書も収集している。また、内外の博物館等の研究報告・年報・展示解説書等も交換により収集している。

なお、平成27年度からは、予算の一部は図書館に計上されている。

●図書冊数（データベース登録数による）

14,737冊（うち令和4年度分 寄贈図書25冊、購入図書72冊）

●購入雑誌

自然史系（7タイトル）：科学、海洋と生物、月刊海洋、遺伝、月刊むし、昆虫と自然、地学雑誌

人文系（23タイトル）：美術研究、美術史、地方史研究、地理、芸能史研究、月刊考古学ジャーナル、月刊文化財、文化財発掘出土情報、季刊考古学、古代文化、国華、古文書研究、考古学研究、考古学雑誌、文化人類学、日本歴史、歴史学研究、歴史評論、史林、史学雑誌、民具研究、人文地理、日本史研究

博物館学（1タイトル）：博物館研究

●当館刊行物の定期発送先（令和5年3月末現在）

博物館ニュース	1,136 箇所
博物館年報	317 箇所
研究報告（国内）	432 箇所
（国外）	37 箇所
展示解説	90 箇所
企画展図録（自然）	165 箇所
（人文）	243 箇所

13. 資料の保存

(1) 資料の燻蒸

害虫やカビは、資料を劣化させる原因となる。そこで、収集した資料や貸し出し後に返却された資料は、収蔵庫への搬入や展示に先だって、原則としてすべて燻蒸を行う必要がある。当館では、資料の形態や量等によって、次の①～③の3種類の燻蒸を行ってきた。

①常圧燻蒸庫での燻蒸

まとまった量や大型の資料は、一時保管庫（24時間温湿度管理）に仮収蔵し、資料が適当な量になった時点で常圧燻蒸庫において燻蒸を行う。常圧燻蒸庫は床面積20㎡×高さ3m（約60㎡）であり、燻蒸は文化財専門の燻蒸業者に委託している。平成元年1月からは酸化エチレン製剤を使用している。

令和4年度は、3回実施した。

②収蔵庫の全室密閉燻蒸

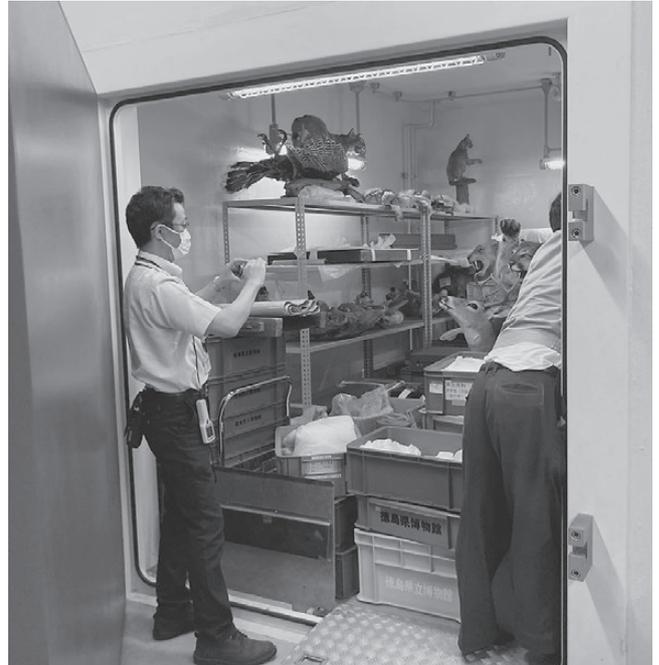
収蔵庫への出入り等に伴って、資料の保存に悪影響を与える害虫やカビ等が侵入することがある。そのため、原則として3年に1回、専門業者に委託して収蔵庫の全室密閉燻蒸を行っている。

4年度は、実施していない。

③二酸化炭素を用いた殺虫処理

寄贈や寄託を受けた資料のなかで、虫害が目立つもの、またその恐れがあるものについては、燻蒸庫燻蒸に先じて二酸化炭素を用いた殺虫処理を行っている。

4年度は2回実施した。



常圧燻蒸庫への資料搬入

(2) 展示室における資料保存環境の管理

常設展示室は、収蔵庫のような密閉可能な空間ではないため、害虫の侵入を防ぐことができず展示室全体の燻蒸が不可能である。また、室内の空調は温度設定のみ可能であり、湿度のコントロールができない。さらに、近年は省エネルギー化のため、空調運転時間が減少していることから、室温上昇による資料への影響が懸念される。

このような環境の中で、資料の虫菌害を防ぐとともに、資料保存に適した温湿度を維持するため、外気温が上昇する夏季等は、設備調整等により適宜温湿度の管理を行っている。常設展リニューアルにあたり、部分的に空調設備を増設し、環境整備を進めた。

また、第3期中期活動目標（平成26～30年度）では、常設展示室の定期点検を目標として定めており、26～27年度に、資料害虫のモニタリング、温湿度の計測を中心とした点検項目を検討した。28年度からは、学芸員の輪番制で月に1回程度点検を実施していた。令和3年の常設展リニューアル後は、状況を確認するため、学芸員をメンバーとして館内に設置している資料収集保存委員会で詳しい調査を行っている。

4年度は、常設展示室内及びケース内の温湿度について、設置型の測定センサー及びデータロガーでモニターを継続した。8月には、リニューアルオープンから1年が経過し、室内・ケース内の温湿度について、年間の変動を把握することができた。

資料害虫については、四国大学及び龍谷大学の学生の協力を得て、月に1度の頻度でトラップ調査を実施した。リニューアル後の常設展示室の資料害虫の発生傾向をつかむため、旧常設展で実施していた5か所を大きく上回る25か所でモニタリングを開始した。6月以降の高温多湿期間には、展示室床でチャタテムシの発生が確認され、10月にピークに達したが、冬季になると減少し、ほぼ終息した。ATP（アデノシン三リン酸）拭き取り検査法で、展示ケースや什器等における生物の活動状況について検討を進め、現段階では目立った生物の活動痕跡は確認していない。

企画展示室については、パッシブインジケーターによる空気環境調査を行った。その結果、壁面ケース内において有機酸、アンモニアが基準値以下であった。

(3) 収蔵庫における資料保存環境の管理

収蔵庫を日常的に点検することは、燻蒸とともに資料の安全な保存管理の一つである。それにより、害虫の発生や侵入を事前に防除あるいは早期に発見だけでなく、収蔵スペースの確保、耐震対策にもつながり、収蔵庫の適正な管理が可能となる。

当館では、平成25年度より学芸員の輪番制で月に1回程度、収蔵庫定期点検表に基づく各収蔵庫の点検を行っており、令和4年度も継続して実施した。

4年度は、生物収蔵庫・歴史民俗収蔵庫・特別収蔵庫で、パッシブインジケーター及びガス検知管による空気環境のモニタリングを行った。その結果、基準値以下であったが、有機酸の濃度の上昇が確認された。空気環境の適正化のため、ケミカルフィルターの定期的な交換が必要である。また、資料収納の高密度化を図るため、生物収蔵庫内の壁面の一部に、積層棚を設置した。

(4) 資料保存に関する設備・機器の管理

開館から30年以上が経過し、資料保存に関する設備・機器についても老朽化が進んでいる。燻蒸庫及び燻蒸設備の不備は十分な燻蒸効果を妨げるうえ、重大な事故や環境汚染につながりかねない。そのため、定期的なメンテナンスを行い、常に万全の状態を保ちながら運用する必要がある。

4年度は、常圧燻蒸庫の燻蒸作業に付随して活性炭交換を実施した。あわせて、日常的な温湿度の点検に

使用しているデジタル温湿度計の湿度を、アスマン式通風乾湿計を用いて校正した。

V 情報の発信と公開

博物館を有効に活用する利用者が増えるよう、活動に関する様々な情報を発信していくことは、博物館にとって非常に重要な活動である。近年は、インターネットによる情報発信が重要な手段になっている。

博物館の事業の広報に留まらず、様々なメディアを通じて積極的に情報を発信するよう努めている。

1. 博物館の広報活動

博物館ニュース、企画展ポスター、年間催し物案内、月間催し物案内等の定期的発行と配布、県庁だよりへの掲載、県庁記者クラブを通じての資料提供等により、博物館事業の広報活動を行っている。

●博物館ニュース、ポスター等の主な定期発送先

小学校	165 箇所
中学校	85
高等学校・支援学校・その他学校	61
学会・研究所・同好会等	60
県及び県教育委員会各課・機関	54
市町村教育委員会	25
公民館・隣保館	198
市町村及び大学図書館	34
博物館施設等	313
宿泊施設等	3
報道関係機関等	59

●報道機関への資料提供

令和4年度は、次の通り資料提供を行った（月間催し物案内を除く）。

- 4月 8日 令和4年度企画展「阿波の画壇をたのしむ—近世の画人と作品—」の開催について
- 6月 1日 「徳島県勝浦町から発見された日本最古級のイグアノドン類の尾椎と歯化石」について
- 7月 8日 令和4年度 第2回企画展「ネコ展」の開催について
- 8月 5日 化石発掘体験イベント等において発見された新たな恐竜の歯化石について（知事定例記者発表にて）
- 9月 2日 第9回「勝浦町恐竜発掘活性化協議会」

の開催について

- 9月 6日 歴史・文化コレクション「土器・焼物大集合」の開催について
- 10月 6日 令和4年度特別陳列「阿波の旅人—旅と名所の江戸時代—」の開催について
- 11月 16日 勝浦町恐竜化石含有層本格発掘調査（後方支援施設での小割作業）の公開について
- 12月 13日 歴史・文化コレクション「半田 敷地屋本家大久保家の漆器」の開催について
- 1月 20日 徳島県牟岐町から発見された希少魚類ホシイッセンヨウジについて
- 2月 1日 徳島県立博物館 常設展「化もの絵巻AR」について
- 3月 8日 第10回「勝浦町恐竜発掘活性化協議会」の開催について

2. テレビ・ラジオへの出演等

出演等を、月日・出演者・内容の順に記す。

- 4月 27日 磯本宏紀・辻野泰之 エーアイテレビ「テレビミュージアム」（太布／アンモナイトの世界について）
- 7月 2日 辻野泰之 NHK 徳島放送局「とくしま645」（勝浦町から発見されたイグアノドン類の尾椎化石について）
- 7月 2日 辻野泰之 関西テレビ放送徳島支局「FNN LIVE NEWS」（勝浦町から発見されたイグアノドン類の尾椎化石について）
- 7月 4日 辻野泰之 四国放送テレビ「フォーカス徳島」（勝浦町から発見されたイグアノドン類の尾椎化石について）
- 7月 12日 小布施彰太 NHK 徳島放送局（勝浦町から発見されたイグアノドン類の尾椎と歯化石の一般公開について）
- 7月 12日 小布施彰太 関西テレビ放送徳島支局（勝浦町から発見されたイグアノドン類の尾椎と歯化石の一般公開について）

- 7月20日 井藤大樹 四国放送テレビ「フォーカス徳島」(企画展「ネコ展」について)
- 7月21日 辻野泰之 NHK 徳島放送局「とく6徳島」(勝浦町から発見されたイグアノドン類の尾椎化石について)
- 7月22日 井藤大樹 四国放送ラジオ「となりのラジオ」(企画展「ネコ展」について)
- 8月10日 小布施彰太 四国放送テレビ「フォーカス徳島」(新たに発見された徳島県勝浦町産の恐竜の歯化石について)
- 10月15日 松永友和 四国放送テレビ「フォーカス徳島」(特別陳列「阿波の旅人一旅と名所の江戸時代一」について)
- 10月21日 松永友和 NHK 徳島放送局のテレビニュース(特別陳列「阿波の旅人一旅と名所の江戸時代一」について)
- 10月24日 松永友和 テレビトクシマ情報番組「ステップ」(特別陳列「阿波の旅人一旅と名所の江戸時代一」について)
- 1月25日 大橋俊雄 テレビあなん「トレンドカフェ」(歴史・文化コレクション「半田敷地屋本家大久保家の漆器について」)
- 1月30日 井藤大樹 NHK 徳島放送局ニュース(徳島県牟岐町から発見された希少魚類ホシイッセンヨウジについて)
- 2月16日 磯本宏紀 ケーブルネットおえ「まちの出来事」(川島小学校出前授業「昔のくらしと道具」)

メント・システム)を導入した。

新ホームページシステムの主な特徴は、セキュリティの重視、誰でも情報にアクセスしやすいようにJIS X 8341-3:2016 レベル A に準拠、外国語への翻訳対応、スマートフォンに代表される携帯端末での利用を念頭にどんな機器でも最適化された表示の実現、アクセスログの解析機能、ビジュアルエディターによるコンテンツ作成機能、画像管理機能などがある。ただし、旧ホームページシステムで蓄積してきた情報は膨大な量であることから、システムが移行された後も、原則としてこれらの情報にアクセスができるようになっている。

ホームページの内容は下記の通りである。

- ・博物館の紹介(開館日・交通案内・観覧料等)
- ・展示案内(企画展、特別陳列、常設展示、自然史コレクション、歴史・文化コレクション、県民コレクション)
- ・催し物、普及行事の案内
- ・調査研究活動の紹介
- ・収集保存活動(データベース)
- ・学校等への利用案内
- ・出版物(展示解説、研究報告、博物館ニュース等の案内)
- ・関連活動紹介(友の会、県博物館協議会等)
- ・学芸員関連のページ
- ・特別メニュー(子ども向けメニュー、映像コーナー、自宅で博物館を楽しもう!等)

ホームページには内容の全文検索やサイトマップを設置し、閲覧者が目的の内容にたどり着きやすくしている。

資料データベースでは、人文、動物、植物、地学の各分野で収蔵資料を検索できるシステムを構築している。資料の詳細情報や動植物の分布図等を公開している。また、当館に収蔵している図書についても、図書データベースを公開している。情報提供する項目のテキストデータ及び画像情報を専用フォルダーに入れておけば、自動的に情報提供用のデータベースに取り込まれる仕組みになっている。

ホームページの更新や追加は、月間催し物案内等について定期的に行っている。それ以外にも、各事業の担当者が随時行っている。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、3年度に導入した「常設展観覧予約システム」の運用を継続して行った。

インターネットでの普及行事申し込みを可能とするため、4年度は暫定的にメールによる行事申し込みを受け付けた。また、5年度の運用開始を目標に、受け

3. インターネットによる情報提供

(1) ホームページ

①概要

インターネット利用者の増加に伴い、博物館でその技術を活用した情報提供の可能性を探ってきた。平成11年7月よりホームページ <http://www.museum.comet.go.jp/> を開設した。20年10月に「徳島県文化の森総合公園情報提供システム」が構築されたことから、ホームページを <https://museum.bunmori.tokushima.jp/> に変更した。

令和3年の常設展示室リニューアルに伴い、ホームページシステム改修を行い、4年4月に新ホームページでの情報発信を開始した。ホームページシステム改修にあたっては、利用者のアクセシビリティやユーザビリティの向上と、ホームページシステムの効率的な管理運営を目標とし、CMS(コンテンツ・マネージ

付けフォームを用いた普及行事申し込みシステムの開発を行った。

②アクセス

4年度は、1年間でホームページへの総アクセス数が約1,091万件あった。ホームページへの総訪問者数は約40万人であった。

(2) Facebook (フェイスブック) ページ

インターネットメディアの多様化とソーシャルネットワークサービス（以下SNS）の普及に伴い、博物館をはじめとする社会教育機関においてもSNS等を活用した情報発信、情報交流が進められている。当館では、公式Facebookページを開設し、28年3月18日より運用を開始した。

Facebookページでは、博物館の催し物や活動等の情報を発信している。4年度は、25件の記事を新たに掲載した。内容は、企画展の告知、普及行事やボランティア活動の成果等、博物館の日常の活動を即時的に伝えている。また、勝浦町の恐竜化石に関する情報発信等、ホームページでは見られなかった即時性が特徴となり、情報提供のツールの一つとして活用されている。

(3) デジタルアーカイブの構築

「徳島県文化の森デジタルアーカイブ構築事業」により、新たに25点の資料を撮影した（累計116点）。また、TRC-ADEAC株式会社が制作・運営する、デジタルアーカイブの検索・閲覧を行うためのプラットフォームシステム「ADEAC」において、撮影データを公開した。

●月別のホームページへの総アクセス数と訪問者数

	訪問者数	アクセス数
2022年 4月	28,886	813,489
2022年 5月	35,147	979,413
2022年 6月	36,503	974,332
2022年 7月	43,696	1,415,882
2022年 8月	49,393	1,483,130
2022年 9月	33,833	878,827
2022年 10月	38,825	850,794
2022年 11月	31,964	778,000
2022年 12月	23,658	628,844
2023年 1月	24,884	702,619
2023年 2月	23,663	673,289
2023年 3月	30,929	733,713
合計	401,381	10,912,332

(4) Youtube チャンネル

情報提供を動画で行うことは日常生活の中でも身近なものとなってきた。当館では、動画共有サービスYoutubeに公式チャンネルを設け、3年度より本格的な運用を開始した。4年度のチャンネル登録者数は89人、総視聴回数は7,594回、総再生時間255.4時間、平均視聴時間2分0秒であった。

4年度は次の6本の動画をアップロードした（累計コンテンツ数18）。

①【徳島県立博物館】

トクシマ恐竜展2016（恐竜化石組み立てメイキング・タイムラプス）（1分58秒） 2022/04/20
撮影・編集：佐藤 陽一

②【徳島県立博物館トピックビデオ 05】

昆虫と昆虫標本（5分17秒） 2022/05/02
撮影・編集：佐藤 陽一

③【徳島県立博物館トピックビデオ 06】

文化の森のネコたち—公園ネコと地域ねこ活動サポーター（5分17秒） 2022/07/16
撮影・編集：佐藤 陽一

令和4年度企画展「ネコ展」（2022年7月16日～8月28日）の関連映像

④【徳島県立博物館】

文化の森の夏—猫のいる風景（55秒） 2022/08/11
撮影・編集：佐藤 陽一

令和4年度企画展「ネコ展」（2022年7月16日～8月28日）の関連映像

⑤【徳島県立博物館】

徳島県勝浦町恐竜化石発掘レポート2021（3分37秒） 2022/05/24
撮影・編集：辻野泰之・小布施彰太・エフエムびざん

⑥【徳島県立博物館】

徳島県勝浦町恐竜化石発掘レポート2021 一学芸員目線—（3分17秒） 2022/05/24
撮影・編集：辻野泰之・小布施彰太・エフエムびざん

4. 外部ネットワークとの連携

当館では、文部省の補助事業の一つとして、平成12年度及び13年度に環瀬戸内自然史系博物館ネットワーク推進事業に参加し、博物館の横断検索やいきものマップなどの外部とのネットワーク連携事業を行ってきた。

さらに、18年度からは、国立科学博物館が行っている自然系博物館における収蔵品データ整備事業に参加し、さらなる連携を深めている。事業の内容は、

全国の科学系博物館のホームページの内容を横断検索するものである。サイエンスミュージアムネット (<https://science-net.kahaku.go.jp/>) を使うことによって、160館以上のホームページを一度に検索することができる。収蔵品データの検索も準備されており、26年度には当館から徳島県産維管束植物及び昆虫類のデータを整備し提供した。日本語の検索及びGBIF (Global Biodiversity Information Facility: 地球規模生物多様性情報機構) のデータとしても横断検索できるようになった。

5. 情報システムの概要

第5期文化の森のシステム更新が平成23年度に行われ、29年度には第6期文化の森のシステム更新が行われた。基本的には前システムのパソコン等ハード、ソフトの置き換えである。令和2年度には、文化の森が知事部局へ移管されたことに伴い、徳島県文化の森総合公園情報提供システムを構築することになった。3年度からは第7期文化の森のシステム更新に向けた検討が始まった。第7期文化の森のシステムは5年度に運用開始予定である。

博物館のコンピュータシステムは、職員が日常的に使う業務用、来館者や館外者が利用する情報提供用の2つに大別できる。次のような構成で第6期システムの運用にあっている。

①業務用システム

業務用システムでは、コンピュータ室・研究室・作業室・収蔵庫・事務室等をイーサネット(1000BaseT)のLANでつないでいる。ファイルサーバ(Windowsサーバ)とデータベースサーバ(FileMaker Server16 Advanced)の2台のサーバを設置している。サーバのデータは、二十一世紀館に常駐するSE(システムエンジニア)によって毎日バックアップがとられている。職員1人に1台の端末を配置し、データベースやファイルを共有している。これらの端末は、作業の内容に応じた仕様となっており、たとえば収蔵庫では常設の端末ではなく、ノート型パソコンを活用している。

②情報提供用システム

情報提供用としては、Linuxサーバを用いて、WWWサーバと資料データベースを構築している。

柔軟なデータベース公開ができるように、MySQLサーバによるWebデータベースを構築し、博物館資料データベース、図書データベース及び新聞記事データベースを、WWWサーバと連携させて公開している。インターネットの回線が徳島県立総合教育センターに

集約されていたが、2年10月には、文化の森総合公園内に独立した情報提供用サーバを構築し、外部系サーバをコンピュータ室に設置、館内用サーバとともに管理している。

また、3年度にはホームページシステム刷新に伴い新たにCMSサーバを導入し、WWWサーバと連携させた。4年度より運用を開始した。

6. 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策

新型コロナウイルス感染症拡大への対応として、令和3年度に引き続きホームページに「自宅で博物館を楽しもう」のコーナーを設けて、来館しなくても博物館の展示等を楽しめる工夫をした。また、オンライン会議のツールであるズームを導入して、リモート授業や遠隔会議ができる環境を整えた。

VI 県民協働・参画

博物館は、主として県民をサービスの対象として各種の事業を展開している。より県民に親しまれる博物館となっていくためには、利用者が主体的に関わって博物館と協働したり、博物館の事業に参画したりする機会をもつことが重要である。博物館が地域にしっかりと根を下ろすとともに、社会教育・生涯学習の振興、ひいては地域の活性化につながっていくよう、なお一層の県民協働・参画を推進したいと考える。

1. 博物館友の会

博物館友の会は、博物館活動を通じて広く自然や歴史・文化に親しむとともに、会員相互の教養の向上と親睦を図ることを目的として組織されたものである。幅広い年齢層の会員が集い、博物館活動への参加・支援を行い、さらには友の会独自の行事も行っている。事務局は当館内に置いている。

■会員（令和4年度末）

個人会員（年会費 2,000 円）	42 人
（半年会費 1,000 円）	4 人
家族会員（年会費 3,000 円）	54 組 193 人
（半年会費 1,500 円）	4 組 15 人

■役員（令和4年度）

会長：行成正昭
 副会長：徳野壽治、大杉洋子、長町哲治（博物館長）
 幹事：幸坂敏行、結城孝典、本田壮一、坂井なつ
 監査：石尾和仁、中村由香



ザ・バックヤード

■事業

●博物館出版物の増刷・頒布

令和4年度博物館企画展の図録（「阿波の画壇をたのしむ—近世の画人と作品—」）の増刷・頒布を行った。

●広報活動

新規会員の獲得を目指し、勧誘ポスターの掲示や会員募集案内チラシの配布を行ったほか、催し物案内、博物館ニュース、企画展チラシ等を活用した。また、館内の掲示板や博物館ホームページを活用して、会員募集や活動報告等の情報発信に努めた。

友の会会報「アワーミュージアム」No.70・71を発行し、会員に配付した。

① No.70（2022年10月31日発行）

友の会と歩んだ6年間

「徳島」を再発見できた友の会行事

家族で、友の会と博物館での体験を語る

友の会行事報告 ザ・バックヤード

報告 2022年度総会

新スタッフ紹介

② No.71（2023年3月31日発行）

石割り職人修行中—見つけた化石がイグアノドン類の歯と同定されました—

淡路島の源平ゆかりの地

友の会行事報告 川田八幡神社秋祭りを見にいこう！

友の会行事報告 漂着物をさがそう

友の会行事報告 銅鏡をつくろう

●会員対象行事

会員を対象とする行事を7回実施した。



愛媛日帰りバスツアー

- ①ザ・バックヤード 8月21日(日) 25人
場所：県立博物館
- ②祭りを見に行こう！ 10月22日(土) 5人
場所：吉野川市山川町
- ③漂着物をさがそう 10月23日(日) 23人
場所：海部郡美波町
- ④銅鏡をつくろう 11月27日(日) 19人
場所：県立博物館
- ⑤おふだをしらべよう 2月18日(土) 6人
場所：県立博物館
- ⑥化石をさがそう！ 3月4日(土) 16人
場所：県立博物館
- ⑦愛媛日帰りバスツアー 3月21日(火・祝) 23人
場所：愛媛県新居浜市

2. 公募ボランティア

(1) イベント企画を中心とするボランティア

平成17年度から、博物館の常設展示室を活用し、博物館や博物館資料の魅力を伝えるためのイベントを企画・運営するボランティアを公募し、毎年2月11日に開催するボランティア企画イベント「博物館Vキング」に向けて、年間を通して活動している(年報15号p.43～44参照)。

常設展のリニューアルを機に、令和4年度は、「Vキング」以外にも、博物館活動にボランティアとして参加してもらう取り組みを行った。新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けた部分もあるが、2～3年度に比べ、順調に活動を進めることができた。

4年度は、5月に前年度のボランティア参加者を中心に1回、8月にも2回の全体会を行い、11月3日と2月11日の2回、ボランティアの協力によるイベントを行うことを決定した。元年度まで、館外のイベン



はにわパズルをくみだてよう!

トである「科学体験フェスティバル in 徳島」等にブースを出展していたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、4年度も出展を見合わせた。こうした中でも、31名のボランティアスタッフが活動に参加し、年間を通じて23回の会合を開き、2件のイベントを実施した。

また、イベントの開催を目標とした活動以外に、勝浦町の恐竜化石含有層の岩石の小割にも、ボランティアに協力してもらった。

①ボランティアイベント(文化の森秋祭り)

11月3日(木・祝)

文化の森で開催された「文化の森秋祭り」の一環として、はじめて博物館ボランティア協力によるイベントを実施した。

内容は以下の3つで、最初の2つを常設展のコミュニケーションゾーンで、後の1つをエントランスで実施した。

参加者：1,776人

- ・タネは空を飛ぶ
- ・はにわパズルをくみだてよう!
- ・化石を触ってみよう

ボランティアスタッフ：24人

②ボランティアイベント「博物館Vキング」(文化の森ウィンターフェスティバル)

2月11日(土・祝)

例年、文化の森で開催される「文化の森ウィンターフェスティバル」の一環として、博物館ボランティアとの協働によるイベントを実施している。新型コロナウイルス感染症の感染者数も少なくなっており、このイベントでは、コロナ禍前の来館者数があった。

内容は以下の3つで、いずれも常設展示室内で実施した。

参加者：2,288人



恐竜化石含有層から発見された化石を観察してみよう!

- ・100年後の「あなた」に伝えたい！わたしの大切な「モノ」
- ・博物館で絵本読み聞かせ（10：30～11：30、13：30～14：00、15：00～15：30の3回）
- ・恐竜化石含有層から発見された化石を観察してみよう！

ボランティアスタッフ：21人

(2) 展示制作を中心とするボランティア

令和4年度笹川科学研究助成（実践研究部門）を受け、博物館活動の活性化の実践「ボランティアと一緒に光る貝の展示を作ろう」のテーマのもと、ボランティアを募集し、海岸や身の回りでブラックライトで光る生き物を集めた。その成果を、常設展の自然史コレクションで開催した「かがやく生き物プレビュー」で展示し、5年度の企画展における展示手法について試行した。会合は計8回行った。

その成果は次の通りである。

- ①ボランティアとの協働によりさまざまな資料が集まった。タチウオの頭骨標本やタカラガイ等、今まで光ることが知られていなかった生き物を多く集めた。
- ②野外での観察・採集システムを構築した。今回導入したポータブル電源と蛍光灯型ブラックライトにより、野外でもブラックライトによる広範囲の照射が可能となり、今後も継続して光る生きものを採集するシステムを構築できた。
- ③「かがやく生き物プレビュー」の展示を作り上げた。ボランティアのアイデアを加えて、さまざまな改良を行った。
- ④ボランティアの観覧者側の視点を知ることができた。展示での感想として、ラベルの文字が小さいなどの声が聞かれるので、どのサイズのラベルが良いのか試行した。また、小さい子供からは、展示の高さなどについて意見を得た。



展示のための光るハーバリウムを試作するボランティア

- ⑤調査・研究、収集・保存、展示等の博物館活動を体験してもらいボランティアの博物館に対する理解を深めてもらった。今後も協力を得られる関係を構築した。

ボランティアスタッフ：32人

(3) 博物館事業を支援するボランティア

「日本最古級恐竜化石含有層発掘調査発信プロジェクト」に協力して、かんきつテラス徳島で恐竜化石含有層の岩石の小割をし、化石の探索を行った。

ボランティアスタッフ：5人

3. 各種事業での県民協働・参画活動の推進

展示・普及教育・調査研究事業のうち、以下について、県民と協働で実施した。

(1) 展示

●県民コレクション

みんなで調べた徳島のタンポポ

令和3年度（3月29日（火）～7月10日（日）

県民協働で実施した「タンポポ調査・西日本2020」の成果を展示した。

●自然史コレクション

かがやく生き物プレビュー

7月26日（火）～5年度（4月2日（日））

5年度開催予定の企画展の内容にあわせて、身の回りの生きものがブラックライトで光る様子を紹介した。

●歴史・文化コレクション

太布一樹皮から布をつくる手仕事―

3年度（3月15日（火）～7月18日（月・祝）

阿波太布製造技法保存伝承会との協働及び太布織り作家1名の出品により展示した。

(2) 普及教育

●野外自然かんさつⅡ〈植物〉

4月4日（日） 初めての植物かんさつ（春編）

5月8日（日） 川魚かんさつ初夏編

5月8日（日） 花巡り！植物かんさつハイキング
5月～風薫る季節を体感～

6月5日（日） 初めての植物かんさつ（梅雨期編）

7月2日（土） 花巡り！植物かんさつハイキング
7月～山開き自然の中へ～

- 7月24日(日) 川魚かんさつ夏編
- 7月31日(日) 漂着物を探そう!
- 9月25日(日) 花巡り!植物かんさつハイキング
9月～秋の七草探してみませんか?～
- 10月16日(日) 川魚かんさつ秋編
- 11月20日(日) 花巡り!植物かんさつハイキング
11月～植物の冬支度を見に行こう!～
- 12月4日(日) 初めての植物かんさつ(冬編)
- 1月29日(日) 初めての植物かんさつ(新春編)
- 3月26日(日) 初めての植物かんさつ(早春編)

●生きものしらべ隊

- 8月7日(日) 魚類の頭骨標本をつくろう

●ミュージアムトーク

- 4月24日(日) ゼロから始める植物学～植物用語編～
- 6月5日(日) ゼロから始める植物学～名前の調べ方編～
- 7月17日(日) ゼロから始める植物学～標本の作り方編～&初めての植物かんさつ(夏編)
- 12月4日(日) ゼロから始める植物学～植物の名前編～
- 1月29日(日) ゼロから始める植物学～標本整理編～
- 3月26日(日) ゼロから始める植物学～植物分類学入門～

(3) 調査研究

●日本最古級恐竜化石含有層発掘調査・発信プロジェクト

徳島県勝浦町で行われた恐竜化石含有層の発掘調査では、県内の化石愛好家や阿波勝浦井戸端塾等のボランティア45人の協力を得て、化石の探索作業を行った。

10月21日(金)～12月21日(水):化石発掘現場での調査および後方支援施設での作業

●漂着物の調査

県内の漂着物研究会である「とくしま海の観察会」と、年4回定期的に県内海浜において漂着物の調査を実施している。調査結果は、展示や県民向けの講座等で活用している。

●伊勢田川での魚類相調査

阿波魚類研究会とともに、伊勢田川に生息する魚類を調査した。

●アサギマダラのマーキング調査

県民へ参加を呼びかけて実施している調査ではな

く、問い合わせのあった方に協力をお願いしている。県内のマーキング記録は、アサギマダラメーリングリスト[asagi]、[asaginet]およびアサギネット掲示板から情報を整理している。

(4) 資料収集保存

●常設展示室のIPM(総合的有害生物管理)調査

常設展示室のIPMを実施するにあたり、博物館学芸員資格取得を目指している大学生3名と協働で、博物館資料に被害する生物の種類や数量について、月1度の定期的な調査を行った。4年度は、四国大学及び龍谷大学の学生が参加した。

VII シンクタンクとしての社会貢献

博物館は、その活動を通じて様々な資源（資料、情報、学芸員の知識・経験）を蓄積している一種のシンクタンクである。これらの資源を活用して地域社会に貢献し、また、県政の課題解決に寄与することも、博物館の重要な役割であると考え、積極的に取り組むこととしている。

1. レファレンス業務

一般の県民や児童・生徒・学生、教職員、行政職員、マスコミ、企業等から寄せられた質問や問い合わせに対応する業務を、当館ではレファレンス業務と呼んでいる。問い合わせ方法としては、来館、電話、Eメール、文書によるもの等がある。当館ではこれらの問い合わせを、対応の記録や博物館に対するニーズを把握する目的で、データベース化している。

令和4年度に行ったレファレンスの件数は301件で、分野別内訳は下表の通りである。この記録は、博物館レファレンス記録データベースに記録されたデータに基づいている。ただし、同様の問い合わせが集中した

●分野別レファレンス件数（令和5年3月31日現在）

分野	件数
動物（脊椎）	39
（無脊椎）	6
（昆虫）	4
植 物	36
地 学	70
考 古	19
歴 史	72
民 俗	21
美術工芸	18
保存科学	3
そ の 他	13
合 計	301

ときなど、すべてを記録できているわけではないため、実際の件数はこれより2～3割程度多いと考えられる。

職業別の割合を見ると、一般（不明を含む）からの問い合わせが147件（48%）で最も多く、次いでマスコミ・出版関係が98件（33%）、博物館・図書館・官公庁等が24件（8%）、大学生・院生・研究者等が12件（4%）、高校生以下の児童・生徒及び教員等が11件（4%）、その他が9件（3%）であった。

2. 各種委員会委員等の受諾

令和4年度に、博物館職員が委嘱を受けた各種委員会委員、学会役員等は次の通りである。

長町哲治

（公財）日本博物館協会参与

（令和4.4.1～5.3.31）

日本博物館協会四国支部副支部長

（令和4.4.1～5.3.31）

四国地区博物館協議会副会長

（令和4.4.1～5.3.31）

徳島県博物館協議会会長

（令和4.4.1～5.3.31）

長谷川賢二

徳島県人権教育啓発推進委員会専門委員

（平成19.5.1～）

阿波遍路道・札所寺院保存検討委員会委員

（令和2.7.1～4.6.30、4.7.1～6.6.30）

吉野川支流域名勝調査委員会委員

（令和2.6.1～事業終了の日）

藍住町歴史館「藍の館」エントランスリニューアル業務受注者選定委員会委員

（令和4.4.1～5.3.31）

高大連携教育研究会専門委員

（令和4.4.1～5.3.31）

徳島県戦没者記念館企画委員会委員

（平成27.7～令和5.3.31）

兵庫県立歴史博物館運営懇話会委員

（令和4年度）

四国遍路関係資料調査研究会委員

（令和4.4.1～5.3.31）

- 日本博物館協会賞選考委員
(令和 5.1.1 ~ 7.12.31)
- 日本山岳修験学会理事
(令和 3 年度~ 4 年度)
- 国際熊野学会委員
(令和 3.4.1 ~ 6.3.31)
- 日本ミュージアム・マネジメント学会中・四国支部会副支部長
(平成 30 年度~)
- 四国中世史研究会運営委員
(令和 3.4 ~ 5.3)
- 歴史資料保全ネットワーク・徳島運営委員
(平成 25.9.1 ~)
- 小川 誠
徳島県土木工事環境配慮アドバイザー
(令和 4.4.1 ~ 5.3.31)
- NPO 法人西日本自然史系博物館ネットワーク理事
(平成 21.4.1 ~ 令和 5.3.31)
- 徳島県希少野生生物保護検討委員会委員
(平成 31.4.1 ~ 令和 5.3.31)
- 環境省希少野生動植物種保存推進員
(平成 24.7.1 ~ 令和 5.6.30)
- 吉野川支域名勝調査委員会委員
(令和 2.6.1 ~ 事業終了の日)
- 阿波学会理事
(令和 3.4.1 ~ 5.3.31)
- 中尾賢一
産業技術総合研究所客員研究員
(令和元 .5.1 ~ 5.3.31)
- 三好ジオパーク構想推進協議会学術顧問
(令和元~ 事業終了の年)
- 茨木 靖
徳島県希少野生生物保護検討委員会委員
(令和 5.4.1 ~ 令和 6.3.31)
- 環境省希少野生動植物種保存推進員
(平成 24.7.1 ~ 令和 6.6.30)
- 辻野泰之
日本古生物学会 化石友の会幹事
(令和 3.7.1 ~ 5.6.30)
- 井藤大樹
徳島県田園環境検討委員
(令和 2.1.15 ~)
- 国土交通省四国地方整備局「河川・溪流環境アドバイザー」
(令和 3.4.1 ~)
- 鹿児島大学総合博物館「Ichthy-Natural History of Fishes of Japan」編集委員
(令和 4.3.1 ~)
- 魚類学会会計幹事
(令和 4.9.18 ~)
- 庄武憲子
四国民俗学会理事
(令和 3.4.1 ~ 4.3.31)
- 磯本宏紀
公益財団法人徳島県文化振興財団民俗資料委員会委員
(令和 3.4.1 ~ 5.3.31)
- 「鳴門の渦潮」調査研究プロジェクト実行委員会・
「淡路島と鳴門の渦潮」調査研究チーム委員
(令和 4.4.1 ~ 5.3.31)
- 阿波学会紀要第 64 号編集委員
(令和 3.7.13 ~ 5.3.31)
- 阿波学会評議員・監事
(令和 3.4.1 ~ 5.3.31)
- 藍住町文化財保存活用地域計画策定協議会委員
(令和 3.6.1 ~ 6.3.31)
- 日本民具学会第 36 回研究奨励賞委員
(令和 4.3.1 ~ 9.30)
- 日本民具学会理事・評議員
(令和 4.10.1 ~)
- 日本民俗学会評議員
(令和 4.9.1 ~)
- 文化庁委託業務「地域の伝統行事等のための伝承事業」コーディネーター
(令和 4.9.9 ~ 5.3.31)
- 鳥居龍蔵がつなぐ台湾と徳島の文化交流事業実行委員会委員
(令和 4.4.1 ~ 5.3.31)
- 松永友和
徳島地方史研究会運営委員
(平成 23.5 ~)
- 歴史資料保全ネットワーク・徳島運営委員
(平成 25.9.1 ~)
- 阿波学会紀要第 64 号編集委員
(令和 4.6.5 ~ 5.3.31)
- 植地岳彦
松茂町歴史民俗資料館・人形浄瑠璃芝居資料館協議会委員
(令和 3.4.1 ~ 5.3.31)
- 史跡若杉山辰砂採掘遺跡整備基本計画策定委員
(令和 3.8.2 ~)

3. 講師の派遣

館外からの依頼を受けた講師派遣等を、月日・担当者・依頼者・内容・場所の順に記す（内容に依頼者・場所が表現されている場合は依頼者・場所を省略）。

なお、小・中・高校からの依頼による出前授業、教員の研修への講師派遣については、「Ⅱ 普及教育」の「2. 学校教育支援事業」に記載している（詳細は p.18～19 参照）。

- 4月17日 辻野泰之・小布施彰太
徳島化石研究会第44回少年少女地学班化石採集会に講師として協力（勝浦町中小屋）
- 6月2日 松永友和
徳島県立総合看護学校の授業科目「阿波の探求」を担当「阿波藍の歴史—徳島藩の政治と社会—」
- 6月3日 長谷川賢二
徳島県遺族会西部ブロック研修会で講演「『青い目の人形』と戦争」（吉野川市アメニティセンター）
- 6月4日 長谷川賢二
徳島県遺族会南部ブロック研修会で講演「『青い目の人形』と戦争」（阿南市文化会館）
- 6月5日 長谷川賢二
徳島県遺族会東部ブロック研修会で講演「『青い目の人形』と戦争」（徳島県護国神社）
- 6月9日 松永友和
徳島県立総合看護学校の授業科目「阿波の探求」を担当「阿波藍の歴史②—藍商と紺屋の関係を中心に—」
- 6月12日 庄武憲子
三好郷土史研究会で講演「山城の鉦踊」（三好市池田町総合体育館第一第二会議室）
- 6月15日 長谷川賢二
徳島県シルバー大学校大学院歴史・文化講座で講演「中世の社会と信仰」（徳島県立総合教育センター）
- 6月16日 松永友和
徳島県立総合看護学校の授業科目「阿波の探求」を担当「阿波・徳島の地域史—近世・近現代の徳島—」
- 7月1日 大橋俊雄
徳島県シルバー大学校徳島校OB会歴史文化倶楽部月例講座で講演「阿波の画壇—狩野派と住吉派の興亡—」（あわぎんホール）
- 7月10日 辻野泰之・小布施彰太
徳島化石研究会第45回少年少女地学班化石採集会に講師として協力（徳島県立博物館）
- 7月14日 松永友和
海部郡文化財保護審議会連絡協議会研修会で講演

- 「武士の四国遍路」（牟岐町海の総合文化センター）
- 7月21日 茨木 靖
松茂町歴史民俗資料館で講義と実習「ビーチコーミングってな～に？」（とくしま海の観察会の会員と共同）
- 7月25日 植地岳彦
鳴門教育大学令和4年度社会教育主事講習生涯学習概論で講義「博物館の役割と機能」
- 7月27日 井藤大樹
松茂町大手海岸での海岸の生き物観察会に講師として協力（松茂町大手海岸）
- 8月5日 井藤大樹
吉野川交流推進会議「交流体験 in よしのがわ（下流編）～おさかな博士の川魚かんさつ～」講師（鮎喰川）
- 8月7日 茨木 靖
松茂町歴史民俗資料館で実習「ビーチコーミング」（月見が丘海浜公園、とくしま海の観察会の会員と共同）
- 8月28日 辻野泰之
福井県立恐竜博物館連携博物館セミナーで講演「徳島県の恐竜化石発掘調査」（福井県立恐竜博物館）
- 8月29日 長谷川賢二
徳島市立教育集会所職員研修会で講演「部落史の見方・考え方」（徳島市立応神教育集会所）
- 9月4日 長谷川賢二
和歌山県立紀伊風土記の丘「連続講座 熊野」第8回で講演「修験道と熊野」
- 9月6日 長谷川賢二
徳島県シルバー大学校小松島校で講演「弘法大師信仰と四国遍路の成立」（小松島市総合福祉センター）
- 9月14日 長谷川賢二
四国八十八ヶ所霊場会第39回公認先達大会で講演「四国遍路の形成を考える」（徳島県立産業観光交流センター）
- 9月21日 庄武憲子
徳島県シルバー大学校大学院歴史・文化講座「民俗学①②」（徳島県立総合福祉センター）
- 10月1日 長谷川賢二
徳島県立二十世紀館「文化の森 いざ・なう伝統芸能の世界～琵琶・義太夫～」で解説「中世の阿波」（すだちくん森のシアター）
- 10月15日 小布施彰太
勝浦町化石の日講演「徳島恐竜化石の最新事情」（勝浦町住民福祉センター）
- 10月19日 長谷川賢二
徳島県シルバー大学校大学院歴史・文化講座で講演

- 「弘法大師信仰と四国遍路の成立」(徳島県立総合福祉センター)
- 10月23日 小川 誠
文化庁助成事業：地域と共働した博物館創造活動支援事業「地域と世界をつなぐ～阿波の手工芸を核とした文化交流の提案」で講演「高越山系の多彩な植物 和紙の原料となる植物と植物染料」(吉野川市アメニティセンター)
- 11月2日 長谷川賢二
徳島県シルバー大学校大学院歴史・文化講座で講演「戦国軍記と阿波三好氏の落日」(徳島県立総合福祉センター)
- 11月5日 庄武憲子
うみ・やま・まち重伝建シンポジウムで講演「民俗文化財の活用と地域の活性化について」(三好市東祖谷歴史民俗資料館保存伝承ホール)
- 11月8日 植地岳彦
徳島県文化資源活用課の文化財巡視員講習で講義「文化財の生物被害について」(徳島県庁)
- 11月10日 松永友和
徳島県シルバー大学校鳴門校で講演「江戸時代の旅と「鳴門」見物」(鳴門・大塚スポーツパーク)
- 11月14日 磯本宏紀
徳島県シルバー大学校大学院歴史・文化講座で講演「海と魚食文化」(牟岐町海の総合文化センター)
- 11月16日 辻野泰之
鳴門ライオンズクラブ例会で講演「徳島県勝浦町の恐竜化石について」(ホテルファーストシーズン<鳴門>)
- 11月23日 辻野泰之
「第21回恐竜の里ウォークラリー」に講師として協力(勝浦町人形文化交流館および恐竜の里)
- 11月30日 大橋俊雄
八幡公民館成人講座で講演「住吉派の絵師一渡辺家について」(吉野川市市場町八幡公民館)
- 12月5日 松永友和
歴史文化倶楽部で講演「日本初の人類学者・坪井正五郎と鳥居龍蔵」(あわぎんホール)
- 12月8日 磯本宏紀
中国・四国地区図書館地区別研修で講演「誰もが楽しめる場所を目指して」(文化の森イベントホール)
- 12月10日 長谷川賢二
愛媛県鬼北町教育委員会「山寺講座2」第2回で講演「中世における山の宗教の広がり」(鬼北町中央公民館)
- 12月10日 松永友和
徳島県遺族会第77回語り部事業で講演「戦争と平

和を考える―博物館資料を中心に―」(徳島県戦没者記念館)

- 12月21日 松永友和
徳島県シルバー大学校大学院歴史・文化講座で講演「大塩平八郎と阿波・徳島」(徳島県立総合福祉センター)
- 1月11日 長谷川賢二
徳島県シルバー大学校阿南校で講演「弘法大師信仰と四国遍路の成立」(阿南ひまわり会館)
- 1月31日 松永友和
徳島県シルバー大学校上板校で講演「江戸時代後期の阿波藍と徳島藩」(上板町老人福祉センター)
- 2月15日 辻野泰之
阿南市文化協会研修会に講師として協力(徳島県立博物館)
- 2月18日 磯本宏紀
一般財団法人阿波和紙伝統産業会館で講演「なぜ木頭に太布の製造技法が残ったのか」(阿波和紙伝統産業会館)
- 3月21日 長谷川賢二
四国遍路世界遺産登録推進協議会・徳島県「四国遍路を未来につなぐまちづくり講座」で講演「四国遍路の源流」(美波町コミュニティホール)
- 3月21日 松永友和
シンポジウム「鴻池新田会所日記を紐解く」で講演「大坂代官 万年長十郎について」(国史跡・重要文化財 鴻池新田会所)

4. 大学教育への寄与

(1) 大学非常勤講師の受託

令和4年度に、博物館職員が委嘱を受けた大学非常勤講師は次の通りである。

磯本宏紀

徳島大学非常勤講師(博物館経営論)
(令和4.4.11～4.9.30)

植地岳彦

四国大学非常勤講師(博物館実習Ⅰ)
(令和4.4.3～4.9.23)

松永友和

四国大学非常勤講師(博物館実習Ⅰ)
(令和4.4.3～4.9.23)

(2) 博物館実習生の受け入れ

博物館実習は、博物館法施行規則第1条において、学芸員となる資格を取得するために「大学において修

50 シンクタンクとしての社会貢献

令和4年度 博物館実習カリキュラム

		A 班 (3人)		B 班 (4人)	
		実習名(場所)	担当者	実習名(場所)	担当者
8/23(火)	午前	館長あいさつ(実習室)	長町	館長あいさつ(実習室)	長町
		ガイダンス・館内施設見学	磯本	ガイダンス・館内施設見学	磯本
	午後	民俗資料の整理(実習室・歴民収蔵庫)	庄武	貝化石標本の作製と整理(作業室・地学収蔵庫)	中尾
8/24(水)	午前	貝化石標本の作製と整理(作業室・地学収蔵庫)	中尾	民俗資料の整理(考古収蔵庫)	磯本
	午後	液浸標本の取り扱い(標本作製室・液浸収蔵庫)	井藤	博物館とSDGs(文化の森総合公園内・実習室)	小川
8/25(木)	午前	勝浦町発掘調査の岩石小割り(屋外テラス)	小布施	化石標本の整理(地学収蔵庫)	辻野
	午後	展示環境調査(実習室・展示室)	植地	展示環境調査(実習室・展示室)	植地
8/26(金)	午前	歴史資料の整理(作業室ほか)	松永	歴史資料の整理(作業室ほか)	下田・小林
	午後	常設展改善検討実習	磯本	植物標本の整理(分析室・生物収蔵庫)	茨木
8/27(土)	午前	美術工芸資料の取り扱い(講座室)	大橋	美術工芸資料の取り扱い(講座室)	大橋
	午後	博学連携・普及業務体験(実習室・常設展示室)	森	博学連携・普及業務体験(実習室・常設展示室)	森

得すべき博物館に関する科目」と規定されているものの一つで、登録博物館または博物館相当施設における実習で修得することになっている。

当館では、大学からの依頼により、原則として県出身の学生を受け入れることにし、夏休み期間中に実習を行っている。4月1日～5月15日が受付期間で、希望者が多い場合は調整を行い、20人程度をめぐりに受け入れることにしている。

4年度は、8月23日(火)～27日(土)に実習生の受け入れを行った。実習生は7人で、大学別の内訳は次の通りである。

岡山大学	1人
神戸女子大学	1人
四国大学	4人
徳島文理大学	1人

なお、同時期に、徳島県人事課の依頼により、「1DAY 徳島県職員チャレンジ実習」として大学生及び短大生を2名、徳島県立総合教育センターの依頼により「フレッシュ研修Ⅱ 企業等研修」として教員を4名受け入れた。このうち、「フレッシュ研修Ⅱ 企業等研修」は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、10月25～26日に日程変更して実施した。

カリキュラムは上表の通りである。実習生をA・Bの2班に分けて、学芸員等職員が指導にあたり、資料の整理や調査などについての実習を行った。

(3) 学芸員養成科目開講への協力

徳島県と徳島大学、鳴門教育大学、四国大学とのあ

いだの協定(年報22号参照)に基づき、学芸員資格の取得を希望している3大学の学生のために、「博物館資料保存論」「博物館展示論」「博物館教育論」の開講に協力した。講義は、当館職員を中心に、大学教員、近代美術館・文書館職員が共同で担当した。博物館講座室を会場としたが、4年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、一部がオンライン授業となった。

各科目の日程、受講者数は次の通りである。

- ①博物館資料保存論 9月6日、9月8日～10日、9月16日
徳島大4人、鳴門教育大5人、四国大31人
- ②博物館展示論 3月1日～4日
徳島大7人、鳴門教育大6人、四国大23人
- ③博物館教育論 3月7日～11日
徳島大7人、鳴門教育大5人、四国大25人

5. 学会・研究会等の運営への寄与

(1) 学会・研究会等の開催

令和4年度に当館学芸員が担当し、当館及び文化の森の施設を会場として開催された学会・研究会等は次の通りである。

●徳島地域文化研究会

開催日：7月24日(日)

会場：博物館講座室

参加者：6人

(2) 当館が事務局等を引き受けている学会・研究会等

●徳島地域文化研究会

主として徳島県域をフィールドとする民俗学・文化人類学研究者によって構成されており、研究会やシンポジウム（年2～3回程度）、会誌「徳島地域文化研究」の発行（年刊）等を行っている。

●四国民具研究会

四国地域をフィールドとする民具研究者により構成されており、研究会の開催（年2回程度）、会報「四国民具通信」の発行、会誌「民具集積」（年刊）の発行、調査報告書の発行、資料の調査研究等を行っている。

●四国民俗学会

四国地域の民俗研究者により構成されており、研究会の開催（年1回程度）、会誌「四国民俗」の発行（年刊）、資料の調査研究等を行っている。

6. 博物館ネットワーク

(1) 四国地区博物館協議会及び日本博物館協会四国支部

四国地区博物館協議会及び日本博物館協会四国支部は、四国地区の博物館及び相当施設の連絡・協議組織で、現在74館（園）が加盟している。4県が持ち回りで2年ずつ会長・事務局をつとめることになっており、令和4～5年度は高知県立高知城歴史博物館が会長館をつとめ、当館は副会長館をつとめている。

4年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、例年開催される役員会・総会は書面開催となったが、第70回全国博物館大会（令和4年11月16日～18日、高知市）を研修の機会とした。

(2) 徳島県博物館協議会

徳島県内の博物館施設が相互協力して博物館活動の振興を図るため、平成8年2月27日に設立された。当時31館であった加盟館は、その後増減を経て、5年3月末現在で50館になっている。当館が事務局をつとめている。

●令和4年度事業

①役員会の開催

6月24日（金） 徳島市立考古資料館

11月11日（金） 海陽町立博物館

②総会の開催

日時：6月24日（金） 13：30～15：15

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、総会と役員会を兼ね、短時間で実施した。

場所：徳島市立考古資料館

議事：令和3年度事業報告及び決算報告

令和3年度監査報告

令和4年度事業計画及び予算

その他

講演：塩瀬隆之氏（京都大学総合博物館准教授）

「インクルーシブ社会が迫る博物館の新たな役割：法改正の狙いと活用への期待」

視察：大栗美菜氏（徳島市立考古資料館学芸員）

参加者：31人

③加盟館園の職員状況と入館者数一覧の作成・配布

④徳島県博物館協議会ニュースの発行

No.69～71を発行・配布した。

⑤研修会の開催

日時：11月11日（金） 12：40～15：30

場所：海陽町立博物館

内容：①常設展・企画展「薩摩拵と海部拵」展示解説

②阿波海南文化村の施設見学

解説・案内：別府優香氏（海陽町立博物館主事）

参加者：18人

(3) 人権資料・展示全国ネットワーク

人権資料・展示全国ネットワーク（略称「人権ネット」）は、人権確立のための研究、教育、啓発に寄与することを目的に、人権に関する資料の収集保管、調査研究、展示等を行う博物館、資料館、人権センター、研究所等により、平成8年に結成された。現在、31機関・団体が加入している。4年度は、北海道平取町で第27回総会及びフィールドワークが行われた（10月13～14日）。

(4) 西日本自然史系博物館ネットワーク

NPO法人西日本自然史系博物館ネットワークは、平成12～13年度に文部科学省の委嘱を受け行われた環瀬戸内地域自然史系博物館ネットワーク推進事業の継承と発展を図るため、大阪市立自然史博物館及び兵庫県立人と自然の博物館の主導により、個人参加によるゆるやかな連携組織として、16年4月27日に設立された。博物館学芸員及び関係者139人が参加している。

4年度は、「2021-2022 自然史系博物館 世界の動き、日本の動き」や「自然史博物館のデジタル化はどこを目指すか」等の講演会を行った。

(5) 阿波しらさぎ大橋環境モニタリング調査
GIS データの管理

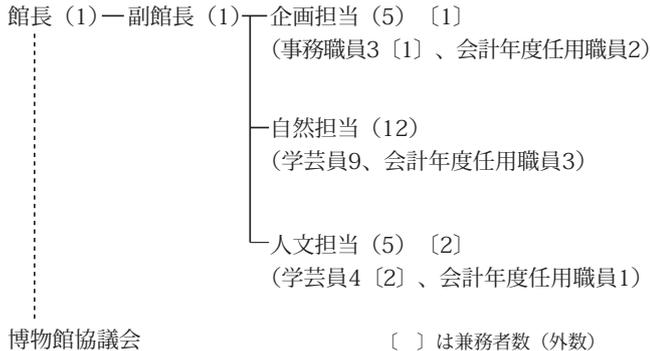
吉野川河口に平成 24 年 4 月に開通した阿波しらさぎ大橋については、建設に当たって当館の複数の学芸員が環境アドバイザー会議のメンバーとして参画し、11 年間にわたって実施された環境調査標本を受け入れてきた。

徳島県は長期にわたって吉野川河口域において詳細に調査されたデータを環境保全や環境教育に広く役立ててもらうために、GIS データとしてとりまとめ配布することになった（制作は県土整備部都市計画課）。先の経緯から当館が GIS データを収録した DVD の管理を担当することとなり、27 年 3 月より試行版の配布を開始し、正式版は 27 年 5 月より配布を開始した。

VIII 管理運営・マネジメント

1. 組織・職員

(1) 組織図（令和5年6月1日現在）



(2) 職員名簿（令和5年6月1日現在）

館長	長谷川賢二
副館長	東條 正幸
〈企画担当〉	
課長補佐	植地 岳彦 (考古・保存科学)
係長	丸山 直生
〃	鉄谷 雅史
主査兼係長	桃内 美香 (二十一世紀館主査兼係長本務)
会計年度任用職員	荒川 範子
〃	藤重 芽里
〈自然担当〉	
課長	小川 誠 (植物)
上席学芸員	中尾 賢一 (地学)
上席学芸員	茨木 靖 (植物)
専門学芸員	辻野 泰之 (地学)
主 席	佐藤 陽一 (動物)
主 任	井藤 大樹 (動物)
主任学芸員	小布施彰太 (地学)
学 芸 員	鈴木 佑弥 (動物)
学 芸 員	外村 俊輔 (動物)
会計年度任用職員	宮田正友美
〃	宗像 史恵
〃	小林 亮介
〈人文担当〉	
課長	大橋 俊雄 (美術工芸)
上席学芸員	庄武 憲子 (民俗)
専門学芸員	磯本 宏紀 (民俗)
学芸係長	松永 友和 (歴史)

主任学芸員 小林 篤正 (歴史)
 (鳥居龍蔵記念博物館学芸員本務)
 学 芸 員 坂東 泰 (歴史)
 (鳥居龍蔵記念博物館学芸員本務)
 会計年度任用職員 尾崎みどり

(3) 人事異動

〈令和5年3月31日付〉
 退職 (兼務解除)：石橋典子・課長補佐
 〈令和5年4月1日付、転入者のカッコ内は前職〉
 転出：森 篤之・課長補佐、新野中学校教頭へ
 転入：鉄谷 雅史・係長 (宍喰中学校教諭)
 新採：鈴木 佑弥・学芸員
 外村 俊輔・学芸員
 転入 (新採・兼務)：坂東 泰・学芸員
 〈令和5年6月1日付、転入者のカッコ内は前職〉
 転出：長町 哲治・館長、保健福祉部副部長へ
 後藤 優樹・主任、運輸政策課主任へ
 転入：長谷川賢二・館長 (鳥居龍蔵記念博物館長)
 東條 正幸・副館長
 (徳島視覚支援学校事務課長)
 桃内 美香・主査兼係長
 (東部保健福祉局主査兼係長)

(4) 令和4年度会計年度任用職員

田原 晶子 (令和4.4.1～5.3.31)
 田中 裕美 (令和4.4.1～5.3.31)
 豊谷 千幸 (令和4.4.1～5.2.28)
 尾崎みどり (令和4.4.1～5.3.31)
 中村美代子 (令和4.4.1～5.3.31)
 荒川 範子 (令和4.4.1～5.3.31)

2. 予算

2月現計予算額 (2月補正後の予算額) を下に示す。

●令和4年度博物館費 (2月現計予算額) (単位:千円)

予算総額	76,535
管理運営	3,034
展覧	13,072
調査研究	1,598

収集保存	5,536
普及教育	1,295
日本最古級恐竜化石含有層緊急発掘調査プロジェクト	34,000
博物館誘客強化事業	18,000

3. 文化の森の連携事業

文化の森各館から職員1人ずつが、文化の森振興センターを兼務し、定期的な会議を継続しながら、文化の森内の連携と企画・広報の推進を図っている。

令和4年度に取り組まれた主な内容は、次の通りである。

①文化の森全館連携事業

例年4回行っている全館共同のイベントは、3年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止・縮小等があったが、4年度には感染防止に務めながら、5月5日の「文化の森こどもの日フェスティバル」、8月21日の「文化の森サマーフェスティバル」、11月3日の「文化の森秋祭り」、2月11日の「文化の森ウィンターフェスティバル」を開催した。今後の連携事業のあり方については、検討を深めていく。

②文化の森学習応援事業

平成28年度から、学校の長期休業期間にあわせ、学習場所として環境の整っている博物館、近代美術館、図書館、二十一世紀館の貸館スペースを学習室として開放してきた。4年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、夏休み、冬休み期間中の実施は中止とし、春休み期間中のみ実施した。

4. 防災及び危機管理

(1) 防災及び危機管理体制

危機管理全般については、文化の森振興センターを中心に、文化の森全館の館長・副館長が協議しながら、対応する体制を整えている。また、防災について、文化の森4館棟で消防防災計画を立て、二十一世紀館、博物館、近代美術館、鳥居龍蔵記念博物館と文化の森の警備、設備、食堂等の業者で自衛消防隊を組織し、非常時に備えている。

(2) 新型コロナウイルス感染症拡大防止への対応

令和4年度も新型コロナウイルス感染症が収束せず、感染拡大防止に配慮した利用者サービスの実施を

継続した。具体的には、(公財)日本博物館協会が作成したガイドライン等を踏まえて、展示観覧や行事参加においてはアルコールによる手指消毒や検温、マスク着用等の協力を要請したほか、所要箇所にアクリル製パーティションや非接触型検温器、空間除菌機を設置した。また、展示や各種の行事については、密集による感染リスクに留意し、換気の徹底にも努めた。一方、職員もマスク着用や手指消毒等を徹底した。

(3) 防災訓練

二十一世紀館を中心に、3月23日(木)に防火防災訓練を行ったほか、県組織として随時行われる各種訓練にも参加して、防災意識を高めた。

5. 博物館協議会

博物館協議会は、博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関で、博物館法及び徳島県文化の森総合公園文化施設条例の規定に基づき設置されている。

令和4年度は協議会を1回開催した。

●令和4年度博物館協議会

日時：10月6日(木)

13:00～15:30

会場：博物館講座室

議事

①令和3年度年度事業の実施状況について

②令和4年度予算及び事業概要について

●徳島県立博物館協議会委員名簿

(令和5年3月31日現在)

区分	氏名	役職等
学校教育	生駒 佳也	徳島県立阿南光高等学校教諭
社会教育	安倍 久恵 (副会長)	フリーアナウンサー・佐古絆文化協会事務局
	原 多賀子	京都外国語大学非常勤講師
	西 記代子	四国大学文学部講師
学識経験	塩瀬 隆之	京都大学総合博物館准教授
	坂本 優子	日本航空株式会社西日本支社地域事業グループグループ長
	瀬戸 恵深	株式会社エフエムびざん放送部ディレクター
	町田 哲 (会長)	鳴門教育大学大学院学校教育研究科准教授
	松村 幸江	阿波市国際交流協会会長
家庭教育	森脇佳代子	阿南市羽ノ浦小学校PTA人権教育広報研修部役員

6. 各種研修会への参加

当館に事務局を置く徳島県博物館協議会の総会・研修会のほかに、各種の研修会等に職員を派遣し、博物館職員としての意識改革と資質の向上に努めている。

●公開承認施設担当者会議（文化庁）

会 期：令和4年6月15日

会 場：オンライン

参加者：植地岳彦、大橋俊雄

●国宝・重要文化財（美術工芸品）防災・防犯対策研修会（文化庁）

会 期：6月16日

会 場：オンライン

参加者：植地岳彦

●第29回全国博物館長会議（文化庁・（公財）日本博物館協会）

会 期：7月6日

会 場：オンライン

参加者：長町哲治

●第27回人権資料・展示全国ネットワーク総会

会 期：10月13～14日

会 場：沙流川歴史館

参加者：森 篤之

●第70回全国博物館大会（（公財）日本博物館協会）

会 期：11月17日（木）

会 場：高知県立県民文化ホール（グリーンホール）

参加者：長町哲治

●四国ミュージアム研究会

会 期：3月19日（日）～20日（月）

会 場：当館

参加者：長谷川賢二、中尾賢一、磯本宏紀、辻野泰之、松永友和、小布施彰太、小林篤正

トリサーチセンター、東京大学大学院
総合文化研究科、乃村工藝社 12人

- 9月15日 瀬戸内海歴史民俗資料館 松岡明子氏
- 10月9日 駐神戸大韓民国総領事 梁 起豪氏
- 10月20日 文化庁 中尾智行氏、竹内寛文氏
- 11月1日 ドイツ・ニーダーザクセン州柔道連盟
訪問団 8人
- 11月15日 青森県立郷土館 中沢秀一氏、
小山隆秀氏、工藤伸崇氏
- 11月16日 和歌山県立紀伊風土記の丘、丹青社、
POWERWORKS 8人
- 12月17日 明治大学政治経済学部 小西徳應氏
ほか 4人
- 12月17日 独立行政法人国立美術館 稲庭彩和子氏、
鈴木智香子氏
- 12月21日 兵庫県立考古博物館 若佐孝司氏、
藤田 淳氏
- 12月27日 三重大学人文学部 塚本 明氏
- 2月22日 福岡市文化財活用課 荒川真希氏
- 2月25日 浜松科学館 横田誓子氏
- 3月3日 大阪市立自然史博物館、乃村工藝社
7人
- 3月20日 四国ミュージアム研究会 22人

7. 視察等博物館関係来訪者

- 4月10日 伊方町町見郷土館 高嶋賢二氏
- 6月18日 兵庫県立人と自然の博物館 衛藤彬史氏
- 6月23日 愛媛県歴史文化博物館 松井 寿氏
- 7月6日 福岡市経済観光文化局 今井隆博氏、
加藤昴樹氏
- 8月10日 国立民族学博物館 神野知恵氏、
松本文子氏
- 8月11日 鳥取県文化財課 檜村賢二氏
- 9月7日 内閣府大臣官房公文書管理課、国立公
文書館、読売新聞社東京本社、国立アー

IX 中期活動目標と自己評価

1. 中期活動目標（令和元年9月26日策定）

生涯学習社会の進展など、博物館を取り巻く状況の大きな変化を受け、博物館活動の基本である資料の収集・保存や調査研究、展覧、普及教育などの事業に加えて、学校教育の支援や社会貢献、博物館活動への県民参画など、新たな課題への取り組みが求められるようになってきた。その一方で、財政状況悪化による運営予算の削減、事業評価、および公的施設の運営の見直しなどもすすめられるようになってきた。

こうした状況の変化を踏まえ、徳島県立博物館では平成16年度以来、3期15年間（第1期：平成16～20年度、第2期：21～25年度、第3期：26～30年度）にわたり、中期活動目標とそれにもとづく点検・評価を行いながら、事業の改善と活性化をすすめてきた。

ちょうど、第1期目標にもとづく活動が終わる20年度、博物館法の一部が改正され（20年6月）、運営状況の評価と運営の改善に必要な措置を講ずるための努力義務が盛りこまれた。また、第2期目標にもとづく活動をすすめていた23年度には、文部科学省から「博物館の設置及び運営上の望ましい基準」が告示され（23年12月）、博物館運営の点検・評価の実施とそれにもとづく改善、それらの内容の公表について努力するよう求められた。こうした法制面での動向からも、徳島県立博物館における中期活動目標の策定・運用は適切な取り組みとことができ、今後も継続的に推進することが必要だと考えられる。

近年では、社会教育施設である博物館の役割は広がりつつあり、観光や地方創生への貢献なども期待されている。だからこそ、地域に根差し、学術的な裏付けのある資料収集・保存や調査研究など、しっかりとした土台を保つことで、良質で多面的なサービスが実現できると考える。

30年度をもって第3期目標の期間が終了したことから、これまでの成果を踏まえながら、ここに第4期目標（平成31・令和元～5年度）をまとめた。

(1) 第3期中期活動目標の総括

中期活動目標にもとづく事業改善と活性化に取り組むようになった平成16年度以来、事業の目標が明確に可視化されるとともに、達成度が客観的に示されるようになり、事業の課題や問題点を明らかにすることができるようになった。このような情報を共有することで、職員の意識改革をすすめ、利用者にとって満足度の高いサービスを提供できるよう努めてきた。

第2期活動目標では、第1期の経験を活かし、徳島県立博物館の基本理念および基本的性格（注）を再確認しながら、「県民とともに」を基調とする博物館の使命（存在意義や役割）をまとめたうえで、個々の事業やその目標、評価指標を位置づけることにした。

このように、使命と一体化した形で、事業の目指すべき方向を明確にしたのが第2期目標の特徴であり、これにあわせて評価指標などの見直しも行い、より丁寧な点検・評価をすすめることができた。ただ、基調とした「県民とともに」を推進するには、さらに意識的な方向付けが必要と考えられ、課題を残した。

そこで、第3期では、「県民とともに」を確かなものとするため、使命の再検討を重点的に行い、新たに「「連」県民とのつながりを大切にする博物館」を加えることで、博物館の発信力を強化して、県民とのコミュニケーションの充実に力を注ぐ方針を明確にすることとした。また、これに伴い、事業区分を再編することにし、「県民協働・参画」を新たに設けることにした。その他、各事業の目標や評価項目、指標等についても、実情を踏まえた点検・評価によって博物館活動のステップアップが図れるよう見直した。

この「県民とともに」を基調とする活動路線は、ユニバーサルミュージアムへの各種の取り組み、公募型ボランティア、恐竜化石発掘調査、阿波木偶箱まわし調査などにおいて、一定の成果を挙げたといえる。しかしながら、これらの活動を含めた博物館活動全体について、県民のより一層の認識の深化という点において課題を残した。

(注)

「徳島県立博物館の基本理念及び基本的性格」とは、「徳島県立博物館基本構想」(昭和59年1月)に示され、博物館の活動目標・指針となってきたものである。その内容は次のとおりである。

〈基本理念〉

①郷土に根ざし世界に広がる博物館

徳島の自然、歴史、文化の資料を総合的に展示し、全国的・世界的なかかわりについても理解できる施設

②開かれた博物館

博物館の活動に県民のだれでもが参加でき、楽しみながら学び、考え、豊かな知識を高めることのできる施設

③研究を大切にす博物館

学術的な調査研究、資料の収集を通して、常に新しい展示と情報を広く提供する施設

④文化財を守り自然の保全をめざす博物館

県民の貴重な文化的資料を永久に保管するとともに、文化財と自然の保護に努める施設

〈基本的性格〉

①人文科学(考古、歴史、民俗、美術〈近代美術を除く〉)・自然科学(動物、植物、地学)の両者が有機的に結びついた総合博物館とします。

②収集保存、調査研究、展示、普及教育の4つの機能を備え、本県の文化、学術、教育および生涯学習センターとしての役割を果たします。

③国内外の博物館、研究機関等と緊密な協力体制をとります。また、文化の森総合公園に建設が予定されている民家資料展示場、植物園等の施設はもちろん、県内の博物館、博物館相当施設、類似施設等と相互協力し、その中核的博物館としての性格をもつものとします。

(2) 第4期中期活動目標の策定の経緯

近年、当館を含めた博物館を取り巻く状況は予算の減少、少子高齢化、ユニバーサル化の推進、インバウンド対応、そして施設の老朽化と設備の長寿命化などの課題が重くのしかかり大きく変化してきている。加えて、当館は令和3(2021)年度のオープンを目標とする新常設展の構築に向けて、鋭意準備をすすめている状況である。このように第4期は、新たな時代を切り開いていくべき期間と言える。

そこで、第4期中期活動目標の策定にあたっては、これまで3期15年間の活動を振り返り、新たな時代にふさわしい活動目標についての検討を行った。その結果、これまでの「県民とともに」という路線を重視・継続し、さらにその深化を図るべく、見直しを行った。

(3) 徳島県立博物館の使命 ※ p.2 参照

徳島の自然・歴史・文化の宝箱—だれもがとどえ、楽しく学べる博物館—

徳島県立博物館は、徳島の自然や歴史、文化についての資料・情報にもとづく体験と学びの場として、県民のみなさんとともに活動していきます。

「知」知と出会う博物館

博物館は徳島の自然、歴史、文化についての多様な資料やタイムリーな情報で、県民のみなさんとともに楽しく学べる場を創ります。

「探」地域の魅力を探る博物館

博物館は徳島の自然、歴史、文化について、県民のみなさんとともに調べ、新たな地域の魅力を見つけ発信します。

「伝」未来にまもり伝える博物館

博物館は、徳島の自然、歴史、文化についての資料を、県民のみなさんとともに集め、「みんなの宝」としてまもり、未来に伝えます。

「連」つながりを大切に、だれもがとどえる博物館

博物館は、県民のみなさんと連携し、だれもがとどえる地域の拠点を目指します。

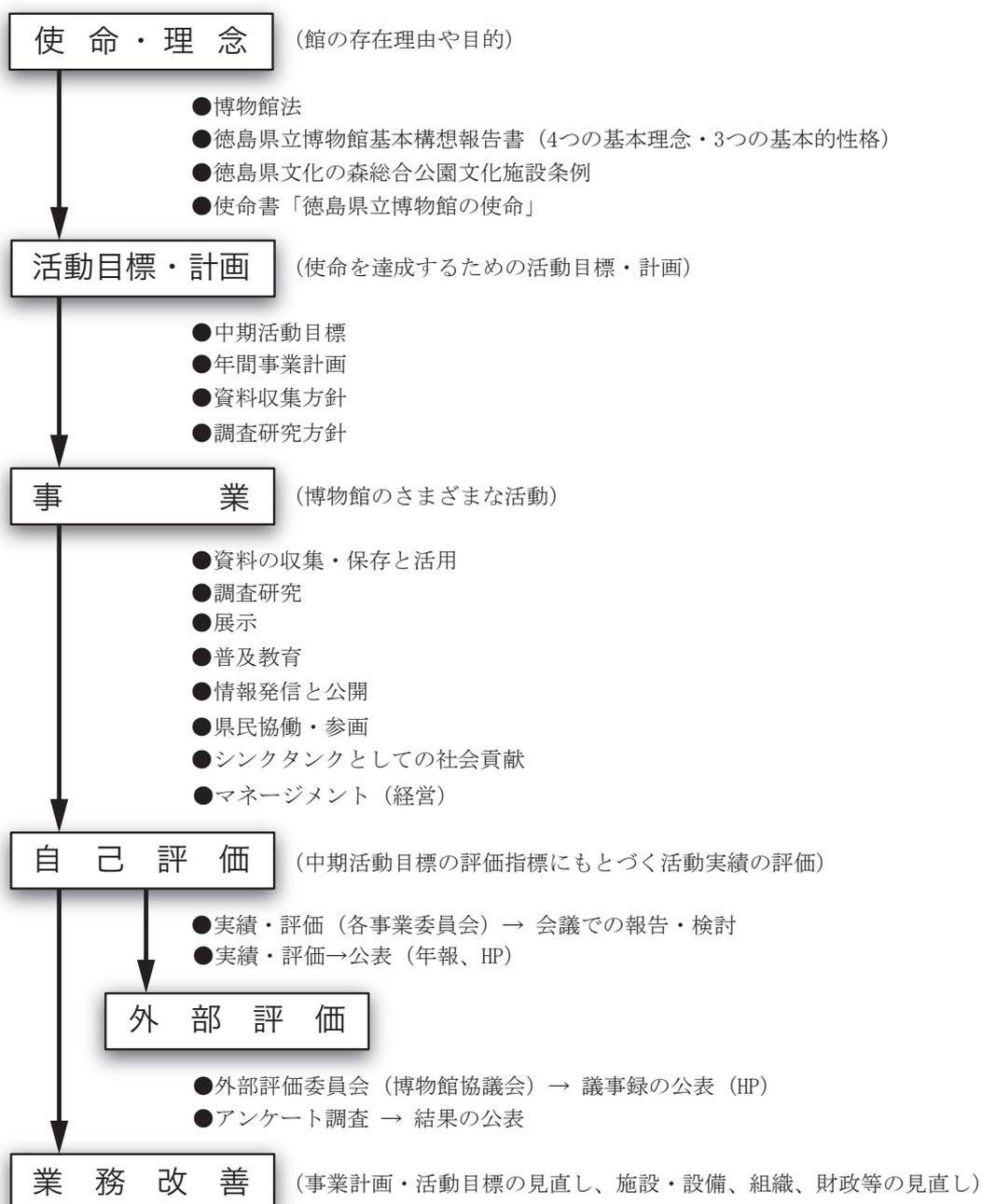
博物館では、効率的でバランスのよい運営を心がけながら、以上の使命を実現するために努力していきます。

(4) 第4期中期活動目標の推進方法

中期活動目標とは、使命を実現するために、今後5年間（平成31・令和元～5年度）の活動目標を事業ごとに定め、年度ごとに評価を行うとともに、事業改善につなげていくためのものである。その推進にあたっては次の点に留意する。

- 中期活動目標は、博物館協議会に諮ったうえで公表する。
- それぞれの活動目標にもとづき、年度計画を立てて活動を推進する。
- 年度末には活動実績の評価を行い、その結果を年報やホームページに掲載するとともに、次年度以降の活動計画に反映させる。
- 活動実績および評価の結果について博物館協議会で議論していただき、外部評価意見としてホームページに記載するとともに、出された意見を次年度以降の活動の改善に役立てる。
- 活動目標と評価指標・目標値については毎年度見直しを行い、必要があればより適切な形に改める。

中期活動目標の推進手順



(5) 事業別の中期活動目標と評価指標

徳島県立博物館の使命を実現するために行う事業は、次の通りである。

- ・「知」知と出会う博物館：展示、普及教育
- ・「探」地域の魅力を探る博物館：調査研究
- ・「伝」未来にまもり伝える博物館：資料の収集・保存と活用
- ・「連」つながりを大切に、だれもがとどえる博物館：情報の発信と公開、県民協働・参画、シンクタンクとしての社会貢献
- ・効率的でバランスのよい運営：マネージメント（経営）

①展示

だれもが楽しく学べ、新しい発見や体験ができる場を創り出します。実物資料や最新の情報に基づき、県民のみなさんや関連機関との連携を大切にしながら、徳島および関連する地域をはじめ世界の自然や歴史、文化について幅広く展示します。今期は、だれもが学び、発見し、体験できる場の新たな創出のため、常設展全面リニューアルに取り組みます。（使命：「知」知と出会う博物館）

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備考
1-1 常設展リニューアルの実施	基本構想にもとづき、常設展のリニューアルを実施します。リニューアルにあたっては、実物資料（モノ）の魅力発信、フレキシブルな展示構成、ユニバーサル化推進、発見・参加体験の充実について重点的に取り組みます。	実物資料（モノ）の魅力発信に向けた取り組み	実物資料（モノ）の魅力を発信できる展示の設計・実施・活用		※ H31～R3 年度の実施状況およびリニューアルオープン後の活用・改善状況等
		フレキシブルな展示構成に向けた取り組み	展示替えしやすい可変性のある展示の設計・実施・活用		
		ユニバーサル化推進に向けた取り組み	だれもが安心して利用できる空間の設計・整備・活用		
		映像・ハンズオン等の活用に向けた取り組み	高精細映像の制作と配置、ハンズオン展示の拡大と活用		
		新常設展のPRと活用に向けた取り組み	新常設展の広報・PRの充実とリニューアル後の効果的な活用		
1-2 常設展の改善・充実	新しい資料の追加、研究成果の反映、展示技法の改善等により、常設展の改善・充実を図ります。	常設展観覧者数	年間の総観覧者数	リニューアル前 40,000人/年 リニューアル後 60,000人/年	※第4期中に常設展リニューアル工事にともなう閉室期間を含むため目標値がリニューアル前後で異なる
		観覧者のリピーター率	過去1年以内の利用経験者の占める割合		
		観覧者の満足度	観覧者の展示内容に対する満足度	80%	※第4期中に常設展リニューアル工事にともなう閉室期間を含むため考慮が必要
		展示替え回数	常設展の展示替え及びテーマ展示の開催回数	リニューアル前 5回/年 リニューアル後 7回/年	※常設展リニューアル前は部門展示、トピック展示を含む
		展示室内の改善・修繕の実施状況	展示室内の設備等改善・修繕状況及び展示補助具の追加・改善状況		展示替えは除く
1-3 魅力ある企画展の計画的開催	収蔵資料の特色や調査研究成果を活かすとともに、県民のニーズを反映しながら、多様なテーマの企画展を計画的に開催します。	企画展観覧者数	1日あたりの観覧者数	自然 250人 総合 150人 人文 100人	開催日数の長短の差が大きいため1日あたりの観覧者数とする※第4期中、常設展リニューアル工事に伴い企画展示室が使用できない期間を含むため考慮が必要
		観覧者の満足度	観覧者の展示内容に対する満足度	80%/回	
		展示への注目度	マスコミ報道等露出件数	5件/回	展示内容が取り上げられた場合
		企画展の検討状況			
1-4 多様な展示の開催促進	企画展以外に特別陳列等の多様な展示の開催をすすめます。	特別陳列等の開催回数	企画展以外の主催展示の取り組み回数	2回/年	常設展ロビー等における展示を含む
		特別陳列観覧者数	1日あたりの観覧者数	自然 300人 総合 200人 人文 100人	開催日数の長短の差が大きいため1日あたりの観覧者数とする
		観覧者の満足度	観覧者の展示内容に対する満足度	80%/回	特別陳列のみ
		展示への注目度	マスコミ報道等露出件数	5件/回	内容が取り上げられた場合
		特別陳列等の検討状況			

60 中期活動目標と自己評価

1-5	他機関との共同展示等の促進	文化の森内での共催展、館外での移動展、パッケージ展示の貸出等により、各種の展示を促進するとともに、県内の博物館施設を支援します。また、他機関との共同による展示を検討、実施します。	文化の森内での共催展の開催回数	博物館占有スペース以外を利用し、当館の関わりが補助的なもの	1回/年	
			移動展等館外での展示の開催回数	文化の森外の博物館等において当館を主催者に含む展示の開催回数	2回/年	「パッケージ展示の貸し出し数」を含む
1-6	展示解説等の推進	図録や解説書の発行、学芸員や受付案内員による展示解説等により、観覧者が展示を理解し楽しめるよう手助けします。	図録等の発行状況	年間の刊行件数		
			展示解説等の実施状況	展示の理解を支援する各種の活動の実施状況		
			展示解説シート等の配布・設置状況	展示解説シート等の配布、追加状況		
1-7	県民などとの協働による展示の推進	県民などとの協働で、より魅力ある展示を目指します。	協働の実施状況			

②普及教育

徳島の自然や歴史、文化についてだれもが楽しく体験し、学ぶことができる多様な学習機会を創り出すことにより、学校教育の支援や生涯学習の推進に取り組みます。(使命:「知」知と出会う博物館)

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備考
2-1	県民のニーズを反映した多様な催しの開催	普及行事実施回数		70回/年	
		普及行事参加者数		5,000人/年	
		参加者の満足度	事後アンケートにおける満足回答者の割合	満足した者の割合80%	
		アウトリーチ活動数	他館との共催による普及行事(展示を除く)	5回/年	移動展の展示解説1件も1回とする
2-2	学校教育支援事業の推進	支援事業案内パンフレット配布状況		県内全教員(小・中・高)	
		出前授業件数		出前授業15件/年	
		館での授業件数			
		資料貸出件数		資料貸出10件/年	
		教員研修件数			
		職場体験件数			
		遠足件数			
		学校の満足度	出前授業等実施後の満足度	80%	
2-3	普及的記事の執筆推進	普及的記事の執筆数	年報「調査研究事業」本文に掲載されている一般著述数	40件/年	
		博物館ニュース発行回数		4回/年	
2-4	県民との協働による普及行事等の推進	県民の力を借りて、より魅力ある普及行事等を推進します。	県民との協働による普及行事等の実施状況		県民からの協力を受けた行事を含む
2-5	だれもが参加しやすい普及行事等の取り組み	幼児や外国人、障がい者などさまざまな人が、普及行事等に参加できるように取り組みます。	だれもが参加しやすい普及行事等の取り組み状況		

③調査研究

徳島の自然や歴史、文化に関する基礎的な研究および博物館学的調査研究を、県民のみならずおよび関連機関と連携しながらすすめ、新たな事実や価値の発見に努めます。また、その成果を博物館の展示や普及教育等の活動へ還元し、可視化に努め、地域の魅力を引き出すよう努めます。(使命:「探」地域の魅力を探る博物館)

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備考
3-1	調査研究活動の推進	課題調査実施状況	課題調査として予算化された研究テーマ	2件/年	
		個別調査研究の実施状況	課題調査以外の研究テーマの実施状況		
3-2	外部研究機関等との連携の推進	共同研究件数	他機関やアマチュア研究者との研究件数	10件/年	人的・予算的規模の大小は問わない
		共同研究プロジェクト件数	上記のうち予算的措置を伴う共同研究の件数	3件/年	科研費プロジェクト等の研究分担を含む
3-3	県民参画型調査研究の推進	博物館の研究活動に県民のみならずが参画できるようなプロジェクトを企画・実施します。	県民参画型調査の件数	2件/年	
3-4	外部資金の獲得による調査研究事業の推進	公的および民間の研究助成金を獲得し、研究活動の推進を図ります。	公的な研究助成金の申請・採択件数	科学費補助金など公的機関による競争的研究資金	申請4件・採択1件 科研費プロジェクト等の研究分担を含む

			民間の研究助成金の申請・採択件数			研究分担等を含む
3-5	調査研究成果の公表	博物館の調査研究成果を学術論文や学会発表、研究報告書の出版、マスコミなどへの資料提供を通じ公表します。	学術的著述数	年報「調査研究」本文の学術的著述の件数	24本/年 (査読付き4本/年)	学芸員数×年2本
			学会・研究会での発表件数	学会や研究会での口頭・ポスター発表の件数	24件/年	学芸員数×年2回
			マスコミへの資料提供件数	5-1の資料提供件数のうち調査研究に係わるものの件数	3件/年	

④資料の収集・保存と活用

徳島と徳島に係わりのある地域の自然・歴史・文化についての資料を県民のみなさんの協力のもと、さまざまな手段で継続的に収集します。集めた資料は「みんなの宝」として整理・保管し、未来に伝えます。収集した資料は、調査・研究や展示で利用するほか、他の博物館や研究者等へ積極的に貸し出しや提供を図り、さまざまな形で活用します。(使命:「伝」未来にまもり伝える博物館)

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備考	
収集						
4-1	継続的な資料の収集	資料収集方針に基づき、採集・購入・寄贈等による継続的な収集をすすめ、バランスのとれた特色あるコレクションづくりを行います。	収蔵資料点数	前年度の収蔵資料点数実績+20,000点(年4,000点×5年)	550,000点	
			新規資料増加点数		4,000点	
			採集資料件数		20件/年	
			購入資料件数		3件/年	
			寄贈資料件数		100件/年	
4-2	寄託資料の受入の促進	県内の貴重な資料の安全な保管と展示公開の促進を図るため、資料の寄託を受け入れます。	寄託資料件数			
			新規寄託件数		3件/年	
4-3	文献資料の充実	資料を活用するうえで不可欠な文献資料の充実に努めます。	図書冊数	収蔵図書の総冊数(雑誌類を除く)		
			新規受入図書冊数		140冊	
			寄贈図書冊数		40冊	
			購入図書冊数		100冊	
			購入雑誌タイトル数			
保存						
4-4	収蔵資料データベースの整備	収蔵資料の整理・登録をすすめるとともに、資料を適切に管理し、活用を図るうえで不可欠なデータベースの整備を図ります。	収蔵資料DB登録率	(DB登録点数/収蔵資料点数)×100	50%	
4-5	資料の安全な保存	薬剤の適切な使用と、収蔵庫等の資料保存環境における定期的な点検・清掃作業等を組み合わせて、資料保存に取り組みます。	燻蒸の実施	燻蒸回数	3回/年	
			収蔵庫点検	点検回数	12回/年	チェックリストに基づく点検
			展示室点検	点検回数	12回/年	チェックリストに基づく点検
			企画展示室・歴史民俗収蔵庫の空気環境調査	適正な空気環境の維持		
			新たな防虫・防菌対策の検討	検討実績		
4-6	収蔵スペースの確保	収蔵資料の増加に伴い、不足しがちな収蔵スペースの確保のための工夫をします。	収蔵スペースの状況および他館の情報収集等			
活用						
4-7	展覧における利用促進	収蔵資料の展覧における利用・公開の促進を図ります。	展示利用点数	寄託資料の利用も含む		
			常設展での利用点数			
4-8	貸し出し等の促進	貸し出しや提供等による収蔵資料の活用を図ります。	資料特別利用等件数	学校貸出し(2・2学校への資料貸出件数を参照)を除く	60件/年	
4-9	資料収集保存活動に対する理解の促進	積極的な情報発信を行うことにより、資料収集保存活動に対する理解の促進を図ります。	マスコミへの情報提供・ホームページへの掲載・記事執筆など			

⑤情報の発信と公開

博物館活動についてのさまざまな情報をより多くの人に知ってもらい、博物館を有効に活用できるように努めます。多様なメディアを通じて情報を発信し、積極的に県民との対話をすすめます。第4期は、だれもが博物館の情報を、より利用できるような環境づくりを目指します。また、常設展のリニューアルの進捗状況や広報など、タイムリーな情報発信に努めます。(使命:「連」つながりを大切に、だれもがとどえる博物館)

62 中期活動目標と自己評価

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備考
5-1 マスコミへの資料提供等の推進	企画展や普及行事の案内だけでなく、博物館に関する情報を積極的に資料提供するよう努めます。	資料提供件数	マスコミに対して資料提供を行った数（月間催し物案内を含む）	30件/年	
		マスコミ取材報道件数	新聞等が取材・報道した数	100件/年	印刷メディアに限る（新聞・雑誌等）
		マスコミ出演等件数	学芸員がマスコミに出演した数	15件/年	
5-2 広報活動の強化	広報関係出版物の内容改善、配布ルートの開拓等、広報活動を強化します。	広報手段や発送の新規開拓	新たに開拓した広報手段		
		広報関係出版物発送状況	年間催し物案内、月間催し物案内、ニュース等の発送件数および発行回数		
		年間催し物案内発送件数（発送回数）		600件（1回）/年	
		月間催し物案内発送件数（発送回数）		各80件（12回）/年	
		博物館ニュース発送件数（発送回数）		各1,100件（4回）/年	
5-3 インターネットによる情報発信の推進	インターネットによる情報発信を推進するため、学芸員による積極的な情報発信を促し、ホームページの充実を図ります。	HP総アクセス数	HP（全ページ）へのアクセス総数	9,000,000件/年	
		HPの新規および更新したページ数	新たに作成したり更新したページの数	70ページ/年	算定の都合上更新ページ数も含む
		HPの内容の更新頻度	内容が更新された回数	月3回以上	
5-4 SNSによる情報発信	情報交換の推進のためにSNSによる情報発信を促進します。	Facebookの更新数	内容が更新された回数	80回/年	
5-5 だれもが情報にアクセスできるホームページづくり（ユニバーサル視点）	子どもから大人まで、さらに外国人など、また、パソコンだけではなくスマートフォンなどでも、さまざまな人が情報にアクセスできるようにします。	HPのスマートフォン等への対応	スマートフォン等新型端末への対応状況		
		HPの多言語対応	英語など日本語以外の対応状況		
		HPの見やすさや色の検討	文字の大きさを選択できたり、テキスト読み上げツールや見やすい配色等への対応状況		
		デジタルアーカイブ	整備状況		
5-6 常設展のリニューアルに関する情報発信の促進	展示更新の進捗状況を積極的に発信し、完成後はその広報に努めます。	展示更新に関する発信状況	発信件数		FB、HP、資料提供などの総件数

⑥ 県民協働・参画

県民のみなさんと一緒に活動することにより、県民の自主的な学びや地域活動の活性化を促進するとともに、だれもお互いにつながる拠点となることを目指します。（使命：「連」つながりを大切にし、だれもがつどえる博物館）

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備考
6-1 友の会活動の充実と活性化	友の会の指導・育成に努めるとともに、自主的な活動を支援し、友の会活動の充実、活性化を図ります。	友の会会員数	友の会（個人・家族）の会員総数	250人/年	H30年度の会員数から増加を目指す
		個人会員			
		家族会員			
		会員の継続率	当該年度継続率	前年度会員の70%	
		個人会員			
		家族会員			
		友の会行事実施回数		6回/年	
		展示利用率	観覧者として入館した会員の割合	50%	
		個人会員			
		家族会員			
6-2 公募ボランティアの協働推進	県民参画による行事を推進します。	延べ利用者数	観覧者として入館した会員の延べ人数		
		個人会員			
		家族会員			
		会報の発行回数		2回/年	
		公募ボランティア登録者数			イベントボランティア登録者数、みどりのサポート隊登録者数等
	公募ボランティア活動回数（全体会・班会合、イベント）	会合等を含む活動の延べ日数		イベントボランティア活動回数、みどりのサポート隊活動回数	
	企画運営型行事等件数				

6-3	各種事業での県民協働の推進	協働による魅力ある展示や普及行事および調査研究活動を推進します。	県民などとの協働による展示の実施状況		1-6 参照
			県民参画型調査の件数	2件/年	3-3 参照
			県民との協働による普及行事等の実施状況		友の会会員、公募ボランティア、その他の県民と協働で実施したイベントを統合して記録する

⑦シンクタンクとしての社会貢献

博物館は、その活動を通じてさまざまな資源（資料・情報・学芸員の知識）を蓄積しているシンクタンクです。これらを活用し、県民の生涯学習を支援するとともに、自治体や地域社会、学会等の事業推進に貢献します。（使命：「連」つながりを大切に、だれもがとどえる博物館）

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備考	
7-1	レファレンス利用者の拡大	来館による相談のほか、手紙や電話、メールでの質問等に親切に対応し、利便性を高めるよう努めます。	レファレンス件数	レファレンス記録 DB における記録件数	500 件 / 年	
			周知状況	レファレンス業務の周知取り組み状況		
7-2	講師派遣等の推進	他機関が主催する講演会、研修会等に学芸員を講師として派遣します。	講師派遣等件数	小中高への出前授業を除いた講師派遣等の件数		小中高への出前授業は「2-2 出前授業件数」を参照
			講演会等の受講者数			
7-3	自治体および各種機関・団体への専門知識の提供	自然環境保全や文化財保護等自治体やその他の機関・団体の委員会委員やアドバイザーとして、専門知識の提供を行います。	委員等受託件数	学会・博物館関連団体の委員等を除く		
			機関・団体等への協力状況			
7-4	大学教育への寄与	大学の非常勤講師の受諾、学生・院生の研究指導、博物館実習生の受け入れ、学芸員養成科目の開講等により、大学教育に寄与します。	非常勤講師受諾数	3 科目（博物館資料保存論、博物館展示論、博物館教育論）の延べ受講者数		
			学生・院生指導人数			
			博物館実習生受入人数			
			学芸員養成科目受講者数			
7-5	学会・研究会の運営への寄与	学会・研究会を博物館で開催するほか、役員や各種委員等を引き受ける等、学会等の活動に貢献します。	学会等開催数	学会・研究会の大会・例会・シンポジウム等の開催数		
			学会等役員受託数	学会・研究会における役員・委員等の受託数		
			学会等事務局受託数	当館が引き受けている学会・研究会の事務局数		
7-6	博物館施設の連携強化への貢献	県内の中核的博物館として、博物館施設への助言を行うとともに、県博物館協議会の活動等を通じて博物館施設の連携促進のために尽力します。	博物館関連団体委員等受託数	博物館関連団体や他館の委員・役員等の受託数		
			博物館関連団体加入数	当館が加入している博物館関連団体の数		
			連携事業等の実施数	移動展・移動講座や他館との共催事業、資料保存等の支援の実施回数		

⑧マネージメント（経営）

利用しやすい博物館とするための施設の改善、博物館活動への県民参画の仕組みづくりの検討、職員の意識改革と資質の向上、適切な博物館評価システムの確立等により、博物館活動の改善と活性化、利用者の増大を図ります。（使命：効率的でバランスのよい運営）

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	指標の定義	目標値	備考
8-1	利用しやすい博物館をめざす施設の改善	点検・改善の状況	わかりやすい案内表示、バリアフリー化や安全対策等に配慮し、高齢者、障がい者や外国人にとっても快適で安全な利用しやすい施設となるよう、日常的な点検・改善を行います。また、講座室の貸し出しを行い、博物館利用の機会を増やします。		
8-2	博物館認知度の向上と利用者層の拡大	県民の博物館利用状況 県外利用者の割合	博物館活動の活性化と広報の強化により、県内および近隣地域での博物館の認知度を高め、博物館利用者の範囲の拡大と利用者増に結びつけます。		

64 中期活動目標と自己評価

8-3	県民参画の仕組みづくり、博物館運営支援組織のあり方等の検討	友の会会員やボランティア等によるさまざまな博物館活動への県民参画の仕組みづくりの検討を行うとともに、友の会を母体とした博物館の運営支援組織のあり方について検討します。	ボランティア導入事業件数			
8-4	設置者による理解および外部資金の獲得	博物館の使命、当館が果たしている幅広い役割等に対する県および県教育委員会の理解を得るとともに、財政的支援等が得られるよう努力します。また、各種外部資金の獲得に努め、より効率的な運営を目指します。	博物館予算の状況			
			外部資金獲得数	申請数、獲得数		
8-5	防災意識の向上と危機管理体制の強化	地震・津波等の自然災害や火災、盗難、けが人の発生等に備え、文化の森他館と協力して防災意識の向上と危機管理体制の強化を図ります。また、県内で発生する災害に対して、県内博物館どうしの救援態勢や相互援助の体制を整備するよう検討します。	防災訓練の実施状況			
			危機管理体制の整備状況 地震、津波等広域災害時の救援体制確立	収蔵庫の耐震化措置		
8-6	職員の意識改革と資質の向上	職員が博物館の社会的役割および当館の使命を認識し、博物館活動の活性化と健全な経営に主体的に取り組めるよう、意識改革と資質の向上を図ります。				
8-7	博物館評価システムの構築	博物館活動の中期活動目標に基づく自己点検評価、博物館協議会による外部評価、結果の公開という適切な博物館評価システムを確立するとともに、求館者アンケートを活用して博物館活動の改善に役立てます。	中期活動目標の状況			
			自己点検評価の状況			
			外部評価の状況			

2. 令和4年度実績と自己評価

(1) 展示

●中期活動目標及び4年度実績

中期活動目標の項目	評価指標	指標の目標値	2年度実績	3年度実績	4年度実績
1-1 常設展リニューアルの実施	実物資料（モノ）の魅力発信に向けた取り組み		<ul style="list-style-type: none"> ・旧常設展展示資料等の撤去、仮保管 ・展示解説の執筆及びグラフィックパネル等のデザイン、編集作業 ・展示資料の調査、撮影を行い、展示方法や演示具を検討 ・展示内容再検討ワークショップの実施 ・新常設展での重文展示に関する文化庁との協議 ・新常設展での展示に向けた資料の調査・収集、模型等の製作 ・デジタルアーカイブの構築、資料撮影及び公開 	<ul style="list-style-type: none"> ・旧常設展展示資料等の仮保管と展示への活用 ・展示解説の執筆及びグラフィックパネル等のデザイン、編集をし、展示を実施 ・展示資料の調査、撮影を行い、展示方法や演示具を検討し、展示を実施 ・重文展示に関する文化庁との協議 ・展示に向けた資料の調査・収集、模型等製作をし、展示を実施 ・デジタルアーカイブの構築、資料撮影及びコンテンツの追加 ・常設展図録「徳島まるづかみ」の発行 ・「自然史コレクション」、「歴史・文化コレクション」での展示解説シートの配布 	<ul style="list-style-type: none"> ・顔出しパネルの製作 ・低反射フィルムの貼付 ・日本生命財団「展示案内」について、構成の検討、資料の写真撮影等 ・「自然史コレクション」、「歴史・文化コレクション」での展示解説シートの配布
	フレキシブルな展示構成に向けた取り組み		<ul style="list-style-type: none"> ・新常設展での展示に向けた資料の収集 	<ul style="list-style-type: none"> ・新常設展での展示に向けた資料の収集 ・自然史コレクション、歴史・文化コレクション、県民コレクション、学芸員活動紹介コーナー等の展示替え計画とオープン後の展示替え ・徳島セクション、地球セクション等の随時展示替え 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然史コレクション、歴史・文化コレクション、県民コレクション、学芸員活動紹介コーナー等の展示替え ・徳島セクションの随時展示替え

		ユニバーサル化推進に向けた取り組み		・インクルーシブデザイン・ワークショップの実施 ・展示解説等の翻訳	・展示解説等の多言語化と展示利用 ・グラフィックパネルやポータル端末用コンテンツ等の多言語化と展示利用 ・リーフレット（日本語版・英語版）の作成と配布 ・展示用手話ガイド解説の作成と運用 ・インクルーシブデザインワークショップの成果を展示に反映	・ガイドマニュアル・パンフレット（英語版）の作成、配布 ・展示用手話ガイド解説の運用
		映像・ハンズオン等の活用に向けた取り組み		・新常設展での展示に向けた映像制作 ・ハンズオングッズの検討と製作 ・インターネットの環境の改善を検討	・映像制作及び展示 ・ハンズオングッズの検討・製作及び展示 ・インターネット環境の改善を検討	・デジタルコンテンツの拡充
		常設展のPRと活用に向けた取り組み		・新常設展に関する取材対応とマスコミ報道 ・ホームページ、フェイスブック等でのPR ・企画展「蔵出し!とくしま“宝もの”展」「徳島まるづかみ展」での新常設展のプロモーション展示 ・3年度の「徳島まるづかみ展」の開催計画 ・「徳島まるづかみ展」での来館者の意向調査の実施 ・新常設展のリニューアルオープンに向けた広報戦略策定業務の実施	・新常設展に関する取材対応とマスコミ報道 ・ホームページ、フェイスブック、ユーチューブ等でのPR ・特別陳列「徳島まるづかみ展—コミュニケーションで展示を楽しもう!—」での新常設展のプロモーション展示 ・広報戦略コンセプトに沿ったポスター・チラシ・リーフレット等の作成と配布 ・マスコミ向け内覧会及びオープンニングセレモニーの開催 ・他館、各種団体等による視察対応	・ホームページ、フェイスブック、ユーチューブ等でのPR ・インバウンド向けガイドマニュアル等の作成と印刷、配布 ・他館、各種団体等による視察対応
1-2	常設展の改善・充実	常設展観覧者数	リニューアル前 40,000人/年 リニューアル後 60,000人/年	14,232人 (常設展リニューアルのため、8月までの公開)	44,853人 (8月9日から公開)	42,790人
		観覧者のリピーター率		データなし	35% (11月～3月)	データなし
		観覧者の満足度	80%	データなし	100% (11月～3月)	データなし
		展示替え回数	リニューアル前 5回/年 リニューアル後 7回/年	8回 (部門展示2回、トピックコーナー2回、ロビー等での小展示4回)	13回 (自然史コレクション2回、歴史・文化コレクション4回、県民コレクション2回、学芸員活動紹介コーナー4回、ロビー等での小展示1回)	8回 (自然史コレクション1回、歴史・文化コレクション3回、県民コレクション1回、学芸員活動紹介コーナー2回、ロビー等での小展示1回)
		展示室内の改善・修繕の実施状況		・新型コロナウイルス感染症拡大防止のための各種対策 ・新常設展構築事業の一環としての修繕	・新型コロナウイルス感染症拡大防止のための各種対策 ・新常設展構築事業の一環としての修繕	・新型コロナウイルス感染症拡大防止のための各種対策
1-3	魅力ある企画展の計画的開催	企画展観覧者数	自然250人/日 総合150人/日 人文100人/日	336人(甲虫すごいぜ! :14,803人、44日) 237人(宝もの展:1,190人、32日)	107人(おふだコレクション:3,531人、33日)	238人(ネコ展:9,287人、39日)
		観覧者の満足度	80%	データなし	94%(おふだコレクション)	100%(阿波の画壇をたのしむ) 98%(ネコ展)
		展示への注目度	5件/回	8(宝もの展) 16(甲虫すごいぜ!)	2(おふだコレクション)	3(阿波の画壇をたのしむ) 5「ネコ展」
		企画展の検討状況		令和4年度以降の計画の協議	令和5年度以降の計画の協議	令和6年度以降の計画の協議
1-4	多様な展示の開催促進	特別陳列等の開催回数	2回/年	1回 徳島まるづかみ展県央編第1期	1回 徳島まるづかみ展—コミュニケーションで展示を楽しもう!—	2回 阿波の旅人 鳥居龍蔵の見た120年前の木頭
		特別陳列観覧者数	自然300人/日 総合200人/日 人文100人/日	129人(徳島まるづかみ展県央編第1期:3,488人、27日)	73人(徳島まるづかみ展コミュニケーション:1,888人、26日)	140人(阿波の旅人:5,338人、38日)
		観覧者の満足度	80%/回	データなし	データなし	98%(阿波の旅人)
		展示への注目度	5件/回	7(徳島まるづかみ展県央編第1期)	4(徳島まるづかみ展—コミュニケーション—)	8(阿波の旅人)
		特別陳列等の検討状況		令和4年度以降の計画の協議	令和5年度以降の計画の協議	令和6年度以降の計画の協議
1-5	他機関との共同展示等の促進	文化の森内での共催展の開催回数	1回/年	3回 鳥居龍蔵の学問と世界、文化の森30周年展及び文化の森人権啓発展	2回 鳥居龍蔵と草原の遊牧王朝 遼、文化の森人権啓発展	2回 鳥居龍蔵をめぐる人々、文化の森人権啓発展
		移動展等館外での展示の開催回数	2回/年	3回 恐竜化石展、徳島まるづかみ展県西編、徳島まるづかみ展県南編	1回 勝浦町周辺の恐竜時代の地層と化石	4回 勝浦町周辺の恐竜時代の地層と化石、漂着物展、鳥居龍蔵の見た120年前の木頭、ビーチコミング DE 松茂の Sea を See ろう

1-6	展示解説等の推進	図録等の発行状況		企画展図録等 1 冊	企画展図録等 1 冊 常設展図録 1 冊	企画展図録等 1 冊
		展示解説等の実施状況		企画展展示解説 5 回 企画展関連行事 4 回 特別陳列展示解説 2 回 特別陳列関連行事 1 回 クイズラリー 8 回 部門展示展示解説 2 回 移動展展示解説 3 回 常設展展示解説 10 回 移動展展示解説 3 回	企画展展示解説 2 回 特別陳列展示解説 1 回 常設展展示解説 1 回 常設展活用イベント 2 回 歴史・文化コレクション展示解説 5 回 県民コレクション展示解説 2 回	企画展展示解説 5 回 企画展関連行事 1 回 特別陳列展示解説 5 回 クイズラリー 7 回 常設展活用イベント 6 回 歴史・文化コレクション展示解説 7 回 移動展展示関連行事 1 回
		展示解説シート等の配布・設置状況		多目的活動室（特別陳列）1 件、部門展示室 2 件、ロビー展示 1 件	自然史コレクション 1 件、歴史・文化コレクション 4 件	特別陳列 1 件、自然史コレクション 1 件、歴史・文化コレクション 4 件
1-7	県民などとの協働による展示の推進	協働の実施状況		企画展「甲虫すごいぜ！」ロビー等での小展示「馬形はにわ」移動展「まるづかみ展県南編」	歴史・文化コレクション「太布」県民コレクション「徳島漂着物コレクション」、「みんなで調べた徳島のタンポポ」	県民コレクション「発掘ボランティアと見つけた恐竜化石たち」

●自己評価

(1-1) 常設展リニューアルの実施

【実物資料（モノ）の魅力発信に向けた取り組み】

- ・令和 4 年度は、「博物館誘客強化事業」（文化庁・文化芸術振興費補助金事業）の一環として、顔出しパネルの製作、低反射フィルムの貼り付け等を行った。
- ・顔出しパネルについては、常設展「徳島の自然と暮らし」で紹介している「いただきさん」をもとに製作した。フェスティバル等のイベント時に活用する予定である。
- ・低反射フィルムを、常設展「徳島の自然と暮らし」のジオラマ（「ブナ林」と「県南の海底」）のガラス面（外側と内側の全面）に貼り付けた。反射を低減させることで、来館者がより臨場感を持って資料を観察できるようになった。
- ・3 年度に採択された、公益財団法人日本生命財団の出版助成による「展示案内」について、構成の検討、資料の写真撮影、原稿の執筆を行った。
- ・「自然史コレクション」、「歴史・文化コレクション」での展示に合わせ、展示解説シートを作成し、配布した。

【フレキシブルな展示構成に向けた取り組み】

- ・自然史コレクション、歴史・文化コレクション、県民コレクション、コミュニケーションゾーン（学芸員活動紹介コーナー）の展示替えを行った。
- ・徳島セクションの展示替えを随時行った。

【ユニバーサル化推進に向けた取り組み】

- ・「博物館誘客強化事業」の一環として、海外からの来館者に対して、さらなる利便性の向上を目的に、英語版のガイドマニュアルとパンフレットを作成し、配布した。
- ・3 年度に作成した展示用手話ガイド解説を引き続き運用した。また、手話ガイドアプリを iOS 用にリリースした。

【映像・ハンズオン等の活用に向けた取り組み】

- ・「博物館誘客強化事業」の一環として、デジタルコンテンツの拡充を図った。具体的には、常設展で紹介している「化もの絵巻」をもとに、オリジナルの AR コンテンツを製作した。中世・近世の絵巻物や信仰・文化への理解を深めることが目的である。運用開始（2 月 3 日）後は、好評を得ている。

【常設展の PR と活用に向けた取り組み】

- ・3 年度に引き続き、ホームページ、Facebook、Youtube 等を用いた紹介を行った。
- ・海外からの来館者を呼び込むことを目的に、インバウンド向けガイドマニュアルとパンフレット（英語版）を作成し、配布した。
- ・他館、各種団体等による視察に対応した。

(1-2) 常設展の改善・充実

- ・常設展観覧者数は 42,790 人であり、目標値（60,000 人／年）に達しなかった。依然として、新型コロナウイルス感染症の流行が要因の一つであると考えられる。一例を示せば、学校教育に伴う博物館利用について、コロナ対策として同時に受け入れることができる校数を制限したことが影響している（元年度の小学校の年間利用校数

は107校であったが、4年度は88校であった)。その他、無料観覧者のうち、高齢者の利用が数値上伸びていない(元年度は4,342人だったが、4年度は3,398人ととどまる)等である。コロナ禍により、外出を控えた方がいたものと思われる。

- ・常設展観覧者のうち、4年度の有料観覧者は11,471人であった。リニューアル以前と比較すると倍近くに増加しており(元年度は6,342人、30年度は5,690人)、常設展の観覧を目的に来館した人が増加したといえる。
- ・常設展アンケートは実施していない。新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、実施を見合わせたためである。
- ・展示替え回数は8回で、目標値(7回)を上回った。内訳は、自然史コレクション1回(「かがやく生き物レビュー」)、歴史・文化コレクション3回(「藍染め温故知新」、「土器・焼物大集合」、「半田 敷地屋本家大久保家の漆器」)、県民コレクション1回(「発掘ボランティアと見つけた恐竜化石たち」)、学芸員活動紹介コーナー2回、ロビー等での小展示1回である。
- ・3年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、受付カウンターへのパーティション、検温器、消毒用アルコール等の設置、展示室への次亜塩素酸空間除菌機、職員等のマスク着用、手指消毒の徹底等を行い、来館者に対しては、マスクの着用、手指消毒、検温、入場制限、ソーシャルディスタンスの徹底等、展示室内での各種対策への協力をお願いした。

(1-3) 魅力ある企画展の計画的開催

- ・4年度は企画展2回(「阿波の画壇をたのしむ—近世の画人と作品—」、「ネコ展」)を実施した。常設展と同様、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための対策を行った。
- ・企画展の1日あたりの観覧者数は、「阿波の画壇をたのしむ」が60人(総観覧者数:1,977人、開催日数:33日)、「ネコ展」が238人(総観覧者数:9,287人、開催日数:39日)で、ともに目標値(人文100人/日、自然250人/日)に達しなかった。
- ・観覧者の満足度は、「阿波の画壇をたのしむ」が100%、「ネコ展」が98%と高く、目標値(80%)を上回った。
- ・企画展への注目度の指標として、展示内容が報道された件数を取り上げている。「阿波の画壇をたのしむ」は3件で目標値(5件)に達しなかったが、「ネコ展」は5件で目標値に達した。
- ・企画展については、学術性、新規性、娯楽性等の諸要素をバランス良く取り入れた展示を、計画的に組み込むことを心がけている。また、予算が少ない中で、外部資金の獲得や予算要求の方法を工夫することによって、展示内容や広報の充実を図っている。今後も多くの観覧者の満足を得られるよう、展示内容の工夫や効果的な広報に努めていきたい。

(1-4) 多様な展示の開催促進

- ・特別陳列等の開催回数は2回(「阿波の旅人」と「鳥居龍蔵が見た120年前の木頭」)で、目標値(2回/年)に達した。
- ・特別陳列の1日あたりの観覧者数は、「阿波の旅人」が140人(総観覧者数:5,338人、開催日数:38日)で目標値(人文100人/日)を上回った。
- ・観覧者の満足度は、「阿波の旅人」が98%と高く、目標値(80%)を上回った。
- ・特別陳列への注目度の指標として、展示内容が報道された件数を取り上げている。「阿波の旅人」は8件で、目標値(5件)を上回った。

(1-5) 他機関との共同展示等の促進

- ・鳥居龍蔵記念博物館との共催により、企画展「鳥居龍蔵をめぐる人々」を開催した。
- ・文化の森6館及び徳島県教育委員会人権教育課との共催により、「2022年度文化の森人権啓発展」を開催した。
- ・移動展を4回(「勝浦町周辺の恐竜時代の地層と化石」、「漂着物展」、「鳥居龍蔵が見た120年前の木頭」、「ビーチコーミングDE松茂のSeaをSeeろう」)開催し、目標値(2回)を上回った。博物館、その他機関との連携による移動展は、当館単独では難しい分野、資料、地域、施設での展示を可能にするため、引き続き実施していきたい。

(1-6) 展示解説等の推進

- ・企画展図録を1冊(「阿波の画壇をたのしむ」)発行した。
- ・企画展の展示解説を5回、特別陳列の展示解説を5回、歴史・文化コレクションの展示解説を7回行った。
- ・子ども向け展示解説の一環として、リニューアル以前に実施していたクイズラリーを9月から再開させた。4年度は7回実施した。

68 中期活動目標と自己評価

- ・文化の森全体で実施する比較的規模の大きい常設展活用イベントを4回実施した（「文化の森こどもの日フェスティバル」、「文化の森サマーフェスティバル」、「文化の森秋祭り」、「文化の森ウィンターフェスティバル」。ただし、コロナ禍以前よりも規模はいずれも縮小）。その他、コミュニケーションゾーンで常設展活用イベントを2回実施した（「大谷座から人形のつかい方を学ぼう」、「とくしま藍の日スペシャル 藍のはっばで遊ぼう」）。

(1-7) 県民などとの協働による展示の推進

- ・県民コレクション「発掘ボランティアと見つけた恐竜化石たち」を県民と協働で開催した。

(2) 普及教育

●中期活動目標及び4年度実績

中期活動目標の項目	評価指標	目標値	2年度実績	3年度実績	4年度実績
2-1 県民のニーズを反映した多様な催しの開催	普及行事実施回数	70回/年	70回	68回	92回
	普及行事参加者数	5,000人/年	1,560人	1,400人	7,332人
	参加者の満足度	満足した者の割合80%	アンケート中止	100% (11行事)	98%
	アウトリーチ活動数	5回/年	7回	2回	5回
2-2 学校教育支援事業の推進	支援事業案内パンフレット配布状況	県内全教員(小・中・高)	県内全教員(小・中・高)	県内全教員(小・中・高)	県内全教員(小・中・高)
	出前授業件数	出前授業15件/年	23件	19件	25件
	資料貸出件数	資料貸出10件/年	9件	4件	6件
	館での授業件数		10件	2件	5件
	教員研修件数		0件	0件	6件
	職場体験件数		6件	3件	4件
	遠足件数		34件(学校26件、その他8件)	119件(学校87件、その他32件)	132件(学校112件、その他20件)
	学校の満足度	80%	100%	97%	100%
2-3 普及的記事の執筆推進	普及的記事の執筆数	40件/年	64件	39件	42件
	博物館ニュース発行回数	4回/年	4回	4回	4回
2-4 県民との協働による普及行事等の推進	県民との協働による普及行事等の実施状況		5件(公募ボランティア1件、普及行事4件)	6件(公募ボランティア1件、普及行事5件)	7件(公募ボランティア4件、普及行事3件)
2-5 だれもが参加しやすい普及行事等の取り組み	だれもが参加しやすい普及行事等の取り組み状況		1件(インクルーシブワークショップ1件)		特別支援学校7件 児童福祉施設20件 障がい者福祉施設1件

●自己評価

(2-1) 県民のニーズを反映した多様な催しの開催

- ・普及行事の実施回数は92回で、令和3年度の68回から24回増加した。参加者数は7,332人で、3年度の1,400人から5,932人増加した。春・夏・秋・冬の4回行う「文化の森フェスティバル」を実施できたことが大きい。
- ・4回の参加者数合計は、5,536人であった。
- ・普及行事は、コレクションセクション関連行事を追加し、14シリーズで実施した。分野やテーマによって参加者数は異なるが、生物に関する行事、屋外で実施する行事、ものづくりなどの活動を伴う行事、考古学や古文書講座など歴史に関する行事に、多数の申し込みが集まっている。
- ・普及行事に対する参加者の満足度は、8行事で行ったアンケートの結果、98%が「満足」と回答している。県民のニーズを考え、内容等を工夫した成果が現れている。
- ・移動講座等文化の森以外の施設で実施するアウトリーチ活動は、海陽町立博物館での「海部自然・文化セミナー」が4回、移動展「鳥居龍蔵の見た120年前の木頭」の特別講演が1回であり、目標値の5回に達した。今後も他の館や機関と連携し、アウトリーチ活動をさらに広げていきたい。
- ・鳥居龍蔵記念博物館との共催により「令和4年度鳥居龍蔵記念 徳島歴史文化フォーラム」を実施した。中学生・高校生から研究レポートを公募し、フォーラム(発表会)で口頭発表(中学生4組、高校生3組、計7組)してもらったとともに、優れた成果を表彰した。参加者は延べ46人であった。遠足等での来館が少ない中学校や高等学校との連携も深めることができた。

(2-2) 学校教育支援事業の推進

- ・4年度の出前授業件数は25件で、3年度と同様に目標値の15件を大幅に上回った。その内訳は、徳島市が13件と最も多く、吉野川市6件、阿南市3件、勝浦郡2件、鳴門市1件と続く。校種別では、小学校24件、中学校1件であった。

小学校以外についても広がりを目指したい。出前授業の内容は、小学校の「昔の道具とくらし」が圧倒的に多いが、「水生生物」や「戦争と人々のくらし」等もみられる。中学校の1件は、「地域のオリエンテーリング」を県指定史跡川島廃寺跡で実施したものである。中学校や高等学校で実施可能な授業の分野やテーマを開発し、学校側に対して博物館との連携の方法を提示していく必要がある。出前授業等での「総合評価」については、アンケート回答のあった18校で、満足度は5段階の4以上が100%であり高い評価を得ている。

- ・4年度の資料貸出件数は6件で、3年度より2件増加した。内訳は、「アンモナイトの化石等」(小学校3件)、「戦争関係資料」(小学校1件・中学校1件)、「考古資料(忌部山2号墳副葬品)」(中学校1件)であった。目標値の10件を4件下回っており、出前授業と同様に、学校側に対して博物館との連携の方法を、さらに提示していく必要がある。
- ・館内での授業は5件で、3年度より3件増加した。内訳は、小学校3件、中学校2件である。
- ・4年度の教員研修は6件で、3年度より6件増加した。7月29日に実施予定であった「教員のための博物館の日 in 徳島」は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となった。
- ・4年度の職場体験は4件で、3年度より1件増加した。内訳は、高等学校2件、大学2件である。今後、中学校や高等学校との連携を促進することで受け入れに努めたい。
- ・4年度の遠足は132件(学校教育課程112件、放課後児童クラブ・発達支援施設等20件)であり、3年度の119件(学校教育課程87件、放課後児童クラブ・発達支援施設等32件)より増えている。内訳でみると、学校教育課程での利用は25件増加した一方、土曜・日曜や長期休業中での放課後児童クラブ・発達支援施設等の利用は12件減少した。校種別では、未就学(幼稚園・こども園等)が32件、小学校が69件、中学校が9件、高等学校が2件となっている。修学旅行での利用は、県外が1件であった。

(2-3) 普及的記事の執筆推進

- ・普及的記事の執筆数は、40件であった。
- ・博物館ニュースの発行は、例年通り4回であった。

(2-4) 県民との協働による普及行事等の推進

- ・ボランティアを公募し、「文化の森秋祭り」(24人)、「文化の森ウィンターフェスティバル」(21人)、「ボランティアと一緒に光る貝の展示を作ろう」(32人)、「恐竜化石含有層の岩石の小割」(5人)を実施した。
- ・普及行事のうち、「野外自然かんさつⅡ〈植物〉」(13回)、「生きものしらべ隊」(1回)、「ミュージアムトーク」(6回)の3件を県民との協働により実施した。今後も、県民との協働による行事運営の方法を模索したい。

(2-5) だれもが参加しやすい普及行事等の取り組み

- ・4年度は、遠足等で特別支援学校7件、児童福祉施設20件、障がい者福祉施設1件の利用があった。
- ・DXの推進により、普及行事の申し込みをホームページ上で可能にするシステムの開発に取り組み、利便性の向上を図った。

(3) 調査研究

●中期活動目標及び4年度実績

中期活動目標の項目	評価指標	指標の目標値	2年度実績	3年度実績	4年度実績
3-1 調査研究活動の推進	課題調査等実施状況	2件/年	2件(外部との共同2)	2件(外部との共同1)	2件(外部との共同1)
	個別調査研究の実施状況				
3-2 外部研究機関等との連携の推進	共同研究件数	10件/年	18件/年	16件/年	12件/年
	共同研究プロジェクト件数	3件/年	6件/年	6件/年	9件/年
3-3 県民参画型調査研究の推進	県民参画型調査の件数	2件/年	4件/年	6件/年	4件/年
3-4 外部資金の獲得による調査研究事業の推進	公的な研究助成金の申請・採択件数	申請4件・採択1件/年	申請2・採択1(継続4)	申請2・採択0(継続5)	申請2・採択2(継続1)
	民間の研究助成金の申請・採択件数		申請0・採択0	申請0・採択0	申請1・採択1
3-5 調査研究成果の公表	学術的著述数	24本/年(査読付き4本/年)	46本(査読付き16)	24本(査読付き7)	25本(査読付き9)
	学会・研究会での発表件数	24件/年	6件/年	7件/年	11件/年
	マスコミへの資料提供件数	3件/年	5件/年	3件/年	4件/年

●自己評価

(3-1) 調査研究活動の推進

- ・課題調査として「生物の紫外線発光に関する調査」を実施した。
- ・令和3年度に引き続き「日本最古級恐竜化石含有層発掘調査・発信プロジェクト」を実施した。
- ・課題調査等の合計件数は2件であり、目標値に達した。
- ・各学芸員が個別調査研究を実施し、それぞれ成果を得た (p.24～26「分野別(個別)調査研究」を参照)。
- ・学芸員等による館内公表会(セミナー)を5回実施した。このうち、2回は館外発表者によるものである。

(3-2) 外部研究機関等との連携の推進

- ・4年度は他機関等の研究者との共同研究数については、12件で目標値を達成した。
- ・共同研究プロジェクトとは、他機関や研究者等との共同研究のうち、予算的措置を伴う共同研究のことをさす。「蛍光エックス線分析法による赤色顔料の調査」、「勝浦町の恐竜化石含有層発掘調査」、「[鳴門海峡地域の地質] 図幅および陸海シームレス地質情報集の作製のための調査」、「井藤正一日記の翻刻及び調査研究」、「[鳴門の渦潮] 調査研究プロジェクト」、「フィールドサイエンスの再統合と地域文化の創発に関する調査研究」の6件であった。また、日本学術振興会科学研究費補助金による共同研究プロジェクトは、「霊場資料学の構築と霊場文化の解明による四国遍路の総合的研究」、「民族誌アーカイブズとフィールド調査の接合による植民地初期台湾の先住民族社会の探究」、「19世紀以降の東アジア世界における海藻の生産・流通・消費に関する総合研究」の3件であった。あわせて9件で、目標値を達成した。

(3-3) 県民参画型調査研究の推進

- ・4年度の県民参画型調査は、合計4件で目標値を達成した。
- ・「生物の紫外線発光に関する調査」、「日本最古級恐竜化石含有層発掘調査・発信プロジェクト」、「伊勢田川での魚類相調査」、「アサギマダラのマーキング調査」を実施した。

(3-4) 外部資金の獲得による調査研究事業の推進

- ・日本学術振興会による科学研究費補助金(科研費)の4年度の研究代表者としての申請を2件行った(3年9月申請)。
- ・4年度は、科研費等の公的研究助成金の研究代表者としての新規採択は0件、分担者としての新規採択は2件だった。申請数および採択数は目標値に達しなかった。科研費研究代表者として1件「新たな環境への進出と進化: ホトケドジョウ属における源流域への進出と進化プロセス」、科研費研究分担者として3件(「霊場資料学の構築と霊場文化の解明による四国遍路の総合的研究」、「民族誌アーカイブズとフィールド調査の接合による植民地初期台湾の先住民族社会の探究」、「19世紀以降の東アジア世界における海藻の生産・流通・消費に関する総合研究」)の研究を行った。近年は科研費の研究分担者として共同で行う研究が増えつつあり、当館のネットワークの広がりがうかがえる。一方、研究代表者としての申請は少なく、積極的な努力が必要である。今後も継続して科研費申請を進めるとともに、科研費以外の補助金についても、情報を収集して積極的に申請し、獲得を目指したい。
- ・研究課題については、博物館の特性を生かした課題(たとえば分野の枠を越えた共同研究や、博物館学に関連したもの等)を設定する等の工夫が必要である。
- ・4年度の民間の研究助成金として、笹川科学研究助成 実践研究部門: 博物館活動の活性化の実践「ボランティアと一緒に光る貝の展示を作ろう」が採択され、研究を行った。

(3-5) 調査研究成果の公表

- ・学術論文数は25本、うち査読付き論文は9本であった。学術論文数、査読付き論文数は、ともに目標値に達した。
- ・学会・研究会での発表は11件で、目標値に達しなかったものの、3年度より増加した。新型コロナウイルス感染症拡大下ではあったが、学会等の対面開催が再開されつつあったことも増加要因の一つである。
- ・マスコミへの資料提供は、「[徳島県勝浦町から発見された日本最古級のイグアノドン類の尾椎と歯化石]について」、「化石発掘体験イベント等において発見された新たな恐竜の歯化石について」、「勝浦町恐竜化石含有層本格発掘調査(後方支援施設での小割作業)の公開について」及び「徳島県牟岐町から発見された希少魚類ホシッセンヨウジについて」の4件であり、目標値を超えた。今後とも調査成果を県民に還元する工夫が必要である。

(4) 資料の収集・保存と活用

●中期活動目標及び4年度実績

中期活動目標の項目		評価指標	目標値	2年度実績	3年度実績	4年度実績
収集						
4-1	継続的な資料の収集	収蔵資料点数	R5年度末で550,000点	552,024	574,260	577,484
		新規資料増加点数	4,000点	7,776	22,236	3,224
		採集資料件数	20件/年	14	12	8
		購入資料件数	3件/年	3	5	11
		寄贈資料件数	100件/年	53	61	58
4-2	寄託資料の受け入れの促進	寄託資料件数		78	78	74
		新規寄託件数	3件/年	1	2	2
4-3	文献資料の充実	図書冊数		14,527	14,640	14,737
		新規受入図書冊数	140冊	199	113	97
		寄贈図書冊数	40冊	86	14	25
		購入図書冊数	100冊	113	99	72
		購入雑誌タイトル数		32	32	31
保存						
4-4	収蔵資料データベースの整備	収蔵資料DB登録率	50%	48.9%	47.3%	47.4%
4-5	資料の安全な保存	燻蒸の実施	3回/年	3回 (燻蒸庫3)	3回 (燻蒸庫2+全室1)	3回 (燻蒸庫3)
		収蔵庫点検	12回/年	自然12回 人文12回	自然12回 人文12回	自然12回 人文7回
		展示室点検	12回/年	12回	12回	12回
		企画展示室・歴史民俗収蔵庫の空気環境調査		バッシブインジケータ等による空気環境調査を実施	バッシブインジケータ等による空気環境調査を実施	バッシブインジケータ等による空気環境調査を実施
		新たな防虫・防菌対策の検討		二酸化炭素を用いた殺虫処理を実施		
4-6	収蔵スペースの確保	収蔵スペースの状況および他館の情報収集等				収蔵スペース急激な切迫化
活用						
4-7	展覧における利用促進	展示利用点数		22,054	1,011	966
		常設展での利用点数		156	382	374
		常設展以外の展示での利用点数		21,898	629	592
4-8	貸し出し等の促進	資料特別利用等件数	60件/年	78	95	98
4-9	資料収集保存活動に対する理解の促進	マスコミへの情報提供・ホームページへの掲載・記事執筆等		企画展「蔵出し!とくしま“宝もの”展」などの展示で情報発信	企画展「徳島おふだコレクション」などの展示で情報発信	県民コレクション「発掘ボランティアと見つけた恐竜化石たち」等の展示で情報発信

●自己評価

(4-1) 継続的な資料の収集

- ・収蔵資料点数は、令和3年度末時点で574,260点であったのが、4年度末時点で577,484点となった。
- ・新規資料点数は、3,224点で、目標値の4,000点/年に達しなかった。新規資料のうち特に多かったのが、美術工芸の2,139点であった。
- ・採集資料件数は8件(目標値20件/年)、寄贈資料件数は58件(目標値100件/年)で、いずれも目標値を下回った。
- ・4年度は地学分野で5件(6点)、歴史分野で6件(6点)、計11件(12点)の資料購入があった。いずれも1件あたりの購入金額が100万円未満のため、資料収集委員会は開催されなかった。

(4-2) 寄託資料の受け入れの促進

- ・新規寄託は2件で、目標値の3件/年を下回った。

(4-3) 文献資料の充実

- ・図書・雑誌については、予算等の状況に大きく左右されるため、特に目標値は定めていない。しかし、図書・雑誌は博物館の重要な資料の一部であり、調査研究や展示、普及教育活動等の状況の表れでもあるため、評価指標として取り上げている。なお、平成27年度からは、予算の一部は図書館に計上されている。
- ・図書冊数は、14,737冊で、3年度から97冊増加した。
- ・購入雑誌タイトル数は、31タイトルであった。

72 中期活動目標と自己評価

(4-4) 収蔵資料データベースの整備

・収蔵資料のデータベースへの登録率は、記録を取り始めた平成16年度には40%であった。18年度から増加をはじめ、19年度以降、目標値の50%にわずかに届かないレベルで推移した。29年度に登録率が50.0%となり、いったん目標値に達したものの、4年度は登録点数が273,423点、登録率が47.4%となり、目標値を下回った。

(4-5) 資料の安全な保存

・4年度は、燻蒸庫燻蒸を3回実施した。
 ・平成25年1月から、収蔵庫の定期点検を実施している。収蔵庫あるいは収蔵庫内の区画ごとに資料の安全な保管の強化に努めており、26年度以降、目標値を12回/年と定めた。4年度は自然担当で10回、人文担当で7回の点検で、目標値を下回った。
 ・平成28年6月から、学芸員が月に1回程度常設展示室の点検を実施し、文化財害虫のモニタリングや、温湿度の計測を行っている。4年度は12回実施した。
 ・3年度に引き続き、4年度も生物収蔵庫、歴史民俗収蔵庫、特別収蔵庫及び企画展示室で、パッシブインジケーターや検知管による空気環境調査を行った。
 ・開館から30年が経過し、資料保存に関する設備・機器についても老朽化が進んでおり、定期点検や修繕が必要になっている。3年度に引き続き、4年度も燻蒸庫の活性炭交換を行った。また、温湿度の点検に使用しているデジタル温湿度計の湿度を、アスマン式通風乾湿計を用いて校正した。
 ・文化の森総合公園害虫等駆除及び防除業務は、平成26年度以降、検査範囲に常設展示室も加えている。4年度も引き続き、トラップ設置・害虫出現状況の調査を行った。

(4-6) 収蔵スペースの確保

・資料収納の高密度化を図るため、生物収蔵庫及び地学収蔵庫内にスチール製大型棚を取り付けた。
 ・4年度は、多数の大型剥製標本や漆器関連資料、約10,000点にのぼる化石など大量の資料の寄贈があった。これに伴い、収蔵スペースが急激に切迫している。収蔵スペースを確保するために、置き場所の変更や収納の高密度化、収蔵ケースや容器の工夫等が必要であるが、予算の制約もあり、進んでいるとはいえない。研究者やコレクターの高齢化等に伴い、資料の受入要請が今後増加することが予想される。資料の受け入れは慎重に行うとともに、引き続き具体的な対策を考えていきたい。

(4-7) 展覧における利用促進

・収蔵資料の活用状況を把握するための指標として、展示利用点数（館蔵資料と寄託資料の合計）を記録している。4年度の利用点数は966点（うち館蔵資料966点、寄託資料0点）であった。そのうち常設展（コレクションセクションなど）において374点（うち館蔵資料374点、寄託資料0点）、常設展以外の展示（企画展や特別陳列等）において592点（うち館蔵資料584点、寄託資料8点）の資料を利用した。

(4-8) 貸し出し等の促進

・収蔵資料活用の指標の一つとして、資料特別利用（収蔵資料の閲覧・貸出・模写・複製・撮影・出版物掲載・その他）等件数を設けている。これは、他館への展示のための貸し出しや研究者向けの資料の貸し出し、マスコミや出版社への画像の提供等を含んでいる（学校への貸し出しは含んでいない。これについては「Ⅱ普及教育」を参照のこと）。4年度は98件で、目標値の60件/年を上回った。なお、98件のうち、資料の貸し出しは20件、写真・映像の提供は47件であった。その他、外部から依頼を受ける資料調査にも数多く対応している。

(4-9) 資料収集保存活動に対する理解の促進

・資料収集保存活動に対する理解を促進するため、様々な取り組みを行っている。4年度は、県民コレクション「発掘ボランティアと見つけた恐竜化石たち」において、資料の収集・保存等を紹介した。

(5) 情報の発信と公開

●中期活動目標及び4年度実績

中期活動目標の項目	中期活動目標の内容	評価指標	目標値	2年度実績	3年度実績	4年度実績
5-1 マスコミへの資料提供等の推進	企画展や普及行事の案内だけでなく、博物館に関する情報を積極的に資料提供するよう努めます。	資料提供件数	30件/年	23件	12件	25件
		マスコミ取材報道件数	100件/年	106件	150件	100件
		マスコミ出演等件数	15件/年	14件	24件	16件

5-2	広報活動の強化	広報関係出版物の内容改善、配布ルートの開拓など、広報活動を強化します。	広報手段の新規開拓状況		チラシやポスターの有効な配布	チラシやポスターの有効な配布	チラシやポスターの有効な配布
			広報関係出版物発送状況				
			年間催し物案内発送件数(発送回数)	600件(1回)/年	785件(1回)	778件(1回)	812件(1回)
			月間催し物案内発送件数(発送回数)	各80件(12回)/年	各81件(12回)	各85件(12回)	各83件(12回)
5-3	インターネットによる情報発信の推進	インターネットによる情報発信を推進するため、学芸員による積極的な情報発信を促し、ホームページの充実を図ります。	HP総アクセス数	9,000,000件/年	10,113,588件	10,285,407件	10,912,332件
			HPの新規および更新したページ数	70ページ/年	270ページ/年	218ページ/年	83ページ/年
			HPの内容の更新頻度	月3回	2.2回/月	2.2回/月	3回/月
5-4	SNSによる情報発信	情報交換の推進のためにSNSによる情報発信を促進します。	Facebookの更新数	80回/年	47回	65回	25回
5-5	だれもが情報にアクセスできるホームページづくり(ユニバーサル視点)	子どもから大人まで、さらに外国人など、また、パソコンだけではなくスマートフォンなどでも、さまざまな人が情報にアクセスできるようにします。	HPのスマートフォン等への対応		・企画展、リニューアル関連専用サイト等で実施	・「徳島の恐竜」、リニューアル関連専用サイト等で実施	・情報端末に最適化されたホームページにリニューアルした。
			HPの多言語対応		・新常設展構築業務と連動して検討	・新常設展構築業務でHPを改修し対応	・HPの主要な部分を5か国語対応とした。
			HPの見やすさや色の検討		・新常設展構築業務と連動して検討	・新常設展構築業務でHPを改修し対応	・アクセシビリティを向上したレイアウトや配色に改修した。
			デジタルアーカイブ		・徳島県文化の森デジタルアーカイブ事業にて実施	・徳島県文化の森デジタルアーカイブ事業にて実施	・徳島県文化の森デジタルアーカイブ事業にて実施
5-6	常設展のリニューアルに関する情報発信の促進	展示更新の進捗及び結果を積極的に発信し、その広報に努めます。	展示更新に関する発信状況		26件(FB17、HP8、資料提供1)	40件(FB37(オープン前23(オープン後14))、HP2、マスコミ向け内覧会1)	21件(FB13、HP8)

●自己評価

(5-1) マスコミへの資料提供等の推進

- ・博物館からの情報発信としてマスコミへの資料提供は効果的である。令和4年度は、3年度の常設展リニューアルといった特別な話題がなかったため、資料提供を積極的に行った。
- ・4年度の資料提供件数は25件で、3年度より13件増加した。
- ・マスコミ取材報道件数については、新聞・雑誌によって取材・報道された件数である。4年度は100件で、3年度より50件減少した。企画展「阿波の画壇をたのしむ—近世の画人と作品—」、「ネコ展」のほか、勝浦町の恐竜化石に関するもの等注目度の高い話題が多かった。また、県内で目撃された動物に関する取材報道が多かった。
- ・マスコミ出演等件数は16件で、3年度より8件減少した。内容は、企画展、歴史・文化コレクション、自然史コレクション等展示に関することや「勝浦町の恐竜化石」等大きな話題に関連した内容が多かった。

(5-2) 広報活動の強化

- ・広報手段の新規開拓状況として、3年度は来館者数の増加が期待できるイベントでの広報を控えていたが、4年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響が小さくなったため、従来の広報活動だけでなく配布ルートの新規開拓を行った。また、チラシ・ポスター等の配布先を企画展等のテーマに合わせたり、展示協力者等の協力を得たりして、選定・拡充した。
- ・広報関係出版物の発行状況として、年間催し物案内は、県内の小学校の全児童に配布する等学校関係へ重点的に配布したほか、引き続き幼稚園や保育園等にも配布した。月間催し物案内は、マスコミと各図書館を中心に配布した。博物館ニュースは関係諸機関にまんべんなく配布したが、特に小学校においては理科、社会科、生活科の教員と各クラスに、中学校・高等学校においては理科、社会科の教員に対して配布した。年間・月間催し物案内及び博物館ニュースの発送件数は3年度とほぼ同数であった。

(5-3) インターネットによる情報発信の推進

- ・インターネットによる情報発信においては、4年度は1年間でHPに約1,091万件的アクセスがあった。3年度より約63万件増加し、目標値の900万件/年を上回った。
- ・新規コンテンツ数は、4年度に新しいHPシステムの本格運用が始まってから新たに83ページ/年を作成した。

74 中期活動目標と自己評価

HP 更新により3年度以前とはホームページの構造が異なっており、計測の基準が異なることになる。これによりページの作成数は3年度よりも減少したが、目標値の70ページ/年を上回った。新規コンテンツの内容は、トップページを更新したほか、行事予定、企画展・特別陳列案内、ボランティアの募集や活動等である。また、新型コロナウイルス感染症対策として、展示室の混雑を避けるために実装した来館予約システムを運用した。

- ・内容の更新頻度は3回/月(36回/年)で、目標値の3回/月に達した。
- ・新型コロナウイルス感染症が拡大する中、3年度に引き続き、ホームページ上に博物館を自宅で楽しめるコンテンツ「自宅で博物館を楽しもう!」を作成・提供した。

(5-4) SNSによる情報発信

- ・4年度はFacebookページの更新回数が25回で目標値に達しなかった。新型コロナウイルス感染症拡大によるさまざまな影響があったものの、積極的に活用すべき情報発信ツールであるため、今後はより一層の活用を努めていきたい。
- ・徳島県立博物館YouTubeチャンネルでは、4年度に6本の動画をアップロードし公開した。3年度の12本から6本減少した。チャンネル登録者数は89人で3年度より27人増加した。総視聴回数は7,594回で、3年度から2,253回増加した。

(5-5) だれもが情報にアクセスできるホームページづくり

- ・HPシステムを更新し、多言語、文字の大きさや配色、読み上げツールなどに対応した新しいHPシステムの本格的な運用を開始した。
- ・徳島県文化の森デジタルアーカイブ構築事業により、25点の館蔵資料を撮影し、デジタルデータを「徳島県立博物館デジタルアーカイブ」サイトにて公開した。
- ・新型コロナウイルス感染症対策として、3年度に導入したインターネットで観覧予約できる常設展観覧予約システムの運用を継続した。

(5-6) 常設展の展示更新に関する情報発信

- ・常設展における展示更新について、Facebookにて13件、HPにて8件の情報発信を行った。

(6) 県民協働・参画

●中期活動目標及び4年度実績

中期活動目標の項目	評価指標	目標値	2年度実績	3年度実績	4年度実績
6-1 友の会活動の充実と活性化	友の会会員数	250人/年	185人	231人	254人
	個人会員		39人	47人	46人
	家族会員・家族数		146人・40組	184人・48組	208人・58組
	会員の継続率	前年度会員の70%	60%	76%	71%
	個人会員		75%	82%	77%
	家族会員		76%	62%	48%
	友の会行事実施回数・参加者数	6回/年	6回・122人	7回・124人	7回・117人
	展示利用率	50%	51%(39%)	60%(46%)	69%(47%)
	個人会員		46%(26%)	57%(34%)	78%(54%)
	家族会員		55%(46%)	63%(58%)	72%(59%)
	延べ利用者数		254人(143人)	292人(180人)	481人(276人)
	個人会員		113人(64人)	70人(50人)	113人(64人)
家族会員		141人(79人)	222人(130人)	403人(222人)	
	会報の発行回数	2回/年	2回	2回	2回
6-2 公募ボランティアの協働推進	公募ボランティア登録者数		イベントボランティア23人	合計24人(イベントボランティア46人、みどりのサポート隊46人)	イベントボランティア(公募ボランティア)31人
	公募ボランティア活動回数(全体会・班会合、イベント)		合計11回 イベントボランティア会合10回 イベント1回	合計15回 イベントボランティア会合14回 イベント1回	合計23回 イベントボランティア会合23回 イベント2回
	企画運営型行事等件数		1件(2/11)	1件(2/11)	2件(11/3, 2/11)
6-3 各種事業での県民協働の推進	県民などとの協働による展示の実施状況		企画展示1件、トピックコーナー1件、移動展1件、常設展更新に向けたワークショップ1件	県民コレクション2件、歴史・文化コレクション1件、	自然史コレクション1件、県民コレクション1件、歴史・文化コレクション1件、

	県民参画型調査の件数	2件/年	4件/年	4件/年	5件/年
	県民との協働による普及行事等の実施状況		5件(公募ボランティア1件、普及行事4件)	3件(公募ボランティア1件、普及行事2件)	5件(公募ボランティア2件、普及行事3件)

●自己評価

(6-1) 友の会活動の充実と活性化

- ・友の会会員数は、令和3年度は231人、4年度は254人で、23人の増加である。内訳は、個人会員が47人から46人と1人減少したが、家族会員は184人(48組)から208人(58組)で24人(10組)の増加となった。今後も、勧誘ポスターの掲示やチラシの配布を行い、PRに努める。また、館内掲示板等やインターネットを利用した情報発信も、引き続き行いたい。
- ・会員の継続率は、3年度が76%、4年度は71%だった。今後も、新規会員募集の強化や、会員が魅力を感じる会の運営を図りたい。
- ・友の会行事の実施回数は7回で、参加者数は117人であった。今後も引き続き会員の参加意欲を高められるように行事の工夫を図りたい。
- ・展示利用率は、2年度は51%、3年度は60%、4年度は69%となり、3年連続で目標値を上回った。今後も、会員が博物館に足を運びたくするような工夫を図りたい。

(6-2) 公募ボランティアの協働推進

- ・平成17年度から継続している公募ボランティアは、4年度は、常設展がリニューアルして初めての活動となった。3年度から継続した15人に加え、新規登録の16人が加わり、合計31人が参加した。
- ・公募ボランティアは、新型コロナウイルス感染症拡大の影響のため、8月から活動を開始し、年間23回の会合を実施した。
- ・11月3日(木・祝)の「文化の森秋祭り」、2月11日(土・祝)の「文化の森ウインターフェスティバル」で、ボランティアイベントを2件実施した。また、例年は、徳島大学で開催される「科学体験フェスティバルin徳島」など他機関が開催するイベントにもブースを出展しているが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けてイベントが中止・縮小されたことから、出展を見合わせた。

(6-3) 各種事業での県民協働の推進

- ・自然史コレクションでは「かがやく生き物プレビュー」、県民コレクションでは「みんなで調べた徳島のタンポポ」、歴史・文化コレクションでは「太布一樹皮から布をつくる手仕事」の3件の展示を県民と協働で開催した。
- ・普及行事として、県民協働で「ミュージアムトーク ゼロから始める植物学」、「野生生きものかんさつ 初めての植物かんさつ」、「生きものしらべ隊 魚類の頭骨標本をつくろう」を行い、「文化の森フェスティバル」のうち、11月3日(木・祝)の「文化の森秋祭り」、2月11日(土・祝)の「文化の森ウインターフェスティバル」で、ボランティアイベントを2件実施した。
- ・調査研究事業において「日本最古級恐竜化石含有層発掘調査・発信プロジェクト」、「漂着物の調査」、「伊勢田川での魚類相調査」、「アサギマダラのマーキング調査」の4件の県民協働参画型調査を実施した。
- ・資料収集関連事業で、常設展示室のIPM調査を四国大学及び龍谷大学の学生と実施した。

(7) シンクタンクとしての社会貢献

●中期活動目標及び4年度実績

中期活動目標の項目	評価指標	目標値	2年度実績	3年度実績	4年度実績
7-1 レファレンス利用者の拡大	レファレンス件数	500件/年	527	497	301
	周知状況		HPへの記載	HPへの記載	HPへの記載
7-2 講師派遣等の推進	講師派遣等件数		34(中止12)	27(中止3)	45
	講演会等の受講者数		(796)	(768)	(2,220)
7-3 自治体および各種機関・団体への専門知識の提供	委員等受託件数		46	28	50
	機関・団体等への協力状況		0	0	0
7-4 大学教育への寄与	非常勤講師受諾数		3	3	3
	学生・院生指導人数		0	0	0
	博物館実習生等受入人数		10(5大学)	11(6大学)	7(4大学)
	学芸員養成科目受講者数		122	93	113

76 中期活動目標と自己評価

7-5	学会・研究会の運営への寄与	学会等開催数		0	1	1
		学会等役員受託数		14	15	17
		学会等事務局受託数		3	3	3
7-6	博物館施設の連携強化への貢献	博物館関連団体委員等受託数		8	8	10
		博物館関連団体加入数		6	6	6
		連携事業等の実施数		18	16	19
			移動展3回、徳島県博物館協議会講演会・研修会、海陽町立博物館・福井県立恐竜博物館との連携	移動展1回（かんきつテラス徳島）、徳島県博物館協議会講演会・研修会、海陽町立博物館・福井県立恐竜博物館との連携	移動展4回（かんきつテラス徳島、木頭文化会館、美馬市立図書館、松茂町歴史民俗資料館・人形浄瑠璃芝居資料館）、徳島県博物館協議会講演会・研修会、海陽町立博物館・福井県立恐竜博物館との連携	

●自己評価

(7-1) レファレンス利用者の拡大

- レファレンス件数は301件で令和3年度から196件減少し、目標値500件に届かなかった。分野別の件数では、4年度は歴史が72件と最も多く、次いで地学が70件、動物（脊椎）が54件であった。3年度に最多であった昆虫関連のレファレンスに対応できる学芸員が、4年度はいなかったことが、件数減少の原因の一つと考えられる。
- レファレンス業務は、博物館の蓄積した資源の有効活用の方法であり、シンクタンク機能の中核でもある。自然と歴史、文化に関する身近な相談所として博物館に親しんでもらえるよう、機会をとらえて周知を進めていく必要がある。

(7-2) 講師派遣等の推進

- 4年度の講師派遣の依頼数は45件で、依頼数は3年度から大きく増加した。新型コロナウイルス感染症拡大に対する社会的対応の反映と考えられる。分野別にみると歴史が23件で最も多かった。
- 派遣先の受講者数は、全件において概数が記録されており、2,220人であった。

(7-3) 自治体及び各種機関・団体への専門知識の提供

- 各種委員会等の委員等受託数は50件で、3年度から24件増加した。博物館関係や学会・研究会の役員などが増えている。
- 委員等に委嘱されずに各種機関・団体への協力を求められることもあるが、公共性の高いものについては、レファレンス業務や講師派遣等により可能な範囲で対応していることが多い。

(7-4) 大学教育への寄与

- 4年度の大学における非常勤講師の受託数は3件で、3年度と同数であった。
- 4年度の博物館実習生の受入人数は7人で、3年度に比べて4人少なかった。
- 4年度は、学生・院生の研究指導はなかった。受入人数については、大学側の要望に応じて若干名を受け入れている。
- 県内で学芸員養成を行っている徳島大学、鳴門教育大学、四国大学の「博物館資料保存論」、「博物館教育論」、「博物館展示論」について、大学や近代美術館、文書館と協力し、博物館講座室を会場として共同開講した。新型コロナウイルス感染症拡大のため、オンライン授業も行った。4年度は、延べ113人を指導した。

(7-5) 学会・研究会の運営への寄与

- 4年度の学会や研究会の当館における開催は1件であった。新型コロナウイルス感染症拡大のため、多くの学会や研究会はオンラインで行うようになっており、その影響があると考えられる。
- 学会等役員受託数は17件で、3年度より2件増加した。
- 学会等の事務局受託数は3件で、3年度と同数であった。

(7-6) 博物館施設の連携強化への貢献

- 博物館関連団体の委員等受託数は10件で、3年度より2件増加した。
- 博物館関連団体加入数は6件で、3年度と同じである。これらのうち2件は当館が事務局を引き受けている。
- 他館等との連携事業数は19件で、3年度より3件増加した。4年度は移動展を4回開催した。また、当館が事務局を担当している徳島県博物館協議会において研修会を実施したほか、県内外の博物館との連携事業を行った。

(8) マネージメント（経営）

●中期活動目標及び4年度実績

中期活動目標の項目	評価指標	目標値	2年度実績	3年度実績	4年度実績
8-1 利用しやすい博物館をめざす施設の改善	点検・改善の状況		常設展示点検・修繕および改善（～8月） 新常設展の製作 講座室貸出0件	常設展リニューアルオープン 新規導入設備の点検や見直し 講座室貸出3件	常設展示室・企画展示室の点検や見直し 講座室貸出2件
8-2 博物館認知度の向上と利用者層の拡大	県民の博物館利用状況		データなし	常設展・企画展におけるアンケート調査	常設展・企画展におけるアンケート調査
	県外利用者の割合		データなし	「おふだ」6%	阿波の画壇5% 「ネコ展」12%
8-3 県民参画の仕組みづくり、博物館運営支援組織のあり方等の検討	ボランティア導入事業件数		2件（公募ボランティア事業、恐竜化石発掘調査）	2件（公募ボランティア事業、恐竜化石発掘調査）	2件（公募ボランティア事業、恐竜化石発掘調査）
8-4 設置者による理解および外部資金の獲得	博物館予算の状況		2月補正後 6,051,310千円 文化庁補助6,693千円	2月補正後 626,053千円 （文化庁補助4,000千円含む）	2月補正後 76,535千円 （文化庁補助12,000千円含む）
	外部資金獲得数		申請2、採択1、継続4	申請2、採択0、継続5	申請3、採択3、継続1
8-5 防災意識の向上と危機管理体制の強化	防災訓練の実施状況		自衛消防隊の防火防災訓練 3月19日	自衛消防隊の防火防災訓練 3月25日	自衛消防隊の防火防災訓練 3月23日
	危機管理体制の整備状況		新型コロナウイルス感染症拡大防止	新型コロナウイルス感染症拡大防止	新型コロナウイルス感染症拡大防止
8-6 職員の意識改革と資質の向上	取り組み状況		講師招聘による研修	文化庁等の研修 日本博物館協会 全国博物館大会	講師招聘による研修 日本博物館協会 全国博物館大会
8-7 博物館評価システムの構築	中期活動目標の状況		第4期中期活動目標の運用	第4期中期活動目標の運用	第4期中期活動目標の運用
	自己点検評価の状況		元年度事業自己点検・評価を年報、HPに掲載	2年度事業自己点検・評価を年報、HPに掲載	3年度事業自己点検・評価を年報、HPに掲載
	外部評価の状況		博物館協議会 9月30日	博物館協議会 9月29日	博物館協議会 10月6日

●自己評価

(8-1) 利用しやすい博物館をめざす施設の改善

- ・常設展示室や企画展示室の設備点検及び見直しを継続した。
- ・令和4年度も、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、検温や消毒等に必要な物品等の整備、職員及び利用者等の予防行動の浸透に努力した。
- ・講座室の有料貸し出しについては、4年度は2件あった。

(8-2) 博物館認知度の向上と利用者層の拡大

- ・4年度は、企画展は「阿波の画壇をたのしむ」、「ネコ展」を開催し、アンケート結果によれば、それぞれ95%、88%が県内在住者であった。新型コロナウイルス感染症が収束していなかったこともあるが、概して徳島の地域的な歴史・文化に関する展示の観覧は地元在住者が多い傾向にある。また、ネコ展は、愛好家を中心に集客力があり、関東、近畿、中四国からの来館があった。
- ・各種団体からの依頼により入館料の減免を行っている。4年度は23件であった。

(8-3) 県民参画の仕組みづくり、博物館運営支援組織のあり方等の検討

- ・公募ボランティアと職員の協働を継続し、文化の森秋祭り、文化の森ウィンターフェスティバルでイベントを実施した。
- ・県民参画のあり方については、活動領域を含めて見直し、組織的な位置づけを明確にするとともに、運営基盤の強化につながるよう検討する必要がある。

(8-4) 設置者による理解および外部資金の獲得

- ・外部資金は、日本学術振興会科学研究費補助金等公的な研究助成や民間の研究助成を計3件申請し、新規採択3件、継続1件であった。
- ・2年度、徳島県が策定し、国から認定された「徳島県文化観光推進地域計画」に中核的な文化観光拠点として位置づけられたことから、「博物館誘客強化事業」において文化庁文化芸術振興費補助金を活用した。

(8-5) 防災意識の向上と危機管理体制の強化

- ・3年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止について、県全体の動向を踏まえつつ文化の森6館で連

78 中期活動目標と自己評価

携しながら、取り組みを進めた。

- ・自衛消防隊の防災訓練を3月に行った。
- ・様々な災害や非常事態に対応できるよう、県の施策と連動しながら、職員各人の防災意識の喚起と危機管理体制の強化に努めたい。

(8-6) 職員の意識改革と資質向上

- ・4年度は、各種研修会6件（徳島県博物館協議会関係以外）に職員延べ13人が参加した（オンラインを含む）。

(8-7) 博物館評価システムの構築

- ・元年9月に策定した第4期中期活動目標にもとづいて、3年度事業の自己評価を行った。その内容は、年報やホームページに掲載した。また、博物館協議会において討議いただいた（外部評価）。

X 観覧者等統計

減免範囲の変更などにより、無料観覧者数の変動が生じているので、開館以来一貫した基準での統計にはなっていない。経年的な観覧者数の推移を見る場合、注意が必要である。

●令和4年度 常設展観覧者数

(単位：人)

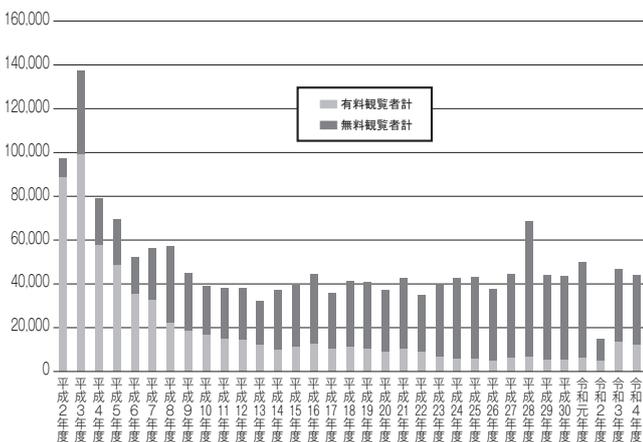
月	開館日数	有 料 観 覧 者							無 料 観 覧 者																観覧者総数	
		個 人			団 体 (割引20%)				学 校 教 育								個 人						無料観覧者計			
		一般	高校・大学生	小・中学生	一般	高校・大学生	小・中学生	有料観覧者計	幼稚園・保育園		小学校		中学校		高校		計		小学生	中学生	高校生	障がい者		高齢者		その他
									園数	人数	校	人数	校	人数	校	人数	校	人数					校			
4月	26	474	9	3	501	2	8	997	0	0	0	0	0	0	0	0	0	374	30	22	100	289	863	1,678	2,675	
5月	26	492	20	5	383	2	3	905	2	36	11	699	1	32	1	24	15	791	593	69	41	93	353	1,962	3,902	4,807
6月	26	483	15	10	356	4	2	870	1	23	6	158	0	0	0	0	7	181	238	26	10	83	163	544	1,245	2,115
7月	27	795	19	3	829	36	6	1,688	2	104	4	47	1	20	0	0	7	171	775	75	26	134	421	1,309	2,911	4,599
8月	27	1,214	50	0	1,162	4	0	2,430	1	9	11	170	0	0	0	0	12	179	1,339	126	49	121	445	1,837	4,096	6,526
9月	25	440	24	3	446	5	3	921	0	0	3	114	0	0	0	0	3	114	293	26	17	40	248	809	1,547	2,468
10月	26	383	28	6	486	4	4	911	5	190	18	939	0	0	0	0	23	1,129	325	30	24	73	210	788	2,579	3,490
11月	26	83	6	0	75	1	0	165	4	205	21	1,291	3	195	0	0	28	1,691	635	39	36	41	377	2,648	5,467	5,632
12月	24	219	9	1	234	13	0	476	4	83	2	32	1	16	0	0	7	131	171	12	15	43	147	299	818	1,294
1月	23	343	10	1	352	7	1	714	1	68	1	9	1	19	0	0	3	96	258	18	29	82	214	619	1,316	2,030
2月	24	305	9	4	287	4	9	618	5	152	7	381	2	39	0	0	14	572	553	32	9	95	301	2,467	4,029	4,647
3月	27	336	27	11	387	9	5	775	6	156	4	199	0	0	1	5	11	360	251	35	10	97	230	749	1,732	2,507
計	307	5,567	226	47	5,498	91	41	11,470	31	1,026	88	4,039	9	321	2	29	130	5,415	5,805	518	288	1,002	3,398	14,894	31,320	42,790

●令和4年度 企画展観覧者数

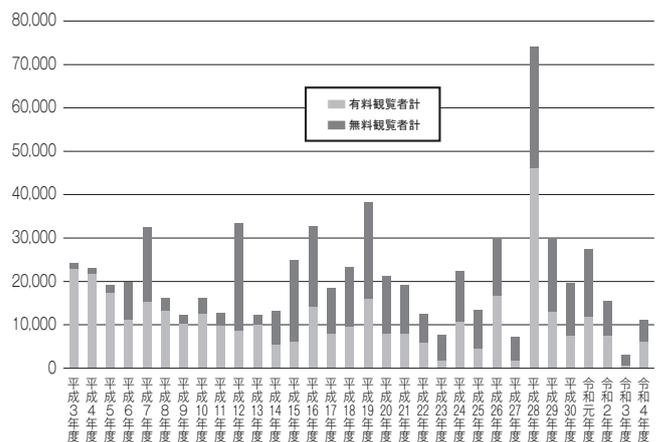
(単位：人)

企画展名	開催期間	開催日数	有 料 観 覧 者							無 料 観 覧 者																観覧者総数	
			個 人			団 体 (割引20%)				減免 (割引50%)	有料観覧者計	学 校 教 育								個 人							無料観覧者計
			一般	高校・大学生	小・中学生	一般	高校・大学生	小・中学生	高齢者			幼稚園・保育園		小学校		中学校		高校		計		小学生	中学生	高校生	障がい者		
										園数	人数	校	人数	校	人数	校	人数	校	人数	校	人数						
第1回企画展「阿波の画壇をたのしむー近世の画人と作品ー」	R4.4.22 R4.5.29	34	206	13	1	72	0	0	283	575	0	0	8	555	1	32	1	24	10	611	160	14	9	70	538	1,402	1,977
第2回企画展「ネコ展」	R4.7.16 R4.8.28	39	3,032	106	0	1,434	32	0	613	5,217	2	83	13	181	0	3	0	0	15	264	1,820	222	132	347	1,287	4,072	9,289
合 計		73	3,238	119	1	1,506	32	0	896	5,792	2	83	21	736	1	32	1	24	25	875	1,980	236	141	417	1,825	5,474	11,266

●常設展観覧者数 (平成2～令和4年度)



企画展観覧者数 (平成3～令和4年度)



●常設展観覧者数累計（平成2～令和4年度）

（単位：人）

年 度	開 館 日 数	有 料 観 覧 者												無 料 観 覧 者											観 覧 者 総 数			
		個 人			団 体（割引20%）			減 免（割引50%）						有 料 観 覧 者 計	学 校 教 育					土・日・祝 休業期間	高 齢 者 障 が い 者	そ の 他	無 料 観 覧 者 計					
		一 般	高 校 大 学 生	小 ・ 中 生	一 般	高 校 大 学 生	小 ・ 中 生	大 人			高 校 大 学 生	小 ・ 中 生	学 園 生		人 数	校 数	人 数	校 数	人 数					校 数				
								高 齢 者	障 が い 者	計																		
2	118	49,512	4,218	16,163	6,686	76	1,603	9,788	571	10,359	57	48	88,722	-	-	55	4,877	6	640	12	1,972	73	7,489	-	-	1,066	8,555	97,277
3	301	55,578	4,749	20,287	6,876	271	1,421	9,319	709	10,028	19	53	99,282	-	-	202	26,165	44	6,960	21	2,443	267	35,568	-	-	2,267	37,835	137,117
4	299	33,150	3,318	12,505	3,285	194	420	4,482	446	4,928	48	13	57,861	-	-	114	10,781	23	3,709	14	3,305	151	17,795	1,401	-	2,076	21,272	79,133
5	300	28,762	2,413	10,974	2,629	251	364	3,306	239	3,545	2	3	48,943	5	293	118	12,204	22	2,939	6	832	151	16,268	1,398	-	2,871	20,537	69,480
6	299	20,640	1,712	8,149	1,807	159	330	2,399	150	2,549	5	18	35,369	38	2,547	90	7,980	22	3,246	9	730	159	14,503	1,195	-	1,080	16,778	52,147
7	300	19,950	1,353	7,556	867	220	217	2,639	243	2,882	3	0	33,048	27	1,542	99	8,641	20	3,311	4	253	150	13,747	2,085	-	7,493	23,325	56,373
8	305	13,294	922	5,326	891	44	96	1,699	144	1,843	3	15	22,434	30	1,788	81	8,114	18	2,780	7	776	136	13,458	1,390	-	19,839	34,687	57,121
9	306	11,115	791	3,957	706	149	53	1,563	219	1,782	17	3	18,573	24	1,261	80	6,059	21	2,994	7	746	132	11,060	829	-	14,258	26,147	44,720
10	307	10,039	700	4,008	446	28	93	1,129	135	1,264	1	11	16,590	16	990	52	3,823	8	988	5	954	81	6,755	1,337	-	14,209	22,301	38,891
11	307	8,778	642	3,595	390	148	89	1,027	179	1,206	1	21	14,870	25	913	62	4,323	12	1,472	7	583	106	7,291	1,881	-	13,846	23,018	37,888
12	306	8,653	484	3,351	456	153	132	1,371	241	1,612	1	10	14,852	33	1,270	58	3,654	11	1,905	6	546	108	7,375	2,161	-	13,744	23,280	38,132
13	306	6,950	418	2,810	608	3	56	1,217	132	1,349	3	8	12,205	20	920	58	2,771	14	1,409	6	441	98	5,541	2,275	-	12,017	19,833	32,038
14	306	7,661	372	130	381	68	89	1,126	206	1,332	1	0	10,034	25	1,158	42	3,382	8	1,006	6	630	81	6,176	11,373	-	9,766	27,315	37,349
15	307	8,724	363	111	380	117	2	1,490	125	1,615	1	0	11,313	27	1,365	55	4,105	5	447	6	571	93	6,488	11,732	-	10,264	28,484	39,797
16	305	9,769	393	114	608	63	1	1,803	208	2,011	1	4	12,964	38	1,393	73	4,063	13	730	8	282	132	6,468	13,532	-	11,705	31,705	44,669
17	306	7,570	281	73	356	95	2	1,616	271	1,887	0	1	10,265	32	1,240	52	3,440	11	789	2	314	97	5,783	10,432	-	9,157	25,372	35,637
18	307	8,917	413	46	566	5	0	1,451	176	1,627	0	1	11,575	39	1,579	61	4,472	12	605	5	511	117	7,167	11,252	-	11,481	29,900	41,475
19	308	7,631	351	78	504	13	2	1,480	230	1,710	3	0	10,312	34	1,453	62	4,056	8	609	3	257	107	6,375	10,448	-	13,497	30,320	40,632
20	306	6,785	386	54	474	37	0	1,122	177	1,299	0	2	9,037	33	1,364	56	3,241	6	543	2	54	97	5,202	10,352	-	12,580	28,134	37,171
21	307	7,608	357	71	661	38	1	1,330	325	1,655	1	2	10,394	33	1,397	69	4,892	15	828	5	454	122	7,571	11,042	-	13,422	32,035	42,429
22	306	6,631	307	53	634	40	4	1,308	265	1,573	2	0	9,244	31	1,420	54	3,596	10	512	6	280	101	5,808	8,795	-	11,207	25,810	35,054
23	309	4,552	218	79	784	71	4	766	316	1,082	6	7	6,803	30	1,471	62	3,548	10	751	5	503	107	6,273	9,043	-	17,412	32,728	39,531
24	308	4,675	184	52	598	0	1	254	44	298	0	0	5,808	34	1,783	53	3,641	5	154	5	403	97	5,981	9,602	2,706	18,448	36,737	42,545
25	307	5,148	195	55	585	32	8	-	-	-	-	-	6,023	28	1,332	52	3,017	3	218	3	194	86	4,761	10,356	2,875	19,140	37,132	43,155
26	306	3,884	237	38	844	157	4	-	-	-	-	-	5,164	24	1,273	56	3,212	6	220	7	406	93	5,111	8,277	3,343	16,650	32,781	37,945
27	292	4,200	197	47	1,721	84	19	-	-	-	-	-	6,268	19	1,137	56	3,115	0	0	1	37	76	4,289	8,774	4,860	20,235	38,158	44,426
28	308	4,809	178	45	1,753	19	12	-	-	-	-	-	6,816	26	937	58	2,852	3	91	1	25	88	3,905	15,409	6,112	36,211	61,637	68,453
29	308	3,673	177	49	1,653	112	3	-	-	-	-	-	5,667	32	1,274	63	3,102	3	189	7	299	105	4,864	9,204	4,498	19,915	38,481	44,148
30	308	3,636	164	45	1,785	48	12	-	-	-	-	-	5,690	41	1,519	77	3,364	3	138	2	20	123	5,041	7,818	4,778	20,184	37,821	43,511
元	307	4,098	131	56	1,896	140	21	-	-	-	-	-	6,342	22	1,095	107	4,311	0	0	5	77	134	5,483	8,950	5,128	23,897	43,458	49,800
2	116	3,178	109	98	1,579	13	30	-	-	-	-	-	5,007	3	110	5	60	1	3	1	19	10	192	2,752	1,231	5,050	9,225	14,232
3	195	8,619	260	72	4,902	79	30	-	-	-	-	-	13,962	18	705	90	3,792	5	134	2	13	115	4,644	7,044	3,894	15,309	30,891	44,853
4	307	5,567	226	47	5,498	91	41	-	-	-	-	-	11,470	31	1,026	88	4,039	9	321	2	29	130	5,415	6,611	4,400	14,894	31,320	42,790
計	9,583	393,776	27,219	100,094	53,809	3,018	5,160	53,685	5,751	59,436	175	220	642,907	818	37,555	2,360	172,692	357	40,641	188	18,959	3,723	269,847	218,750	43,825	434,590	967,012	1,609,919

※平成24年9月より、高齢者（65歳以上）及び障がい者は無料。

●企画展観覧者数累計（平成3～令和4年度）

（単位：人）

年 度	名 称	開 館 日 数	有 料 観 覧 者												無 料 観 覧 者					観 覧 者 総 数							
			個 人			団 体（割引20%）			減 免（割引50%）						有 料 観 覧 者 計	一 般	高 校 大 学 生	小 ・ 中 生	そ の 他		無 料 観 覧 者 計						
			一 般	高 校 大 学 生	小 ・ 中 生	一 般	高 校 大 学 生	小 ・ 中 生	大 人			高 校 大 学 生	小 ・ 中 生	学 園 生								人 数	校 数	人 数	校 数	人 数	校 数
									高 齢 者	障 が い 者	計																
3 (1991)	里帰り文化財名品展	H3.4.5 ~ H3.5.5	27	5,474	286	787	58	30	0	1,497	22	1,519	20	0	8,174	-	-	-	513	513	8,687						
	和泉層群の化石	H3.7.21 ~ H3.9.1	37	4,755	547	2,594	62	0	161	259	15	274	0	2	8,395	-	-	-	259	259	8,654						
	人形芝居がやってきた	H3.10.11 ~ H3.11.10	27	1,381	35	138	246	0	500	323	7	330	0	0	2,630	-	-	-	217	217	2,847						
	阿波の刀剣	H4.2.18 ~ H4.3.22	29	2,723	210	277	38	0	0	462	40	502	0	0	3,750	-	-	-	299	299	4,049						
平成3年度小計		120	14,333	1,078	3,796	404	30	661	2,541	84	2,625	20	2	22,949	-	-	-	1,288	1,288	24,237							
4 (1992)	四国の古墳	H4.4.24 ~ H4.5.24	26	2,566	256	745	169	55	31	473	21	494	0	0	4,316	-	-	-	387	387	4,703						
	甲虫の世界	H4.7.21 ~ H4.8.30	36	8,404	603	6,032	163	0	116	264	20	284	0	5													

9 (1997)	阿波の近世絵画	H9.4.22 ~ H9.5.18	24	1,214	52	38	4	0	267	445	7	452	0	0	2,027	-	-	-	379	379	2,406
	吉野川の自然	H9.7.18 ~ H9.8.31	39	2,612	233	914	0	0	0	448	27	475	0	1	4,235	-	-	-	938	938	5,173
	ネアンデルタール人の復活	H9.9.20 ~ H9.10.26	32	2,196	187	573	43	13	553	369	19	388	4	0	3,957	-	-	-	664	664	4,621
	平成 9 年度小計		95	6,022	472	1,525	47	13	820	1,262	53	1,315	4	1	10,219	-	-	-	1,981	1,981	12,200
10 (1998)	海はむすぶ	H10.4.21 ~ H10.5.24	30	937	43	157	3	3	24	184	17	201	0	0	1,368	-	-	-	465	465	1,833
	チョウトガ	H10.7.18 ~ H10.8.30	38	4,456	183	3,349	38	0	141	249	37	286	0	9	8,462	-	-	-	2,427	2,427	10,889
	瀬戸内海のおいたち	H10.10.10 ~ H10.11.23	39	971	40	260	12	0	1,202	227	17	244	0	6	2,735	-	-	-	584	584	3,319
	平成 10 年度小計		107	6,364	266	3,766	53	3	1,367	660	71	731	0	15	12,565	-	-	-	3,476	3,476	16,041
11 (1999)	大名行列	H11.4.20 ~ H11.5.23	30	1,752	74	298	0	7	725	442	26	468	0	1	3,325	-	-	-	426	426	3,751
	伊能忠敬が描いた日本	H11.9.10 ~ H11.10.11	28	2,189	267	461	3	22	133	475	22	497	0	5	3,577	-	-	-	659	659	4,236
	新発見考古速報展 発掘された日本列島 '99	H11.10.24 ~ H11.11.21	25	1,861	128	297	111	49	46	532	38	570	0	1	3,063	-	-	-	1,688	1,688	4,751
	平成 11 年度小計		83	5,802	469	1,056	114	78	904	1,449	86	1,535	0	7	9,965	-	-	-	2,773	2,773	12,738
12 (2000)	藍のよそおい	H12.4.18 ~ H12.5.21	30	1,851	96	52	9	0	0	626	22	648	0	0	2,656	-	-	-	383	383	3,039
	さよなら 20 世紀—カメラがとらえた日本の 100 年	H12.6.1 ~ H12.7.9	34	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6,745	6,745	6,745
	役人者たち	H12.7.18 ~ H12.9.10	48	3,374	240	2,134	21	0	79	288	36	324	0	6	6,178	-	-	-	1,669	1,669	7,847
	世紀末大博覧会	H12.10.20 ~ H12.11.26	33	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9,888	741	5,155	-	15,784
平成 12 年度小計		145	5,225	336	2,186	30	0	79	914	58	972	0	6	8,834	9,888	741	5,155	8,797	24,581	33,415	
13 (2001)	クントゥル・ワシ神殿の発掘	H13.4.6 ~ H13.5.6	27	3,326	267	520	38	0	179	838	42	880	1	5	5,216	-	-	-	821	821	6,037
	門出のセレモニー	H13.7.17 ~ H13.8.26	36	889	65	89	55	0	0	224	6	230	1	0	1,329	-	-	-	489	489	1,818
	信仰と美術	H14.2.19 ~ H14.3.21	27	2,087	112	125	53	37	18	1,075	37	1,112	0	0	3,544	-	-	-	760	760	4,304
	平成 13 年度小計		90	6,302	444	734	146	37	197	2,137	85	2,222	2	5	10,089	-	-	-	2,070	2,070	12,159
14 (2002)	貝化石が語る海の記憶	H14.4.12 ~ H14.5.12	27	2,125	47	32	0	0	0	300	11	311	0	0	2,515	-	486	2,545	771	3,802	6,317
	海道をゆく	H14.7.20 ~ H14.9.1	39	1,108	51	0	6	0	0	210	11	221	0	0	1,386	-	55	1,051	702	1,808	3,194
	古代のわざ	H14.10.11 ~ H14.11.10	27	1,148	37	4	28	0	0	347	14	361	0	0	1,578	-	60	1,618	468	2,146	3,724
	平成 14 年度小計		93	4,381	135	36	34	0	0	857	36	893	0	0	5,479	-	601	5,214	1,941	7,756	13,235
15 (2003)	歴史を決めた戦い	H15.4.22 ~ H15.5.25	30	1,930	67	15	0	0	0	558	29	587	0	0	2,599	-	483	1,567	704	2,754	5,353
	アイヌ工芸品展	H15.7.19 ~ H15.8.31	38	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	317	2,455	7,657	10,429	10,429
	アンモナイトのすべて	H15.10.17 ~ H15.11.24	34	2,892	106	35	32	0	0	524	25	549	0	0	3,614	-	266	3,757	1,458	5,481	9,095
	平成 15 年度小計		102	4,822	173	50	32	0	0	1,082	54	1,136	0	0	6,213	-	1,066	7,779	9,819	18,664	24,877
16 (2004)	サマの世界	H16.4.24 ~ H16.5.30	32	6,328	182	67	36	33	0	521	51	572	0	1	7,219	-	182	6,622	2,681	9,485	16,704
	エビとカニ	H16.8.12 ~ H16.9.20	34	5,008	112	20	7	2	0	386	31	417	0	1	5,567	-	128	3,689	2,581	6,398	11,965
	石とくらし	H16.10.22 ~ H16.11.28	33	1,138	16	31	22	0	0	304	12	316	0	1	1,524	-	55	1,795	767	2,617	4,141
	平成 16 年度小計		99	12,474	310	118	65	35	0	1,211	94	1,305	0	3	14,310	-	365	12,106	6,029	18,500	32,810
17 (2005)	縄文の美	H17.4.26 ~ H17.5.29	30	2,254	100	20	3	12	0	619	26	645	0	0	3,034	-	187	2,388	650	3,225	6,259
	絶滅	H17.7.22 ~ H17.8.31	36	3,482	157	0	9	0	0	355	27	382	0	0	4,030	-	227	3,355	1,528	5,110	9,140
	ふるさと再発見	H17.10.22 ~ H17.11.27	32	595	14	6	0	0	0	411	10	421	0	0	1,936	-	29	1,451	529	2,009	3,045
	平成 17 年度小計		98	6,331	271	26	12	12	0	1,385	63	1,448	0	0	8,100	-	443	7,194	2,707	10,344	18,444
18 (2006)	奇跡の化石たち	H18.4.28 ~ H18.6.18	45	3,900	113	32	106	0	0	538	41	579	0	0	4,730	-	273	5,189	1,640	7,102	11,832
	世界の種と実	H18.7.22 ~ H18.8.31	36	3,076	122	0	4	0	0	373	71	444	0	0	3,646	-	142	3,187	1,114	4,443	8,089
	海人の見た世界	H18.10.7 ~ H18.11.26	44	789	13	2	30	0	0	334	24	358	0	0	1,192	-	74	1,535	563	2,172	3,364
	平成 18 年度小計		125	7,765	248	34	140	0	0	1,245	136	1,381	0	0	9,568	-	489	9,911	3,317	13,717	23,285
19 (2007)	ミネラルズ	H19.4.27 ~ H19.6.3	33	3,245	119	34	193	3	1	408	65	473	0	0	4,068	-	371	4,307	1,117	5,795	9,863
	世界の甲虫	H19.7.21 ~ H19.9.24	58	9,043	143	7	182	1	0	768	193	961	0	0	10,337	-	200	8,156	5,451	13,807	24,144
	新発見考古速報展 発掘された日本列島 2007	H19.11.13 ~ H19.12.9	24	890	24	19	77	0	1	457	63	520	0	0	1,531	-	35	974	1,716	2,725	4,256
	平成 19 年度小計		115	13,178	286	60	452	4	2	1,633	321	1,954	0	0	15,936	-	606	13,437	8,284	22,327	38,263
20 (2008)	郷土の発見	H20.4.26 ~ H20.5.25	26	292	35	0	3	0	0	149	9	158	0	0	488	-	28	1,217	1,172	2,417	2,905
	動物大集合	H20.7.19 ~ H20.8.31	38	4,454	106	0	119	1	0	441	120	561	0	0	5,241	-	196	4,249	2,966	7,411	12,652
	香りの世界	H20.10.18 ~ H20.11.24	33	1,630	68	6	63	1	0	436	46	482	3	0	2,253	-	132	2,161	1,104	3,327	5,650
	平成 20 年度小計		97	6,376	209	6	185	2	0	1,026	175	1,201	3	0	7,982	-	356	7,627	5,242	13,295	21,207
21 (2009)	シーラカンス	H21.4.25 ~ H21.6.14	44	5,212	202	46	202	1	1	628	139	767	1	1	6,433	-	528	6,498	2,017	9,043	15,476
	生誕 200 年 守住貫魚	H21.10.17 ~ H21.11.23	33	755	16	3	32	0	0	635	43	678	0	1	1,485	-	23	1,191	982	2,196	3,681
	平成 21 年度小計		77	5,967	218	49	234	1	1	1,263	182	1,445	1	2	7,918	-	551	7,689	2,999	11,239	19,157
	ヒマラヤ	H22.4.29 ~ H22.6.6	34	1,927	40	9	93	0	0	916	50	966	0	0	3,035	-	143	2,112	619	2,874	5,909
22 (2010)	藍染めの表象	H22.10.5 ~ H22.11.11	30	709	52	1	23	0	0	429	35	464	0	0	1,249	-	103	1,467	718	2,288	3,537
	聖地★巡礼	H22.3.11 ~ H22.3.21	34	960	50	6	22	0	0	426	49	475	0	0	1,513	-	21	394	1,091	1,506	3,019
	平成 22 年度小計		98	3,596	142	16	138	0	0	1,771	134	1,905	0	0	5,797	-	267	3,973	2,428	6,668	12,465
	人形☆ひとがた	H23.4.23 ~ H23.6.5	38	488	43	0	28	0	0	249	140	389	1	1	950	-	327	2,394	777	3,498	4,448
23 (2011)	描かれた地震	H23.10.21 ~ H23.11.27	33	500	45	5	31	0	0	274	24	298	0	0	879	-	56	1,687	689	2,432	3,311
	平成 23 年度小計		71	988	88	5	59	0	0	523	164	687	1	1	1,829	-	383	4,081	1,466	5,930	7,759
	はねはねワールド	H24.7.20 ~ H24.9.2	39	6,710	187	0	209	2	0	668	137	805	2	0	7,915						

82 観覧者等統計

27 (2015)	瓦から見る古代の阿波	H27.4.24 ~ H27.6.7	39	458	18	3	112	2	0	355	-	355	-	-	948	-	34	1,977	1,259	3,270	4,218
	阿波木偶箱まわしの世界	H27.10.31 ~ H27.11.29	26	240	21	0	114	2	5	472	-	472	-	-	854	-	64	660	1,390	2,114	2,988
	平成 27 年度小計		65	698	39	3	226	4	5	827	-	827	-	-	1,802	-	98	2,637	2,649	5,384	7,186
28 (2016)	自然だいすき！みんなの自然コレクション	H28.4.20 ~ H28.6.12	47	1,769	35	18	640	6	5	327	-	327	-	-	2,800	-	55	3,645	2,856	6,556	9,356
	トクシマ恐竜展	H28.7.15 ~ H28.9.19	59	27,273	251	11,848	35	1	86	3,155	-	3,155	-	-	42,651	-	-	-	19,625	19,625	62,276
	徳島藩絵師のすがお	H28.10.22 ~ H28.11.20	26	233	11	0	62	0	0	331	-	331	-	-	637	-	10	744	1,053	1,807	2,444
平成 28 年度小計		132	29,277	297	11,866	737	7	91	3,813	-	3,813	-	-	46,088	-	65	4,389	23,534	27,988	74,076	
29 (2017)	ザ・モンスター～海と陸のへんでこ生物たち～	H29.7.22 ~ H29.9.10	45	7,391	115	9	2,766	23	1	1,512	-	1,512	-	-	11,817	-	207	7,320	6,642	14,169	25,986
	江戸幕府と徳島藩～幕藩制改革からみる江戸時代～	H29.10.14 ~ H29.11.19	32	466	13	13	181	2	1	622	-	622	-	-	1,298	-	213	1,304	1,280	2,797	4,095
	平成 29 年度小計		77	7,857	128	22	2,947	25	2	2,134	-	2,134	-	-	13,115	-	420	8,624	7,922	16,966	30,081
30 (2018)	「阿波漁民ものがたり～海を渡り歩いた漁師たちの5つの話～」	H30.4.27 ~ H30.6.10	39	364	22	0	311	0	0	451	-	451	-	-	1,148	-	0	1,455	1,725	3,180	4,328
	ジャングルいきもの図鑑	H30.7.20 ~ H30.9.9	52	3,589	42	0	1,816	10	0	885	-	885	-	-	6,342	-	0	172	8,824	8,996	15,338
	平成 30 年度小計		91	3,953	64	0	2,127	10	0	1,336	-	1,336	-	-	7,490	-	0	1,627	10,549	12,176	19,666
元 (2019)	ミネラルズ 2019	H31.4.27 ~ R1.6.2	36	2,048	69	23	1,006	14	0	649	-	649	-	-	3,809	-	0	1,523	3,408	4,931	8,740
	とくしまの恐竜時代	R1.7.19 ~ R1.9.8	45	4,424	38	4	2,222	10	0	1,290	-	1,290	-	-	7,988	-	171	508	10,043	10,722	18,710
	令和元年度小計		81	6,472	107	27	3,228	24	0	1,939	-	1,939	-	-	11,797	-	171	2,031	13,451	15,653	27,450
2 (2020)	蔵出し！とくしま「室もの」展	R2.5.9 ~ R2.6.14	32	187	13	21	122	2	1	154	-	154	-	-	500	-	15	170	506	690	1,190
	甲虫すごいぜい！	R2.7.11 ~ R2.8.30	44	4,028	41	6	2,176	12	4	642	-	642	-	-	6,909	-	80	3,345	4,469	7,894	14,803
	令和 2 年度小計		76	4,215	54	27	2,298	14	5	796	-	796	-	-	7,409	-	95	3,515	4,974	8,584	15,993
3 (2021)	徳島おふだコレクション～はらいたまえ きよめたまえ～	R3.10.15 ~ R3.11.21	33	245	13	4	124	5	2	219	-	219	-	-	612	-	14	2,207	698	2,919	3,531
	令和 3 年度小計		33	245	13	4	124	5	2	219	-	219	-	-	612	-	14	2,207	698	2,919	3,531
	阿波の園地をたのしむ～近世の園人と作品～	R4.4.22 ~ R4.5.29	34	206	13	1	72	0	0	283	-	283	-	-	575	-	33	761	608	1,402	1,977
4 (2022)	ネコ展	R4.7.16 ~ R4.8.28	39	3,032	106	0	1,434	32	0	613	-	613	-	-	5,217	-	132	2,223	1,717	4,072	9,289
	令和 4 年度小計		73	3,238	119	1	1,506	32	0	896	-	896	-	-	5,792	-	165	2,984	2,325	5,474	11,266
	総 計		3,011	234,075	10,615	44,865	17,437	491	7,030	46,185	2,166	43,936	68	57	362,989	24,802	8,809	137,536	153,924	325,071	688,060

※平成 14 年度から小・中学生及び高校生の土・日曜日、祝・休日、長期休業日における観覧料が無料となり、学校教育による観覧料も無料となった。これに伴い、無料観覧者の計数基準が変更されている。
 ※平成 24 年 9 月から障がい者とその介助者 1 人の観覧料が無料となった。

●総利用者数累計（平成 2 ～令和 4 年度）

（単位：人）

年度	常 設 展		常設展観覧者合計	企画展観覧者	特別陳列観覧者	移動展等	普及行事参加者	その他	利用者総数
	有料観覧者	無料観覧者							
2 年度	88,722	8,555	97,277	0	0	-	646	-	97,923
3 年度	99,282	37,835	137,117	24,237	0	-	1,387	-	162,741
4 年度	57,861	21,272	79,133	23,092	6,712	-	1,718	-	110,655
5 年度	48,943	20,537	69,480	19,175	4,090	-	1,686	-	94,431
6 年度	35,369	16,778	52,147	19,758	3,165	-	2,843	-	77,913
7 年度	33,048	23,325	56,373	32,545	5,358	-	4,132	-	98,408
8 年度	22,434	34,687	57,121	16,101	0	-	2,419	-	75,641
9 年度	18,573	26,147	44,720	12,200	0	-	2,232	-	59,152
10 年度	16,590	22,301	38,891	16,041	0	-	1,890	-	56,822
11 年度	14,870	23,018	37,888	12,738	22,372	-	2,461	-	75,459
12 年度	14,852	23,280	38,132	33,415	1,850	-	4,513	1,561	79,471
13 年度	12,205	19,833	32,038	12,159	5,766	-	3,634	2,137	55,734
14 年度	10,034	27,315	37,349	13,235	5,850	1,328	3,414	1,735	62,911
15 年度	11,313	28,484	39,797	24,877	10,015	-	4,501	2,628	81,818
16 年度	12,964	31,705	44,669	32,810	8,924	898	3,692	4,829	95,822
17 年度	10,265	25,372	35,637	18,444	7,323	7,419	5,944	4,629	79,396
18 年度	11,575	29,900	41,475	23,285	7,200	481	6,143	6,763	85,347
19 年度	10,312	30,320	40,632	38,263	5,168	5,381	5,140	75,854	170,438
20 年度	9,037	28,134	37,171	21,207	7,517	6,249	6,041	11,963	90,148
21 年度	10,394	32,035	42,429	19,157	24,781	1,614	8,535	35,260	131,776
22 年度	9,244	25,810	35,054	12,465	10,364	5,376	10,329	30,071	103,659
23 年度	6,803	32,728	39,531	7,759	15,336	1,663	6,594	9,979	80,862
24 年度	5,808	36,737	42,545	22,447	13,344	1,824	10,797	6,097	97,054
25 年度	6,023	37,132	43,155	13,552	10,008	742	13,089	4,629	85,175
26 年度	5,164	32,781	37,945	29,849	1,537	8,512	10,189	5,391	93,423
27 年度	6,268	38,158	44,426	7,186	12,963	2,506	9,212	17,579	93,872
28 年度	6,816	61,637	68,453	74,076	2,167	92,572	9,146	7,550	253,964
29 年度	5,667	38,481	44,148	30,081	19,687	0	8,206	15,924	118,046
30 年度	5,690	37,821	43,511	19,666	8,635	18,131	7,250	7,722	104,915
R 元年度	6,342	43,458	49,800	27,450	14,832	21,375	8,648	7,263	129,368
R2 年度	5,007	9,225	14,232	15,993	3,693	21,276	1,560	5,334	62,088
R3 年度	13,962	30,891	44,853	3,531	1,888	812	1,628	3,087	55,799
R4 年度	11,470	31,320	42,790	11,266	5,338	19,180	7,432	5,616	91,622
累 計	642,907	967,012	1,609,919	688,060	245,883	217,339	177,051	273,601	3,211,853

※特別陳列は自主事業のみの観覧者数。「その他」は、人権啓発展と共催事業を合わせた観覧者数。
 ※「その他」に、出前授業の人数を加算（平成 25 年度～）

●特別陳列観覧者数累計（平成4～令和4年度）（単位：人）

展示会名	開催期間	開催 日数	観覧者 総数
第1回館蔵品展	平 5. 2.16～ 3.21	29	6,712
掘ったでよ阿波	平 6. 2. 1～ 2.27	23	4,090
掘ったでよ阿波	平 7. 1.13～ 2. 5	21	3,165
第2回収蔵品展	平 8. 2.16～ 3.17	27	5,358
第3回館蔵品展「自然コレクション」	平11. 7.17～ 8.29	38	22,372
写生大会作品展	平12.12. 5～12.24	18	1,850
勝瑞時代－細川・三好氏と阿波－	平13.10.25～11.25	32	5,766
丹波マンガン鑛山の記録 －在日コリアンの労働史－	平14. 6.25～ 7. 7	12	1,195
楠コレクションの美術・歴史資料	平15. 1.21～ 3. 2	36	4,655
知里幸恵生誕100年記念巡回展 自由の天地を求めて －知里幸恵『アイヌ神謡曲集』への道－	平15. 7.19～ 7.27	8	1,317
日本刀の美－赤羽刀とその他の館蔵品－	平16. 1.27～ 3. 7	35	8,698
収蔵品展	平16. 6.18～ 7.19	28	5,703
ひまわり作品展	平16.12.17～12.19	3	3,221
トクシマ・木工芸の道具と技	平18. 1. 8～ 1.29	19	3,475
吉野川の渡し	平18. 2.18～ 3.19	26	3,848
旅と祈りの道－阿波の巡礼－	平19. 1.19～ 3.18	51	7,200
徳島城下町の世界	平20. 1.17～ 3. 2	40	5,168
空から見た徳島	平21. 1.27～ 3.15	42	7,517
蝶に魅せられて －愛好家たちのコレクション－	平21. 7.18～ 8.30	38	9,777
八万町の昔を探ろう	平21. 9.19～10. 4	14	1,886
マンダラ －チベット・ネパールの仏たち－	平21.12.12～平22.2.7	44	13,118

海を渡った人形と戦争の時代	平22. 7.17～ 9. 5	44	10,364
博物館の宝もの	平23. 7.15～ 9. 4	46	15,336
海からどんぶらこ－浜辺の漂着物－	平24. 4.27～ 6.10	39	12,642
阿波盆踊図屏風	平24. 9.25～10. 3	8	702
みんなの化石コレクション	平25.10.18～12. 1	39	10,008
国立公文書館所蔵資料展	平26. 3. 7～ 3.19	11	1,537
シュルズ	平27. 7.18～ 8.30	38	12,963
古代の彩り 徳島の朱	平28.12. 3～12.25	20	2,167
日本のアザラシと極地の動物たち	平29. 4.15～ 6.11	50	16,800
よみがえる、ふるさとの“たからもの” －大津波被災文化財の再生から未来へ－	平29.12.16～平30.1.21	26	2,887
県指定有形文化財 青蓮院十一面観音菩薩立像	平30. 9.21～ 9.30	9	2,664
ごっついで那賀川 －博物館資料で見る那賀川流域の自然 とくらし－	平30.10.13～11.18	37	5,971
ヒロシマ原爆展	令元. 7.10～ 7.30	18	5,731
博物館60周年記念展 とくしまタイムトラベル－過去・現在・未来－	令元.10. 5～11.10	31	6,364
「板東俘虜収容所」の世界展	令元.12.12～令2.1.19	28	2,498
八杵神社所蔵重要文化財 二品家政所下文－地域で伝えた文化財－	令 2. 3.26～ 4. 5	10	444
徳島まるづかみ展 第1期	令 2.11. 3～12. 3	27	3,488
徳島まるづかみ展 －コミュニケーションで展示を楽しもう！	令 3 4.23～ 5.30	26	1,888
阿波の旅人	令 4.10.15～11.27	38	5,338
合 計		1,129	245,883

●移動展観覧者数（平成14～令和4年度）（単位：人）

展示会名	開催期間	開催 日数	観覧 者数
昆虫の世界（海陽町立博物館）	平14.10.26～11.24	26	1,328
日本画書展－江戸から昭和まで－（藍住町 歴史館藍の館）	平16.12. 2～12.27	26	898
戦争体験（藍住町立図書館）	平17. 8. 3～ 8.18	14	2,342
昆虫展（藍住町立図書館）	平17. 8.19～ 9.11	21	3,210
北アメリカの植物（松茂町立歴史民俗資料館）	平18. 2. 4～ 3. 5	26	1,867
海陽町の指定植物・北アメリカの植物（海 陽町立博物館）	平18. 7.22～ 8.27	32	481
牟岐大島の考古資料（牟岐町海の総合文 化センター）	平19. 4.26～ 5.15	20	353
阿波の板碑（阿南市立阿波公方・民俗資 料館）	平19. 6. 5～ 7.22	42	197
中世阿波の板碑（藍の館）	平19. 8. 2～ 8.27	24	4,540
くらしの中の藍染め（東かがわ市歴史民 俗資料館）	平19.10.20～11.18	26	291
丹波恐竜フェスティバル（兵庫県立人と自 然の博物館）	平20. 5. 3～ 5. 5	3	4,339
和泉層群の化石（東かがわ市歴史民俗資 料館）	平20. 7.19～ 8.31	38	523
海陽郡の古代・中世（日和佐図書・資料館）	平20. 7.19～ 9. 7	44	431
那賀川平野の貝化石（阿南市立阿波公方・ 民俗資料館）	平20. 9.25～11. 9	41	956
達磨絵百態 横山天然の世界（藍の館）	平21. 4. 4～ 4.29	22	250
知らせる道具・広告（東かがわ市歴史民 俗資料館）	平21. 7.18～ 8.31	39	425
浜辺の植物（海陽町立博物館）	平21. 7.25～ 8.30	32	401
国会議事堂の石（阿南市立阿波公方・民 俗資料館）	平21. 9.25～11. 5	36	318
世界の昆虫（吉野川市美郷ほたる館）	平21.11.21～平22.1.25	52	220
「ジオプラザ阿南」那賀川流域と県南部 地域の化石展～化石が教えてくれるもの ～」（阿南市科学センター）	平22. 7.17～ 8.15	26	1,431
「旅をするチョウ・アサギマダラと県南 のトンボ展」（日和佐図書・資料館）	平22. 7.21～ 9. 5	41	820
巡回展「海を渡った人形と平和の願い」 ①（貞光ゆうゆう館）	平22. 9.18～ 9.20	3	1,467
巡回展「海を渡った人形と平和の願い」 ②（海陽町立博物館）	平22. 9.23～10. 3	10	360
巡回展「海を渡った人形と平和の願い」 ③（松茂町歴史民俗資料館・人形浄瑠璃 芝居資料館）	平22.10. 9～10.17	8	1,242

空から見た徳島（日和佐図書資料館）	平23. 7.22～ 9.11	44	1,663
阿波の遠洋漁業（日和佐図書資料館）	平24. 9. 6～ 9.30	19	439
生物多様性大博覧会「徳島県の自然史」 （郷土文化会館）	平25. 1.26・27	2	1,385
立体写真でみる38年前の海陽郡の海辺 （日和佐図書資料館）	平25. 7. 5～ 7.31	22	493
九州・五島行き－以西底曳き網漁業－（美 波町由岐公民館）	平25.10.25～11. 4	11	249
ミニ・アンモナイト展（アミコ）	平26. 4.15～ 5.13	28	8,512
空から見た徳島（佐那河内ネイチャーセン ター）	平27. 7. 1～ 9.30	78	1,366
漂着物展（海陽町立博物館）	平27.10. 3～10.18	14	640
朱を考古学する（阿南市文化会館）	平27.12. 6～平28. 1.6	26	500
「シカとカモシカ」パネル展（那賀町四季美 谷温泉）	平28. 4.18～10. 9	175	8,012
移動展「阿波の道を歩く芭蕉をめざした 男・酒井弥蔵×現代アーティスト・大久 保英治」展（つるぎ町織本屋）	平28.10. 1～10.31	30	320
移動展「阿波の道を歩く芭蕉をめざした 男・酒井弥蔵 ×現代アーティスト・大久 保英治」展（鳴門市立図書館）	平28.11. 5～11.30	23	4,052
移動展「阿波の道を歩く芭蕉をめざした 男・酒井弥蔵 ×現代アーティスト・大久 保英治」展（海陽町立博物館）	平28.12.10～平29.1.22	33	282
移動展：県障害者の集い（徳島市あわぎん ホール）	平28.11.27	1	15
阿南市ミニ展示会「阿南市の赤色顔料採 掘遺跡」	平29. 1.14～2.26	35	320
「戦中・戦後の暮らし」（徳島県戦没者記 念館）	平30. 7.16～8.15	21	1,463
かつうらの恐竜時代（勝浦町立図書館）	令元. 9.14～9.23	10	288
あわぎん恐竜時代展（阿波銀プラザ）	令 2. 1.10～1.29	20	6,263
勝浦恐竜月間「恐竜化石展」（勝浦町立 図書館）	令 2 8. 1～8.30	26	1,132
徳島まるづかみ展・県西編（美馬市立図 書館）	令 2.12.18～令3.1.18	22	5,269
徳島まるづかみ展・県南編（海陽町立図 書館）	令 3 2. 9～3.14	30	574
移動展「漂着物展」（美馬市立図書館）	令 4. 7.22～8.31	38	9,505
移動展「鳥居龍藏の見た120年前の木頭」 （木頭文化会館）	令 4 8. 6～9.10	35	87
移動展「ビーチコーミングDE松茂の SeaをSeeろう」（松茂町歴史民俗資料館）	令 4.10.12～12.3	44	1,893
合 計		1,439	83,412

84 観覧者等統計

●人権啓発等観覧者数(平成4～令和4年度) (単位:人)

展示会名	開催期間	開催日数	観覧者数
2000年度同和問題啓発展	平12.8.26～9.8	12	1,561
2001年度同和問題啓発展	平13.8.4～8.12	8	1,290
〃第2回	平13.12.4～12.9	6	847
2002年度同和問題啓発展	平14.7.27～8.4	8	1,066
〃第2回	平14.12.3～12.8	6	669
2003年度人権問題啓発展	平15.8.2～8.10	8	1,414
〃第2回	平15.12.2～12.7	6	911
2004年度人権問題啓発展	平16.8.7～8.15	8	1,568
〃第2回	平16.12.7～12.12	6	753
2005年度人権問題啓発展	平17.8.6～8.14	8	1,594
〃第2回	平17.12.6～12.11	6	656
2006年度人権問題啓発展	平18.8.5～8.13	8	1,532
〃第2回	平18.12.5～12.10	6	589
2007年度人権問題啓発展	平19.12.4～12.9	6	589
2008年度人権問題啓発展	平20.12.2～12.7	6	599
2009年度人権問題啓発展	平21.12.1～12.6	6	430
2010年度人権問題啓発展	平22.11.30～12.5	6	670
2011年度人権問題啓発展	平23.12.6～12.11	6	383
2012年度人権問題啓発展	平24.12.4～12.9	6	356
2013年度人権問題啓発展	平25.12.4～12.10	6	341
2014年度人権問題啓発展	平26.12.10～12.16	6	315
2015年度人権問題啓発展	平27.12.9～12.15	6	270
2016年度人権問題啓発展	平28.12.9～12.15	6	244
2017年度人権問題啓発展	平29.12.6～12.12	6	227
2018年度人権問題啓発展	平30.12.5～12.11	6	382
2019年度人権問題啓発展	令元.12.4～12.10	6	278
2020年度人権問題啓発展	令2.12.9～12.15	6	447
2021年度人権問題啓発展	令3.12.8～12.14	6	305
2022年度人権問題啓発展	令4.12.7～12.13	6	262
合計		192	20,548

●館内各種展示観覧者数(平成28～令和4年度) (単位:人)

展示会名	開催期間	開催日数	観覧者数
連携展示「阿波の道を歩く芭蕉をめざした男・酒井弥蔵×現代アーティスト・大久保英治」展	平28.7.20～8.28	36	56,984
ロビー展示「植物化石」	平28.9.1～平29.2.2	128	19,364
ロビー展示「植物標本」	平29.12.5～平30.3.31	75	5,906
ロビー展示「博物館の催し物」	平30.4.1～7.4	82	7,597
ロビー展示「写真で見る地層」	平30.10.25～平31.2.22	98	9,071
ロビー展示「写真で見る徳島の遺跡①」	令元.5.8～9.3	102	13,231
ロビー展示「写真で見る徳島の遺跡②」	令2.2.27～(3.31)	29	1,593
ロビー展示「写真で見る徳島の遺跡③」	令2.4.1～10.4	146	10,850
ロビー展示「草木染め」	令2.10.6～11.1	24	1,297
ロビー展示「馬型はにわ」	令2.10.20～11.22	30	1,791
ロビー展示「徳島まるづかみ展・県央編第2期」	令2.12.1～(令3.31)	98	3,797
ロビー展示「鳥居龍蔵が見た120年前の木頭」	令4.11.15～令5.1.9	43	3,042
合計		913	135,335

●その他(啓発展を除く共催事業)観覧・参加者数(平成15～令和4年度) (単位:人)

展示会名	開催期間	開催日数	観覧者数
21世紀館との共催事業(アイヌ工芸品展)	平15.7.19～8.31	38	303
全国高等学校総合文化祭	平16.7.30～8.3	5	2,508
人形ウィーク	平17.8.20～8.28	8	1,824
ふれあい生きもの展	平18.3.25～3.26	2	555
子どもの絵	平18.4.29～5.7	8	3,341
愉快な森のコンサート	平18.5.5	1	950
日本古生物学会	平19.2.2～2.3	2	325
パラタクソノミスト養成講座	平19.2.17～2.18	2	26
第22回国民文化祭・とくしま2007	平19.10.27～11.4	9	71,244
「天正の落日と曙光-守護町勝瑞から城下町徳島へ-」(徳島城博物館)	平19.12.4～平20.1.27	41	4,021
夏休み人権セミナー「戦争とくらし」	平20.8.3	1	42
科学体験フェスティバルin徳島(徳島大学)	平20.8.9～8.10	2	1,192
2008年度鳴門史学会研究大会	平20.10.18	1	80
かんさい自然フェスタ2008(大阪市立自然史博物館)	平20.11.15～11.16	2	10,050
科学体験フェスティバルin徳島(徳島大学)	平21.8.8～8.9	2	1,212
スタジオジブリ・レイアウト展(21年度)	平22.2.20～3.31	34	33,618
スタジオジブリ・レイアウト展(22年度)	平22.4.1～4.18	16	25,113
軌跡-継続と蓄積-	平22.10.23～11.23	27	4,165
「四国遍路と地域文化」を考える	平23.2.5	1	53
鳥居ミュージアムトーク	平23.3.21	1	70
阿波踊りフェスタ「阿波踊りの絵はがき」	平23.7.20～8.28	36	4,038
科学体験フェスティバルin徳島(徳島大学)	平23.8.6～8.7	2	1,612
鳥居龍蔵の歩いたアジアの自然	平23.10.29～12.4	32	1,347
企画展「鳥居龍蔵の見た台湾」	平24.1.28～3.11	38	2,599
科学体験フェスティバルin徳島(徳島大学)	平24.8.4～8.5	2	1,772
鳥居ミュージアムトーク	平24.9.30	1	5
鳥居ミュージアムトーク	平24.11.25	1	27
特別陳列「鳥居龍蔵とアイヌ-北方のまなざし-」	平25.1.26～3.3	32	5,465
科学体験フェスティバルin徳島(徳島大学)	平25.8.3～8.4	2	1,751
特別講演「鳥居龍蔵が愛読した洋書-外国語・学問・文学-」	平25.8.30	1	50
MT.第1回「鳥居龍蔵の収集した絵はがきの世界」	平25.9.29	1	14
MT.第2回「鳥居龍蔵の沖縄調査に関わった人々」	平25.11.24	1	14
共催事業第63回四国中世史研究会	平25.12.22～12.23	2	47
MT.第3回「鳥居龍蔵の鹿児島調査」	平26.1.19	1	14
鳥居企画展「鳥居龍蔵の国内調査-沖縄・南九州-」	平26.1.25～3.2	32	1,753
第1回MT.「鳥居龍蔵の宮崎・鹿児島での古墳調査」	平26.6.15	1	9
第2回MT.「鳥居龍蔵の諏訪地方調査-諏訪市とその周辺調査について-」	平26.9.14	1	7
第3回MT.「鳥居龍蔵の伊那地方調査」	平27.11.23	1	18
第4回MT.「鳥居龍蔵の諏訪地方調査-岡谷市とその周辺調査について-」	平27.1.17	1	5
鳥居企画展「よみがえる縄文世界-鳥居龍蔵の信州調査-」	平27.1.24～3.1	32	2,827
第1回MT.「鳥居龍蔵の金海貝塚調査」	平27.6.14	1	11
科学体験フェスティバルin徳島(徳島大学)	平27.8.9～8.10	2	1,743
ufotable15周年展	平27.9.26～10.12	25	8,180
第2回MT.「鳥居龍蔵と仏教文化-中国・朝鮮・日本-」	平27.11.22	1	11
第3回MT.「鳥居龍蔵と黒潮文化-沖縄調査より-」	平28.1.17	1	26

鳥居企画展「鳥居龍蔵－世界に広がる知の遺産－」	平28. 1.23～ 2.28	32	1,831	第7回 セミナー「大正期の鳥居龍蔵と本山彦一」	令元.12.22	1	24
開館5周年記念講演会「鳥居龍蔵の再発見－国内外の視点から－」	平28. 2.21	1	199	第8回 セミナー「鳥居龍蔵と阿波の巨石物－川内村史を中心に－」	令 2. 1.19	1	33
科学体験フェスティバル in 徳島(徳島大学)	平28. 8. 6～ 8. 7	2	1,689	鳥居企画展「文化財調査の先覚者 鳥居龍蔵、徳島を探る」	令 2. 2. 8～3.15	32	1,481
第1回 MT.「鳥居龍蔵の研究ライフ－その方法と人的交流－」	平28. 6.12	1	15	令和元年度鳥居龍蔵記念 徳島歴史文化フォーラム	令 2. 2.16	1	76
第2回 MT.「鳥居龍蔵の出会った南米の史跡－ブラジルとペルーを中心に－」	平28. 9.25	1	10	第1回 セミナー「鳥居龍蔵と南方諸民族－異文化理解の試み－」	令 2. 9. 6	1	42
第3回 MT.「大正期の鳥居龍蔵と徳島－城山貝塚から勢見山「岩の鼻」へ－」	平28.11.13	1	24	第2回 セミナー「鳥居龍蔵のブラジル調査を振り返る」	令 2. 9.27	1	38
鳥居企画展「遙かなるマチュピチュ－鳥居龍蔵、南アメリカに行く－」	平29. 1.28～ 3. 5	32	2,905	第3回 セミナー「鳥居龍蔵の第5回台湾調査の意味するもの－明治末期の日本と台湾を考える－」	令 2.10.18	1	26
鳥居企画展 記念講演会「日本人によるアンデス考古学調査－鳥居龍蔵の思いを受けて－」	平29. 2. 5	1	51	第4回 セミナー「城山貝塚発掘の影響－住吉派画家・須木一胤の残した手帳から－」	令 2.11. 8	1	17
徳島歴史文化フォーラム	平29. 2.19	1	126	第5回 セミナー「西洋世界と鳥居龍蔵」	令 2.12.13	1	28
特別陳列「古代の彩り 徳島の朱」関連若杉山遺跡現地見学会	平29. 2.26	1	75	第6回 セミナー「武蔵野会の設立と東京府下の史跡保護運動」	令 3. 1.17	1	28
科学体験フェスティバル in 徳島(徳島大学)	平29. 8. 5～ 8. 6	2	1,444	鳥居企画展 「鳥居龍蔵の学問と世界」	令 3. 2.13～3.21	32	546
サイエンスフェア2017「おもしろ博士の実験室」ブース出展(あすたむらんど徳島)	平29.10.14～10.15	2	870	鳥居龍蔵記念 徳島歴史文化フォーラム	令 3. 2.21	1	90
第1回 セミナー「あるブラジル移民の見た鳥居龍蔵の調査」	平29. 6.18	1	14	鳥居龍蔵生誕150周年記念 国際シンポジウム「鳥居龍蔵と現代社会－その学問と資料の意義を問う－」	令 3. 3.21	1	100
第2回 セミナー「鳥居龍蔵、世界の巨石構造物を探る」	平29. 7.17	1	31	鳥居龍蔵記念 徳島歴史文化フォーラム	令 4. 2.26	1	50
第3回 セミナー「鳥居龍蔵のベストセラー『有史以前の日本』－日本人成立論をめぐる－」	平29. 9.18	1	28	鳥居企画展「鳥居龍蔵と草原の遊牧王朝 遼」	令 4. 2. 5～3.13	32	783
第4回 セミナー「鳥居龍蔵、南方を探る－日本人の起源を求めて－」	平29.11.11	1	21	鳥居企画展「鳥居龍蔵と草原の遊牧王朝 遼」記念講演会	令 4. 3.13	1	52
鳥居企画展「鳥居龍蔵 日本人の起源に迫る－本山彦一との交流－」	平30. 2.10～ 3.18	32	1,746	鳥居企画展「鳥居龍蔵をめぐる人々－世界に広がる学知のネットワーク－」	令 5. 2. 4～3.12	32	1,247
平成29年度鳥居龍蔵記念 徳島歴史文化フォーラム	平30. 2.18	1	146	鳥居龍蔵記念 徳島歴史文化フォーラム	令 5. 2.18	1	46
鳥居企画展 記念講演会「日本人はどこから来たのか？」	平30. 3. 4	1	160	記念講演会「鳥居龍蔵の教え子たち」	令 5. 3. 5	1	28
科学体験フェスティバル in 徳島(徳島大学)	平30. 8. 4～ 8. 5	2	1,522	合 計		761	217,192
サイエンスフェア2018「おもしろ博士の実験室」ブース出展(あすたむらんど徳島)	平30.11. 4	1	765				
第1回 セミナー「鳥居龍蔵の近畿調査－日本人起源論との関係で－」	平30. 6.17	1	20				
第2回 セミナー「明治時代から大正時代の自然人類学調査の一端－小金井良精の調査例から－」	平30. 7.16	1	20				
第3回 セミナー「鳥居龍蔵、郷里を駆ける」	平30. 9.17	1	35				
第4回 セミナー「鳥居龍蔵の小学校在学歴－自伝・卒業証書・履歴書を読む－」	平30.11.25	1	17				
鳥居企画展「鳥居龍蔵と小金井良精－日本人の起源を求めて－」	平31. 1.26～ 3. 3	32	1,830				
平成30年度鳥居龍蔵記念 徳島歴史文化フォーラム	平31. 2.17	1	86				
鳥居企画展 記念講演会「骨が語る日本人の歴史」	平31. 2.24	1	75				
科学体験フェスティバル in 徳島(徳島大学)	令元. 8. 3～ 8. 4	2	1,764				
サイエンスフェア2019「おもしろ博士の実験室」ブース出展(あすたむらんど徳島)	令元.11. 4	1	709				
第1回 セミナー「鳥居龍蔵と小金井良精－城山貝塚の調査をめぐる－」	令元. 6.16	1	35				
第2回 セミナー「鳥居龍蔵と大洲巨石調査を検証する－当館所蔵の資料より」	令元. 7.28	1	35				
第3回 セミナー「龍蔵にとって城山貝塚は何だったのか」	令元. 8.25	1	36				
第4回 セミナー「日本考古学史上における鳥居龍蔵の再評価－国内評価・研究を通して」	令元. 9.16	1	33				
第5回 セミナー「鳥居龍蔵の近畿調査」	令元.10.14	1	28				
第6回 セミナー「鳥居龍蔵の未刊原稿群とその周辺－中国からの引き揚げリストをめぐる－」	令元.11.24	1	25				

XI 施設の概要

1. 沿革

昭和 34 年 12 月	旧博物館（徳島県博物館）設置及び開館 （旧博物館に関する沿革は「徳島県博物館 30 年史」参照）
昭和 55 年 1 月	文化の森構想発表
4 月	置県百年記念文化施設等整備基金設置
昭和 56 年 2 月	文化の森懇話会報告書提出
昭和 57 年 3 月	文化の森建設地を徳島市八万町向寺山及び寺山に決定
12 月	博物館基本構想検討委員会を設置
昭和 58 年 3 月	文化の森総合公園を都市計画決定
昭和 59 年 1 月	博物館基本構想検討委員会が「徳島県立博物館基本構想報告書」を知事に提出
4 月	美術品等取得基金設置
5 月	博物館資料収集展示委員会を設置
昭和 60 年 8 月	文化の森総合公園起工式挙行、基盤整備工事に着手 徳島県とアルゼンチン共和国プラタ大学との相互贈与に関する合意書締結
昭和 61 年 3 月	文化の森の各文化施設基本設計（文書館を除く）及び博物館展示基本設計完了
昭和 62 年 3 月	各文化施設実施設計及び博物館展示実施設計完了
8 月	各文化施設（文書館を除く）建設工事着手
昭和 63 年 7 月	博物館展示工事着手
平成元年 4 月	旧博物館展示室閉室
12 月	博物館・近代美術館・二十一世紀館棟本体工事竣工
平成 2 年 3 月	旧博物館閉鎖
4 月	文化の森総合公園文化施設条例施行により、博物館（徳島県立博物館）及び博物館協議会設置
10 月	博物館展示工事竣工
11 月	文化の森総合公園開園、博物館開館
平成 3 年 2 月	博物館資料収集委員会設置
平成 4 年 3 月	日本育英会の第一種学資金の返還を免除される職を置く研究所等に指定される
平成 4 年 9 月	博物館観覧料減免要綱の一部改正により、小・中学生及び高校生の第 2 土曜日における常設展観覧料を免除
平成 5 年 3 月	徳島県教育委員会の博物館登録原簿に変更登録（旧博物館の登録 [昭和 35.6] を変更）
平成 7 年 4 月	博物館観覧料減免要綱の一部改正により、小・中学生及び高校生の第 4 土曜日における常設展観覧料を免除
平成 7 年 7 月～8 年 3 月	文化の森総合公園開園 5 周年記念事業「戦後 50 年をみつめて」を実施。博物館では、企画展「戦争から豊かな未来へ」を開催。また、博物館独自に開館 5 周年記念事業を実施
平成 8 年 4 月	博物館管理規則の一部改正により、全祝日・休日の開館を実施。また、博物館観覧料減免要綱の一部改正により、祝日・休日における常設展観覧料を免除
平成 8 年 12 月	重要文化財公開承認施設に認定される（5 年毎更新）
平成 12 年 10 月～11 月	文化の森総合公園開園 10 周年記念企画展「世紀末大博覧会」を開催

平成 14 年 4 月	博物館観覧料減免要綱の一部改正により、小・中学生及び高校生の土・日曜日、長期休業日における常設展・企画展観覧料、祝日・休日における企画展観覧料を免除。また、学校教育に係る企画展観覧料を免除
平成 15 年 7 月	科学研究費補助金の申請を行うことができる学術研究機関に指定される
平成 17 年 10 月～11 月	文化の森総合公園開園 15 周年記念企画展「ふるさと再発見—15 の人・もの・場所—」を開催
平成 22 年 4 月～23 年 3 月	文化の森総合公園開園 20 周年記念事業を実施。中核事業は、開園 20 周年記念展「軌跡—継続と蓄積—」や「文化の森サマーフェスティバル」「文化の森 大秋祭り!!」。博物館常設展示室の「リフレッシュ事業」を実施（一部の中・小テーマの更新など）
平成 24 年 9 月	博物館観覧料減免要綱の一部改正により、満 65 歳以上の高齢者の常設展観覧料を免除。また、身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳被交付者と介助者 1 名の常設展・企画展観覧料を免除
平成 25 年 3 月	博物館管理規則の一部改正により、12 月 28 日の開館を実施
平成 27 年 4 月～28 年 3 月	文化の森総合公園開園 25 周年記念事業「ヒトガタをめぐる冒険」を実施。博物館では、企画展「阿波木偶箱まわりの世界—門付け、大道芸」などを開催。また、同じく記念事業「安全安心のモデル事業」の一環として、博物館常設展示室のフレッシュアップ（サインやパネルの更新、多言語解説の導入など）、収蔵庫の耐震対策を実施
平成 30 年 7 月	新常設展基本構想策定
平成 31 年 4 月	新常設展実施設計
～令和元年 10 月	
令和 2 年 3 月	新常設展構築業務着手
令和 2 年 4 月	教育委員会から知事部局に移管
令和 2 年 8 月	常設展示室閉室
令和 2 年 11 月	文化の森開園 30 周年記念共同企画展「文化遺産を後世に伝える—とくしまデジタルアーカイブ—」を開催
令和 3 年 7 月	新常設展構築業務完了
令和 3 年 8 月	新常設展オープン

2. 施設の概要

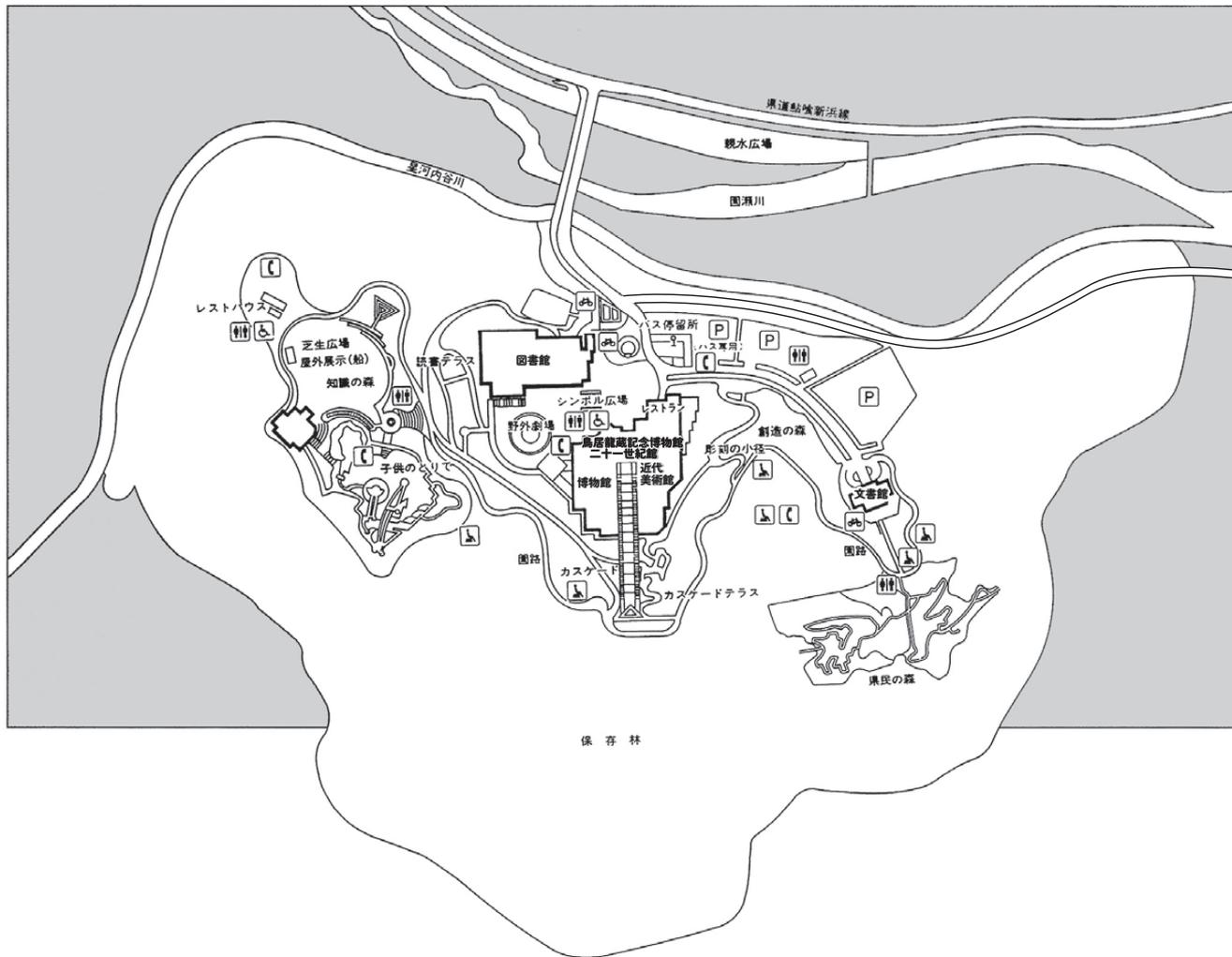
●所在地	徳島市八万町向寺山
●敷地面積	40.6ha（文化の森総合公園全体）
●建築面積	8,363㎡（4 館棟）
●延床面積	22,382㎡（4 館合計—積層部分を含めると 23,814㎡） 8,063㎡（博物館占用スペース）
●構造規模	鉄筋鉄骨コンクリート造 地上 4 階・塔屋 1 階・地下 1 階
●設計	(株)佐藤武夫設計事務所・(株)日建設計・(株)環境建築研究所 共同企業体
●施工	
建築	大成建設・フジタ工業・不動建設・熊谷組・間組 共同企業体
電気	四国電気工業・近畿電気工事 共同企業体
空調	東洋熱工業・三機工業・ナミレイ 共同企業体
管	朝日工業社・大成設備 共同企業体
エレベータ	(株)東芝
家具	富士ファニチア(株)
移動展示ケース	(株)三井

展 示…………… (株)丹青社

●新常設展

基本・実施設計…………… (株)乃村工藝社

展示製作…………… (株)乃村工藝社



3. 博物館各室面積

1 階	
室名	面積㎡
企画展示室	325
同上準備室	46
地学収蔵庫	186
考古収蔵庫	361
一時保管庫	89
倉庫	135
冷凍室	19
石工室	41
その他共用部分※	771
小計	1,973

2 階	
室名	面積㎡
常設展示室	2,495
①ロビーゾーン	317
②コミュニケーションゾーン	210
③徳島セクション	1,241
④コレクションセクション (自然史・歴史・文化・県民)	226
⑤地球セクション	501
エレベーターホール	20
その他共用部分※	442
小計	2,957

屋 1 階	
室名	面積㎡
その他共用部分※	39
小計	39

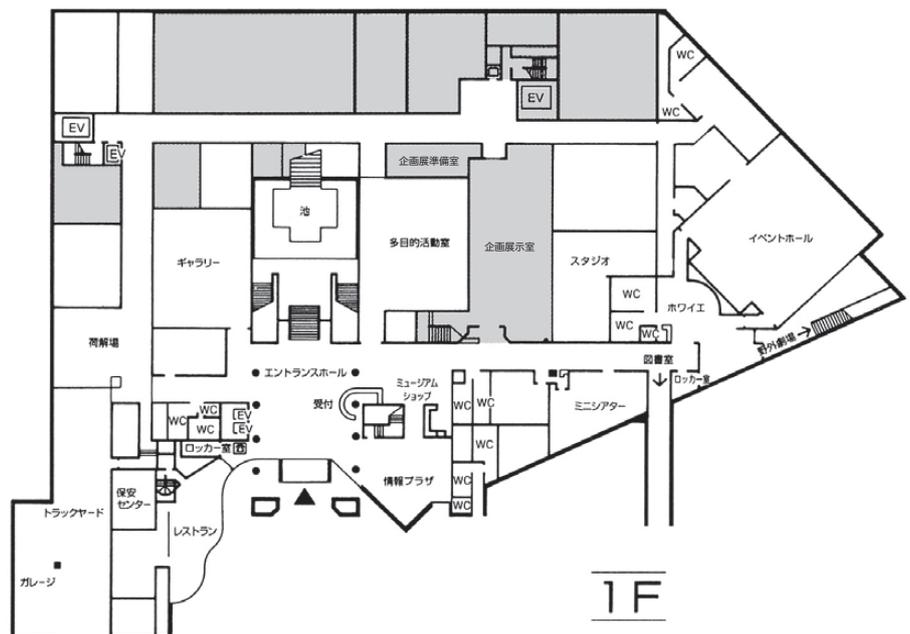
合 計	
8,063㎡	

※は荷解場、廊下、便所、空調機械室など共用部分の、美術館及び二十一世紀館との案分面積。

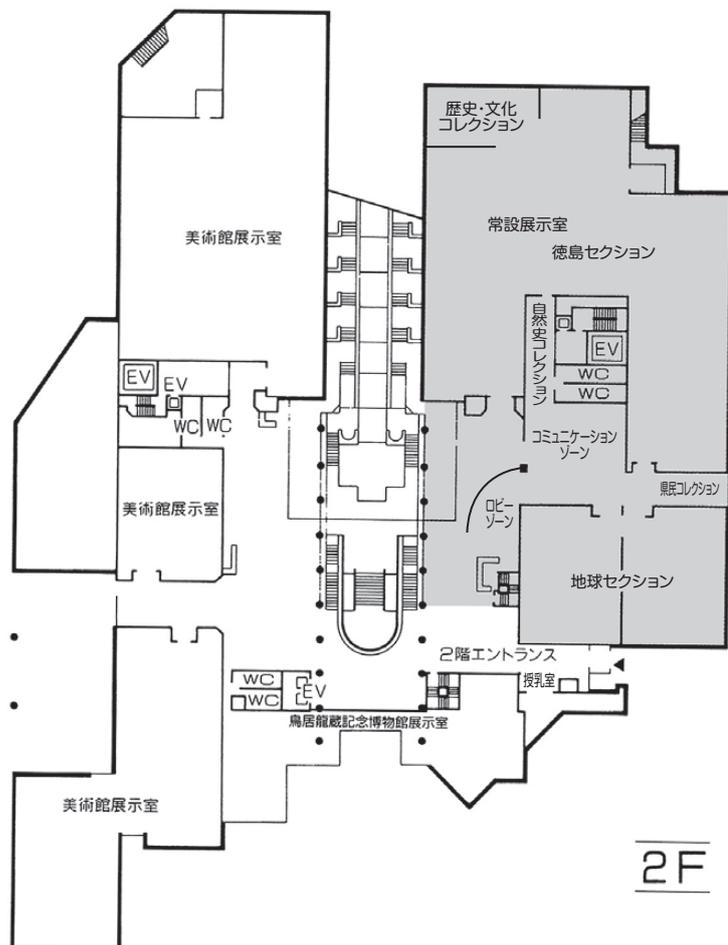
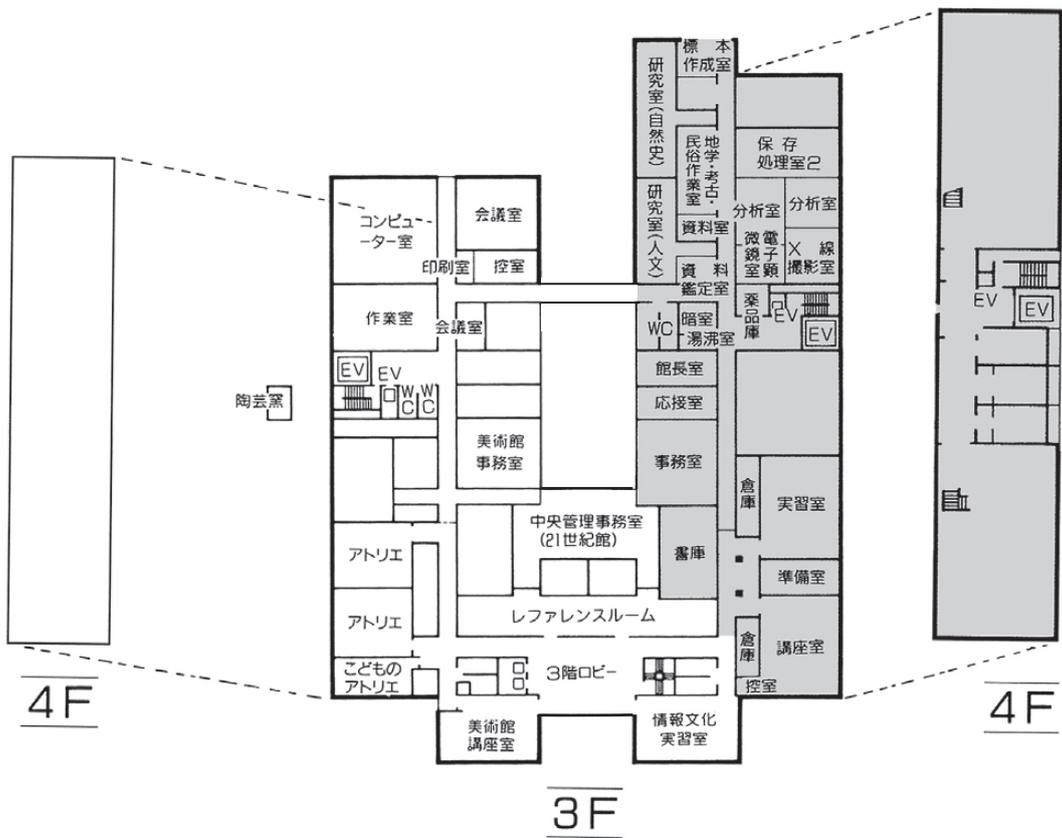
3 階	
室名	面積㎡
暗室	23
倉庫	21
倉庫	15
エレベーターホール	37
湯沸室	12
講座室	123
実習室	146
実習・講座準備室	34
レファレンスルーム	81
館長室	53
応接室	21
事務室	133
研究室(自然史)	106
生物標本作成室	28
飼育室	21
研究室(人文)	80
地学考古民俗作業室	64
分析室1	64
分析室2	48
X線撮影室	48
保存処理室2	100
薬品庫	22
資料鑑定室	22
生物液浸収蔵庫	100
電子顕微鏡室	30
書庫	97
資料室	20
書類保管庫	35
その他共用部分※	468
小計	2,052

4 階	
室名	面積㎡
エレベーターホール	45
特別収蔵庫1	37
特別収蔵庫2	37
馴化室	35
歴史民俗収蔵庫	357
生物収蔵庫	380
その他共用部分※	151
小計	1,042

博物館占用スペース



1F



XII 例 規

●徳島県文化の森総合公園文化施設条例（抜粋）

制 定 平成2年3月26日 徳島県条例第11号

最近改正 令和4年3月18日 徳島県条例第10号

（設置）

第1条 個性豊かな県民文化を振興し、魅力のある地域づくりに寄与するため、県民の文化活動の拠点として、徳島県文化の森総合公園文化施設（以下「文化施設」という。）を徳島市八万町に設置する。

（名称及び業務）

第2条 文化施設の名称及び業務は、次のとおりとする。

名 称	業 務
徳島県立博物館 （以下「博物館」という。）	(1) 考古、歴史、民俗、美術工芸、動物、植物及び地学に関する実物、標本、模型、文献、写真その他の資料（鳥居龍蔵に関する資料を除く。以下「博物館資料」という。）を収集し、保管し、及び展示すること。 (2) 博物館資料に関する調査研究を行うこと。 (3) 博物館資料に関する観察会、講座などの教育普及事業を行うこと。 (4) 考古、歴史、民俗、美術工芸、動物、植物及び地学に関する講座等の文化活動のために博物館講座室を利用に供すること。 (5) その他博物館の設置の目的を達成するために必要な事業を実施すること。

（利用の許可）

第3条 次の表に掲げる文化施設の施設又は用具を利用しようとする者は、あらかじめ、知事の許可（以下「利用の許可」という。）を受けなければならない。

区 分	施設又は用具
博 物 館	博物館講座室
図 書 館 博 物 館 美 術 館 二十一世紀館	情報通信技術を活用した集会等のための用具

（観覧料等）

第4条 博物館が展示する博物館資料、美術館が展示する美術館資料又は鳥居記念館が展示する鳥居記念館資料を観覧する者に対しては、別表第1に掲げる額の観覧料を徴収する。

2 利用の許可を受けた者に対しては、別表第2に掲げる額の使用料を徴収する。

3 知事は、特別の理由があると認めるときは、観覧料又は使用料の全額又は一部を免除することができる。

4 観覧料及び使用料の徴収の時期及び方法その他観覧料及び使用料に関し必要な事項は、規則で定める。

（損害の賠償）

第5条 文化施設を利用する者は、文化施設の施設、資料等をき損し又は亡失したときは、これによって生じた損

害を賠償しなければならない。ただし、知事は、当該き損又は亡失がやむを得ない理由によるものであると認めるときは、その賠償責任の全部又は一部を免除することができる。

(職員)

第6条 図書館法（昭和25年法律第118号）及び博物館法（昭和26年法律第285号）に定めるもののほか、文化施設に、館長その他必要な職員を置く。

(協議会)

第7条 知事の附属機関として、次の表の上欄に掲げる協議会を置き、これらの協議会の所掌事務は、それぞれ同表の下欄に掲げるとおりとする。

協議会の名称	所掌事務
徳島県立博物館協議会	博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べること。

2 協議会は、委員10人以内で組織する。

3 徳島県立図書館協議会、徳島県立博物館協議会、徳島県立近代美術館協議会及び徳島県立鳥居龍蔵記念博物館協議会の委員は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者のうちから任命するものとする。

4 (省略)

5 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

6 委員は、再任されることができる。

7 前各項に定めるもののほか、協議会の組織及び運営に関し必要な事項は、規則で定める。

(規則への委任)

第8条 この条例に定めるもののほか、文化施設の管理に関し必要な事項は、規則で定める。

別表第1（第4条関係）

区 分	単 位	金 額			
		常 設 展		企 画 展	
		個 人	団体（20人以上をいう。以下同じ）	個 人	団 体
博物館資料	小・中学生	1人1回	100円	80円	知事はその都度定める額
	高校・大学生等	1人1回	200円	160円	
	一 般	1人1回	400円	320円	

(備考)

「小・中学生」とは小学校の児童及び中学校の生徒並びにこれらに準ずる者を、「高校・大学生等」とは高等学校の生徒並びに高等専門学校及び大学の学生並びにこれらに準ずる者を、「一般」とは小・中学生及び高校・大学生等以外の者（学齢に達しない者を除く。）をいう。

別表第2（第4条関係）

区 分	単 位	金 額
博物館講座室	午 前	2,200円
	午 後	3,550円
音響、照明等及び情報通信技術を活用した集会等のための用具	午前、午後又は夜間（集会室1、集会室2、博物館講座室にあっては、午前又は午後）	規定で定める額

(備考)

- 1 「午前」とは午前9時30分から正午までを、「午後」とは午後1時から午後5時までを、「夜間」とは午後6時から午後9時までをいう。
- 2 午前から午後まで、午後から夜間まで又は午前から夜間まで引き続き利用する場合の使用料の額は、この表の区分に応じたそれぞれの使用料の額を加えて得た額とする。
- 3 営利又は営業のための宣伝その他これらに類する目的で利用する場合の集会室1、集会室2、博物館講座室、ギャラリー、美術館講座室、イベントホール、多目的活動室、ミニシアター、スタジオ、ミーティングルーム又は野外劇場の使用料の額は、この表及び前項の規定にかかわらず、同表の区分に応じた使用料の額又は同項の規定により算出した使用料の額に百分の五百を乗じて得た額とする。

●徳島県立博物館管理規則

制 定 令和2年3月24日 徳島県規則第46号
最近改正 令和4年3月18日 徳島県規則第7号

(趣旨)

第1条 この規則は、徳島県立博物館（以下「博物館」という。）の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

(休館日)

第2条 博物館の休館日は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 月曜日 ただし、その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（以下「休日」という。）に当たるときは、その後においてその日に最も近い休日でない日
- (2) 12月29日から翌年の1月4日までの日
- 2 知事は、特に必要があると認めるときは、前項の規定にかかわらず臨時に休館し、又は同項に規定する休館日に開館することができる。

(供用時間)

第3条 博物館の供用時間は、午前9時30分から午後5時までとする。

- 2 知事は、特に必要があると認めるときは、前項の規定にかかわらず、同項に規定する供用時間を変更することができる。

(用具)

第4条 博物館の情報通信技術を活用した集会等のための用具は、別表のとおりとする。

(利用の許可の申請等)

第5条 徳島県文化の森総合公園文化施設条例（平成2年徳島県条例第11号。以下「条例」という。）第3条の許可（以下「利用の許可」という。）を受けようとする者は、徳島県立博物館講座室利用許可申請書（別記様式）を知事に提出しなければならない。

- 2 前項の申請書は、利用しようとする日（その日が引き続き2日以上に及ぶときは、その初日。）の前日から起算して3月前の日以後に提出するものとする。ただし、知事が相当の理由があると認めるときは、この限りでない。
- 3 知事は、次の各号のいずれかに該当するときは、利用の許可をしないものとする。
 - (1) 公の秩序を乱し、又は善良な風俗を害するおそれがあると認められるとき。
 - (2) その他博物館の管理上支障があると認められるとき。

(利用の許可等の通知)

第6条 知事は、前条第一項の申請書を受理したときは、利用の許可をするかどうかを決定し、その旨を当該申請者に通知するものとする。

(利用の許可の取消し等)

第7条 知事は、次の各号のいずれかに該当するときは、当該利用の許可を取り消し、又は施設の利用の中止を命ずることができる。

- (1) 第5条第3項各号のいずれかに該当する理由が生じたとき。
- (2) 利用の許可を受けた者（以下「利用者」という。）が利用の許可に付した条件に違反したとき。

(3) 利用者が偽りその他不正な手段により利用の許可を受けた事実が明らかとなったとき。

(4) 利用者が条例又はこの規則の規定に違反したとき。

(利用の内容の変更等)

第8条 利用者は、施設を利用できなくなったとき、又は利用の許可の内容を変更して施設を利用しようとするときは、直ちにその旨を文書で知事に届け出なければならない。

(遵守事項)

第9条 博物館を利用する者は、徳島県文化の森総合公園文化施設条例（平成2年徳島県条例第11号）及びこの規則並びに知事が別に定める利用者心得その他の規律を守らなければならない。

(入館の禁止等)

第10条 知事は、次の各号のいずれかに該当するときは、入館を禁止し、又は退館を命ずることができる。

(1) 泥酔者及び伝染性の疾病にかかっていると認められる者

(2) 前条の規定に違反し、又はそのおそれがある者

(資料の特別利用)

第11条 学術その他の目的のために博物館資料の撮影、模写等をしようとする者は、あらかじめ、知事の承認を受けなければならない。

(補則)

第12条 この規則に定めるもののほか、博物館の管理に関し必要な事項は、知事が定める。

別表（第4条関係）

- | | |
|---|--------------|
| 1 | プロジェクター |
| 2 | パーソナルコンピューター |
| 3 | タブレット |
| 4 | ウェブカメラ |
| 5 | マイクスピーカー |
| 6 | ディスプレイ |

別記様式 省略

●徳島県立博物館協議会規則

制 定 令和2年3月24日 徳島県規則第40号

(趣旨)

第1条 この規則は、徳島県文化の森総合公園文化施設条例（平成2年徳島県条例第11号）第7条第7項の規定に基づき、徳島県立博物館協議会（以下「協議会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(会長及び副会長)

第2条 協議会に、会長及び副会長1人を置く。

2 会長及び副会長は、委員の互選によって定める。

3 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第3条 協議会の会議は、会長が招集する。

2 協議会の会議は、委員の半数以上の出席がなければ、開くことができない。

3 協議会の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

(雑則)

第4条 この規則に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

●徳島県行政組織規則（抜粋）

制 定 昭和42年3月28日 徳島県規則第15号
最近改正 令和5年5月31日 徳島県規則第31号

第1章 総 則（省略）

第2章 事務部局（省略）

第3節 センター等

第1款 設置等

（法令又は条例の規定により設置されたセンター等の名称等）

第34条 前条第1項に規定する機関のほか、次の表の上欄に掲げる部及び局に、それぞれ同表の下欄に掲げる機関を設置する。

部及び局	機 関		
	名 称	設置の目的又は根拠法令	位 置
未来創生文化部	徳島県文化の森振興センター	徳島県文化の森総合公園文化施設の運営を総合的に推進するため	徳島市八万町

2 次の表の上欄に掲げる機関については、それぞれ同表の下欄に掲げる法令又は条例の規定により設置された機関を当該上欄に掲げる機関を構成する機関とする。

機 関	法令又は条例の規定により設置された機関		
	名 称	位 置	所管区域
徳島県文化の森振興センター	徳島県立博物館（以下「博物館」という。）	徳島市八万町	

第2款 内部組織及び分掌事務

（分掌事務）

第36条 センター等の分掌事務は、別表第6に掲げるとおりとする。

第3款 職及び職務

（所長）

第38条 センター等に所長（（省略）図書館、博物館、美術館、文書館、二十一世紀館、鳥居記念館（省略）にあつてはそれぞれの機関の名称を冠した長（省略）。以下この款において「所長」という。）を置く。

2 所長は、上司の命を受け、当該機関の事務をつかさどり、所属職員を指揮監督する。

（副所長等）

第39条 前条に規定する職のほか、次の表の上欄に掲げる職をそれぞれ同表の下欄に掲げる機関に置く。

職	機 関
副 館 長	(1)図書館 (2)博物館 (3)美術館 (4)文書館 (5)二十一世紀館 (6)鳥居記念館

2 副所長、副校長、副館長及び副課長の職務は、上司の命を受け、所長を補佐するものとする。

（主幹等）

第41条 前3条に規定する職のほか、必要と認めるときは、次の表の上欄に掲げる職をセンター等又はセンター内課等に置き、その職務は、それぞれ同表の下欄に掲げるとおりとする。

職	職 務
課 長	上司の命を受け、センター等の重要施策又は重要事業の推進に関する事務又は試験研究のうち高度の知識又は経験を必要とするものを処理する。

課長補佐	上司の命を受け、センター等又はセンター内課等の重要施策又は重要事業の推進に関する事務に従事する。
上席学芸員	上司の命を受け、博物館、美術館又は鳥居記念館の重要施策又は重要事業の推進に関する資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これらと関連する業務に従事する。
主査	上司の命を受け、高度の知識又は経験を必要とする事務に従事する。
専門学芸員	上司の命を受け、高度の知識又は経験を必要とする資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これらと関連する業務に従事する。
係長	上司の命を受け、センター等又はセンター内課等の事務に関し命ぜられた事項を処理する。
学芸係長	上司の命を受け、博物館、美術館又は鳥居記念館の資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これらと関連する業務に従事する。
主席	上司の命を受け、特に命ぜられた相当の知識又は経験を必要とする事務に従事する。
主任	上司の命を受け、相当の知識又は経験を必要とする事務又は試験研究の業務に従事する。

(主任主事等)

第42条 前38条から前条までに規定する職のほか、センター等又はセンター内課等に、別表第4の上欄に掲げる職のうち必要な職を置き、その職務は、それぞれ同表の下欄に掲げるとおりとする。

第3章 附属機関〔博物館に關係する内容のみ〕

第57条 附属機関の名称及び庶務を担当する組織は、別表第8に掲げるとおりとする。

別表第4 主任主事等の職及び職務

職	職務
主任主事	上司の命を受け、相当の経験を必要とする事務に従事する。
主事	上司の命を受け、事務に従事する。
主任学芸員	上司の命を受け、相当の経験を必要とする博物館、美術館又は鳥居記念館の資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これらと関連する業務に従事する。
学芸員	上司の命を受け、博物館、美術館又は鳥居記念館の資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これらと関連する業務に従事する。

別表第6 センター等の分掌事務

センター等	分掌事務
博物館	(1)考古、歴史、民俗、美術工芸、動物、植物及び地学に関する実物、標本、模型、文献、写真その他の資料（鳥居龍蔵に関する資料を除く。以下「博物館資料」という。）を収集し、保管し、及び展示すること。 (2)博物館資料に関する調査研究を行うこと。 (3)博物館資料に関する観察会、講座等の教育普及事業を行うこと。 (4)考古、歴史、民俗、美術工芸、動物、植物及び地学に関する講座等の文化活動のために博物館講座室を利用に供すること。 (5)その他博物館の設置の目的を達成するために必要な事業を実施すること。

別表第8 附属機関の名称及び庶務を担当する組織

	名称	庶務を担当する組織
70	徳島県立博物館協議会	博物館

徳島県立博物館年報 第32号（令和4年度）

令和5（2023）年8月31日 発行

編集・発行：徳島県立博物館

〒770-8070 徳島市八万町向寺山

（文化の森総合公園）

TEL (088) 668-3636 FAX (088) 668-7197

E-mail museum@bunmori.tokushima.jp

ホームページ <https://museum.bunmori.tokushima.jp>

印 刷：星印刷株式会社
